



サクラが満開になるといことは、いよいよバスのスポーツング本番ということですね。4月5日現在、南湖の水温が広い範囲で15度を越えていて、シャローエリアでは18度前後になっている所もあります。スポーツングを意識したバスの姿が浅い所で見え始めてもおかしくない時期です。

上の右の写真はリプレフィッシングガイドの川畑文哉プロが3月28日にキャッチした80cmのコイ、左はジャックルの加藤誠司プロが3月31日にキャッチした77cmのヘラブナです。どちらも見事な大物なんですけど、特に50cm近いヘラブナというのはヘラブナの大物を専門に狙っていてもなかなか釣れない一生ものと言ってもいいサイズです。バスフィッシングのルアーにこういう外道がヒットしてくるのも春の琵琶湖の特徴なんですよね。

4月5日は南湖で「Bマススターズ琵琶湖戦」が開催されて、多くのビッグバスがキャッチされています。30cm以上5尾のリミットをそろえたのは参加約400人中7人、ノーフィッシュが約半分という難しいトーナメント初日だったんですけど、大きなバスに限ると45〜55cmクラスはぜんぜんめずらしくない状況です。その中には1尾で3800g台というスコアを記録した選手が2人もいます。

このサイズの大物は、琵琶湖ガイド情報の杉戸繁伸プロがすでに

HOT NEWS

琵琶湖ホット情報

杉戸繁伸プロが60cm、4160gの超ビッグバスをキャッチ
琵琶湖ホット情報(2002/04/01)

リプレフィッシングガイドの杉戸繁伸プロが3月30日に滋賀県琵琶湖で昼からの半日ガイド中に60cm、4160gのビッグバスをキャッチしました。

ゲストとともにキャッチした3尾のバスのうち、杉戸プロが60cm、550g(2480g)、ゲストが45cm(1500g)と合計8kgオーバーというすごい成績です。ヒットルアーは60cm、1.8gのジグヘッド、50cmはスピナーベイトのBカスタムでした。

これ、エープリルフルで言ってるんじゃないですかね。本当ですよ。



琵琶湖南湖は春まつ盛り。超ビッグバスのチャンス!?

琵琶湖ホット情報(2002/04/05)

琵琶湖大橋米ブラザのサクラ、満開です。真野川のサクラ並木も満開です。3月末からの冷え込みで、ちょっと足踏みしたんですけど、琵琶湖南部周辺のサクラは例年より約1週間早く満開になりました。

3月30日に60cm、410gをキャッチして喜んで、こんなビッグバスがトーナメントで何尾もキャッチされるといのはすごいことです。

それと、上位陣にサイトフィッシングが得意な選手が多いのも特徴的です。これって、浅い所へスポーニングに来てる超ビッグバスを狙うなら今がチャンスだということかも知れませんが、と言っても、田のトッププロだから釣れるということもあるんでしょうけど。まさにそういうバスとタイミングで今週、来週の2週連続で開催される田プロトーナメントだけに、現在の琵琶湖のバスフィッシングがどれぐらいのポテンシャルを持っているかを観察するにはよい機会なんじゃないでしょうか。

春の琵琶湖の定番ポイント名鉄沖から3日連続写真中継

Vol.1 JB戦のプラクティス艇は思ったほど多くないぞ!! 琵琶湖ホット情報(2002/04/11)

左ページの写真は琵琶湖南湖の超有名ポイント、名鉄沖です。4月11日午前10時頃に撮影したもので、ちょうど田トップマスターズ戦のプラクティスの真つ最中です。名鉄のシャローは春の定番ポイントだけに、さすがにたくさんさんのボートが集まっています。

このとき、天神川尻から造船所までの範囲の沖に8隻ぐらいのボートがいました。さらに遠くに見える浮御堂沖にもたくさんさんのボートがいるんですけど、田トーナメントの参加艇は何100隻の単位ですから、これでもごく一部です。釣りをしているのを見てても、スペース的

にまだ余裕がある感じがします。まあ、今日はプラクティスですから、名鉄沖ではかり釣つてるわけにはいかないということがあるのかもかもしれません。

それと、ほかのボートはもつと南寄りの西サイドのシャローエリアにたくさん集まっているんじゃないでしょうか。1週間前の田琵琶湖マスターズ戦のウイニングパターンは、翌週にもトーナメントがあるため表彰式では詳しく報告されなかつたんですけど、全般的な傾向ではそういうことでした。今週はずつといい天気が続いているだけに、東岸のシャローエリアも気になるんですけど、ビッグウエイトを出す爆発力ではやはり西岸に分があります。そのあたりのウエイトの見極めが、今回のトーナメントでは勝負どころになるかもしれませんね。

この写真を撮影したポイントは、ちょっとした公園になつてて駐車場もあります。ここから今日、明日、明後日の3日間、だいたい同じ時刻に写真を撮って皆さんにこちらに送りたいと思います。トーナメント本番は、ボートが増えるでしょうか、減つてでしょうか。土曜日はプレイヤーのボートがどれぐらい割り込んでくるでしょうか。ご自分の目で確かめたい方は、天神川尻へ行ってみてください。もしアシ原にバスが入っていれば岸からでも狙えますから、釣りながらトーナメント観戦もできますよ。



場所は、国道161号の天神川南側の信号から川沿いの道に入り、途中の橋を渡って左岸沿いの道を琵琶湖に突き当たるまで進んだ所です。午前10時頃においてになれば、BBC服部もいるかもしれませんよ。

Vol.2 名鉄のシャローエリアにJB戦のボートがびっく

琵琶湖ホット情報 (2002/04/12)

滋賀県琵琶湖周辺は4月11日の夕方ごろから雨になりました。夜の間はけっこうしつかり降ってたんですけど、朝には止んで、翌12日は風もなく穏やかないい天気になりました。そこそこまとまった雨だったようで、ここ3日ほど下がり続けてた水位が、12日の朝には前日より2cm上昇してました。

名鉄のシャローはボートでいっぱいです。12日午前10時に見に行ったときには、天神川尻の公園裏のアシ原から造船所にかけての岸沿いに約30隻のボートがいました。それも、岸沿いに二重、三重に並んでる感じです。前日のプラクティスのときは沖側にもボートがいたんですけど、トーナメント本番になって、ほとんど全部が岸側へ寄ってきてます。これっ



て、プラクティスのときは沖側も一応チェックしてたけど、トーナメント本番は沖側を見切って、みんなが岸側へ入ってきてるってことなんですよ。つまり、これがプラクティスとトーナメント本番の違いっていうやつです。

さて、明日の名鉄沖はどんなことになってるでしょうか、このボート密度ですから、とても簡単に釣れるとは思えないんですけど、もしこの中の誰かでも釣ったら、明日はもっとボートが多くなるかもしれません。反対に、バスが釣れてなかったら急に誰もいなくなるということも考えられます。それと、明日は土曜日ですから、フライベーターのボートもどっと出てくるはずですよ。名鉄沖の大混雑がさらにひどいことになるのか……。これって、端で見てるからこんなこと言ってるけれど、釣りをしてる人達はいへんではないですよ。

Vol.3 フライベーターも加わって益々大にぎわい

琵琶湖ホット情報 (2002/04/13)

4月12日のJBトーナメント初日はめちゃくちゃ釣れてますねえ。トップがバス5尾で11495g、17位までが8kgを超えるウエイトだったんですから、これってとんでもない釣れ方です。Bassingかわら版でおなじみのメンバーでは、杉戸繁伸プロが8275gで14位、三村和弘プロが6010gで33位、加藤誠司プロが5660gで40位、河畑文哉プロが5195gで58位入ってます。だけど、がんばって釣ってきた割に順位は予想外だったんですよ。

「5kg釣って40位じゃ、やっつけられないよ。今日はもう、帰って寝るわ」と言っていて、さっさとジャッカル琵琶湖研究所から引き上げた加藤プロの言葉がすべてを物語ってます。杉戸



プロなんか8kg以上釣って、もしかしたらトップ、悪くても5位以内は間違いないと思いつつ帰ってきたんじゃないでしょうか。どうなるかは2日目の成績次第なんですけど、レポートが楽しみですな。

それと、1週間前の「E」戦初日にバスを釣った選手が約半分弱だったのにくらべて、この日は約80%が釣ってます。これは簡単に言えば、どこでも釣れてることです。3日ほど下がり続けてた水位が、11日の夕方からの雨で2cm上昇したのがよかつたんでしょうか。それにしても、ものすごい釣れ方ですから、2日目も続くのかどうかがとても気になるところです。

12日午前10時の名鉄沖は、天神川尻から造船所までのエリアの沖に約40隻のボートがいました。その内、約3分の2が「B」戦のボートで、約3分の1がフライベーターです。ボートの位置は前日にくらべると明らかに沖に散っていて、岸近くにベッターくっ付いているボートは少なくなっています。それと、川尻近くで釣りをしているボートが増えてるんですけど、これは川尻の沖にあるエリの根元がトーナメントの規制エリアにかかるため、ほとんどトーナメンターばかりだ

つた前日は誰も釣りをしてなかったからです。

名鉄沖の様子を見てから、南湖の西岸沿いに国道「61号」を走ったんですけど、春の定番ポイントはいたいどこもボートがたくさん浮かんでました。中でも多かったのは、雄琴沖、オバケワンド、井筒マリーナ沖、自衛隊沖、浜大津沖などです。ただし、広い範囲にボートが散っているので、多いと言っても密集状態と言っただけではありません。

井筒マリーナ沖はけっこうたくさんさんのボートが岸近くからかなり沖までの広い範囲に散らばって浮いていました。岸際のアシ原まわりでのサイトフィッシングだけでなく、沖のウインドエリアでバイブレーションプラグやクラシクベイト、スピナーベイトなどを使ったアングラーもいいサイズのバスを釣ってるんですね。それと、南湖西岸だけでなく、東岸の赤野井、木浜などのシャローエリアや沖のウインドエリアでも大きなバスが釣れてるようです。

岸とボートから挟み撃ちのシャロー合戦が続く南湖

琵琶湖ホット情報(2002/04/19)

下の写真は4月19日午前11時過ぎの名鉄裏です。名鉄沖ではなくて、ボートが全部岸にくっ付いて釣りをしていますから



名鉄裏です。先週末のトーナメントのときは、もつとたくさんのボートがひしめき合ってたんですけど、平日はこんなもんです。トーナメントのときみたいに、やや沖寄りでの釣りをするボートがいなくなってるのは、ボートが少ない分、沖へ逃げる必要がないからかもしれません。それとも、17日に強い雨が降って水位が^{com}近くも一気に上昇したために、再びバスがシャローに上がってきてるからなのでしょう。

この日は岸釣りアングラーも目立ちました。天神川尻の公園裏だけで、5、6人が釣りをしていました。中には、ウエイダーを履いてアシ原に立ち込んで、真剣にスポーニングベッドを探してるアングラーもいました。これって、トーナメントのときに名鉄でよく釣れたっていう情報が流れたからなんでしょうかね。結果を聞いたら、釣れたっていう答は返ってきませんでしたが……。

琵琶湖大橋料金所裏でも、7、8隻のボートがアシ原にしがみついで釣りをしています。ここもトーナメントのときは沖寄りのボートが多かったですけど、今は1隻しかいません。沖のウイードエリアでは釣れないんでしょうかねえ。もつ、サイトだけって感じですよ。

杉戸繁伸プロがトーナメントのときに大きなバスを立て続けに釣った木浜沖も、平日なのでボートが少なく余裕で釣りができます。まあ、釣れたって言っても、そんなに簡単ではありませんから、様子を見には来ても、ずつとがんばって釣りをし続けるボートは少ないのかも知れません。見る間に1隻いなくなるとは、またかわりの1隻が来て、という感じでした。

木浜5号水路の水門からアシ原にかけても、比較的空いていて余裕で釣りができます。アシ原にくっ付いているボートは1隻もいませんでした。水門の前で釣りをしていたアングラーに聞いたら、「昨日はよく釣れたけど、今日はあきませんわ」という返事でした。

このほかに、昨日はよく釣れたという情報がいくつもあります。17日の雨で水位が急上昇したのと、いい天気になり切らずに曇り空だったのがよかったです。それと、風向きによって釣れたり釣れなかったりということもあるようです。19日は天気がよくなり過ぎたのがよくなかったのかも知れません。それと、朝晩の急な冷え込みも気になります。

南湖のスポーニングが一段落しつつあるこれからは、天候や水位、水質の微妙な変化を気にしながら、場所を慎重に選んで釣りをしないと、よい釣りをするのは難しいかもしれません。そろそろ、田植えに向けての準備が始まっていますから、局所的に泥濁りが回ることも考えられます。ゴールデンウィーク頃の南湖は、なんか難しくなりそうな気配ですね。

やっと天気がよくなったゴールデンウィーク直前

琵琶湖ホット情報(2002/04/26)

4月25日の滋賀県琵琶湖は北西の風が強くて、北湖は1日中大荒れでした。

このところの琵琶湖は、強い雨が降るか、天気がよければ強い風が吹くかの荒れ気味の天候が続いています。これって、いかにアフタースポーニングっぽい空模様です。普通だったらゴールデンウィーク頃にまとまった雨が降って、その後、荒れ気味の天候が続くか、いったん天候が回復した後、5月10日を過ぎた頃から荒れ気味なるんですけどね。今年はバスのスポーニングが早いだけじゃなくて、天候の変化も同じくらい早いようです。

翌26日の午前中は、穏やかないい天気になりました。気温はちょっと低めなんですけど、日射しが強いから寒い感じはしません。高気圧が北から張り出しているので、午後は風が強くなるかもしれませんね。

さすがに連休前ですから、バスアングラーは岸釣りもポート釣りもバラバラです。赤野井のハス畑や漁港の北側の水門横、木浜のアシ原、5号水路の水門など所要所をチェックしてみただけです。岸釣りポイントの混み具合はどこも普段の平日並みでした。

釣れ具合は、「まあまあのが1尾だけ釣れた」とか「小さいのだけ」とか「ぜんぜん」とかいろいろです。雨が降って24日の方が、まだそこそこ釣れたみたいですね。晴天になると難しいのは、アフタースポーニングシーズンの特徴のうれしくない部分だけが極端に出てしまってるのかもしれません。

ポートは赤野井沖にまともって浮かんでるのと、琵琶湖大橋料金所前にも常時何隻かいます。あとはアシ原にくっ付いてたり、木浜の岸寄りでも釣りをしていたりなんですけど、いまいち確信なく釣りをしているポートが多いみたいです。だいたいは移動が早くて、ていねいに釣りをしているポートはごく一部です。

本当は、もつとていねいに釣った方がいいと思うんですけどね。特に晴天で日射しの強いときのバスはウイードの束の陰に付いてたりしますから、それを釣ろうと思ったら、ポートコントロールをきつちりとして、スポットを正確に狙わないといけません。これはスポットニング直前のプリのバスでもアフターのバスでも理屈は同じなんですけど、釣るのはアフターのバスの方がはるかに難しくなりますから、ていねいに狙わないといけない度合いも強くな

ります。似たようなエリアで釣りをしている、プリのバスを狙ってるのが、アフターのバスを狙ってるのをしっかり意識して釣りを切りかえないといけません。

それと、これだけ日射しが強くなってくると、ウイードの伸び方がそれまでより格段に勢いを増してきて、1週間前とはポイントの様子がすっかりかわってしまってるということもあたりまえに起こります。日射しが強くて水温が上昇してくるこれからのシーズンは、そのことも頭に置いておかないといけません。つまり、1週間、10日前と同じ釣りが通用しない確率がとても高いわけです。

天気予報では、ゴールデンウィーク前半の4月27日から29日にかけてはいい天気が続くと言っています。おそらく大勢のアングラーが琵琶湖へ繰り出すんでしようけど、はたしてバスのごきげんはどうなんでしょうか。もし釣り難いようなら、絞り込んだスポットに確信を持って思い切りていねいに狙うこと。それでもためなら、フィールドの状況変化の先回りをするぐらいのつもりで大胆に狙いをかえた方がいいかもしれませんよ。

ゴールデンウィークに突入した琵琶湖でバス釣られています。琵琶湖ホット情報(2002/04/28)

ゴールデンウィーク初日の4月27日に琵琶湖で62.5cm、4100gのビッグバスが上がりました。このバスをキャッチしたのは、大津市今堅田のマリーナクラブリブレのメンバーさんです。河畑文哉プロのガイドでも南湖でプリスポーニングの大きいのが出てるし、北湖はこれから期待十分だし、連休中もこんなのがまだまだ釣れそうです。

と言つようなことで、ゴールデンウィークが始まりました。連休直前の26日からの天気が続いて、28日も風もそんなに強くなって暖かい釣り日和になったものですから、大勢のバスアングラが琵琶湖へ来てます。岸釣りもボート釣りも、狙い目のポイントは大入り満員です。

まあ、ボートの方は4月始めのトーナメントのときにくらべたらまだましですし、岸釣りも6、7年前にバスフィッシングブームがブレイクした当時にくらべたら余裕はあるんですけどね。それでも普段の週末とかよりは段違いにアングラが多いし、それ以外の行楽の人とかも多いから、道路の渋滞とかはひどいことになってます。国道161号の琵琶湖大橋の交差点は4方向とも朝から渋滞してます。大橋を東から西へ渡ってくる車が多いようで、国道161号から琵琶湖大橋にかけては数100mの渋滞になってます。

名鉄沖、琵琶湖大橋料金所前、赤野井沖は船団が復活しました。名鉄は天神川の河口付近から造船所の沖にかけて、料金所前は大橋下のアシ原からヤンマー沖、佐川急便沖にかけて、赤野井沖もテトラ一文字の沖から木浜沖の北側のエリアまで、いずれも広い範囲にボートが散らばっています。それと、木浜の岸に近いブレイク沿いにも延々とボートが浮いています。

アシ原にしがみ付いて釣りをしているボートもたくさんいます。ここというアシ原は、けっこうな密度です。中には一カ所でジッと動かずに、いかにもネスト見付けたぞって感じでルアーをキャストし続けているボートも何隻かいました。

岸釣りはそれこそ、そこら中にアングラがいます。アシ原も、護岸も、水路も、内湖も、どこでも釣りをしている感じがします。その割に密度はパラパラって感じで、アングラが多い所でも5ミぐらいの間隔を置いて釣りができてます。冬の近江舞子の石積み突堤なんかとはぜんぜん違いますね。釣りをしている中の1人が、「昨日は彦根の方で何尾か釣れたけど、今日は南湖へ来たらぜんぜんですわ」と言っていました。スポーニングがらみの時期によく釣れる南湖の港とかは、南湖のアシ原や護岸ほど空いてないかもしれないんですけど、そろそろよくなってきているという話を聞きますから、この連休中は狙い目かもしれませんね。

連休で琵琶湖へ繰り出したボート釣りのアングラと岸釣りのアングラががち合つたらどうなるかというのが上の写真です。アシ原の岸側と沖側からバスを挟み撃ちしています。それでもバスは釣れて、このポイントで40cmぐらいのを岸からキャッチしているのを目撃しましたから、南湖のアシ原もまだまだ捨てたものではないみたいです。

ゴールデンウィーク後半に突入。琵琶湖のバスも連休か!? 琵琶湖ホット情報(2002/05/03)

5月3日、ゴールデンウィーク後半の4連休が始まりました。琵琶湖は再び大勢のバスアングラでにぎわっています。周辺の道路も朝からあちこちで激しい渋滞になっています。

岸釣りは、今の時期の主要ポイントだけでなく、駐車場がある所ならどこでもアングラがいっぱいいます。ビーチパラソルや折り畳み式のテーブル、テントなどを広げている人がそこから中にいます。琵琶湖へ遊びに来たついでに釣りをしているのか、釣りに来たついでにほかの遊びもしているのか、何がメインなのかわからない感じの人が多くて、いかにもゴールデンウ

イークという雰囲気があふれています。

そういうアングラーは駐車場のすぐ裏の護岸とかに並んで釣りをしています。いつも琵琶湖へ釣りに来てる熱心なアングラーは、アシ原や水門まわりに集まっています。場所でアングラーのタイプがはっきりと分かれてる感じですね。

昨日、岸からいいサイズのバスが釣れてた木浜のアシ原は、ボートが何隻も突っ込んでしまつて岸から釣るのはちょっとつらい感じになってました。岸釣りアングラーもそこは心得たもので、アシ原が奥深くなつてボートが入り込めない所に集まつて釣りをしています。

赤野井沖は昨日はボートが少なかつたんですけど、今日は再びたくさんのボートが集まっています。ボートが浮かんでるエリアがゴルデンウィーク前までよりも沖へずれていて、船団の沖側は南湖のど真ん中あたりまで広がっています。アフタースポーニングのバスの一部はすでにそれくらい沖まで出て行つてるんでしょうね。赤野井沖を中心に木浜から下物にかけての沖は、エリアの境界がわからないくらい延々とボートが浮かんで釣りをしています。と言うことは、絞り込める強いポイントがないということですから、このエリアでバスをキヤッチするのは、かなりのスキルを持ったアングラーでないと難しいんじゃないでしょうか。琵琶湖大橋料金所前もボートが多くなりました。ゴルデンウィーク前半にそこそこ釣れたという情報が伝わってるんでしょうね。南湖の北寄りのエリアでは、ボートの密集度はここが一番なんじゃないでしょうか。前日5月2日の写真とボートの多さをくらべてみてください。ボートは料金所前からヤンマー沖、佐川急便沖の広い範囲に浮いてるんですけど、佐川急便沖で釣りをするボートは少なくなつて、その分、料金所前からヤンマー沖に密集して

る感じですよ。つまり、そのあたりが釣れるということなのかもしれませんね。

名鉄沖はさすがに4月前半にくらべるとボートが少なくなっています。この日は午前中、東寄りの風が強かつたので、その影響もあるかもしれないんですけど、赤野井沖にたくさんのボートが浮かんでるぐらいですから、もしバスが釣れてるんだつたら少々の風なんか関係ないはずですよ。ということは、バスの釣れ方が下火になつてるといふことなんじゃないでしょうか。それと、ここでもはっきりと沖のエリアにボートが多くなつていて、一時少なくなつてた浮御堂沖にもボートが戻っています。

ゴルデンウィーク後半初日の様子はこんなところで、南湖のボートの動きなんかを見ると完全にアフタースポーニングという風に見えるんですけど、それでもまだブリの魚も釣れてるそうです。それに加えて、北湖のバスのスポーニングの遅れが難しい状況をさらに難しくしています。南湖の釣りの合間に北湖の様子を見に行ったアングラーに話を聞いても、いい答は返ってきません。3日の南湖はお昼前から南の風が強くなつてきてます。こうなると逃げ場がないんですよ。

午前中、南湖で釣りをして、波しぶきをかぶつてびしょ濡れになりながらお昼ご飯に帰つてきたりブレのメンバーの1人は、「午後は北へ行きたいけど、釣れてないみたいだし……。行くだけ行つて、様子だけでも見てこようかなー。どうしようかなー」と悩んでました。

普通だったら、南湖が今くらいアフターになったら、北湖のどこかでいいのが釣れ始めるんですけどね。このゴルデンウィークは、それがぜんぜんです。北湖のスポーニングはいつたいどうなつてるのが、誰がこの難問を解いてくれないもんでしょうかねえ。

釣れる釣れないは腕次第のゴールデンウィーク後半

琵琶湖ホット情報(2002/05/06)

5月5日まで大勢のバスアングラーで混雑してた琵琶湖なんですけど、6日はあれっと思っぐらいガラ空きになりました。前半3日、後半4日の連休の最終日ですから、さすがに最後の最後まで居残って釣りをしてるアングラーは多くありません。行楽客も少なくなっって道路も普段の休日より空いてるぐらいです。

琵琶湖大橋料金所前のポイントも、ボートがバラバラ浮いてるだけです。最終日の午後ですから、大部分のアングラーは家へ帰っちゃったみたいですね。ボート釣りよりも岸釣りのアングラーの方が根性があると言っか、しつこいと言っか、まあ絶対数が多いということもあるんでしようけど、各ポイントで目立ちました。ボート釣りのポイントは最終日の午後になっってガラガラになっただけ、岸釣りのポイントはまだまだがんばってるアングラーがけっこう残ってるって感じです。

ゴールデンウィーク後半の釣れ具合は、雨が降った4日が一番よかったみたいです。リブレフィッシングガイドの河畑文哉プロが55.5cm、三村和弘プロも52cmをキャッチしました。それ以外にも40cmオーバーはけっこう釣れてたようです。詳しくは河畑プロの公式サイトをごらんください。ダウンショットリグやジグヘッドリグなどのライトリグでネチネチと攻めるのがよかったです。

翌5日は杉戸繁伸プロがガイドに出て40cm台後半のグッドサイズを何尾もキャッチしてい

ます。こちらは常吉リグだそつです。この日は風が強くて釣りにくかったのをなんとかのいで釣ってきたとことです。ゴールデンウィーク後半は4日の雨が降ってたときを除けば、あとはほとんど強風が吹いて釣りにくい状況でした。釣れる釣れないの結果がアングラーによっって極端に分かれたのは、アフタースポーニングでいねいにスローに釣らないといけないの、風が強くてボートポジションをキープしにくくて、それができるかできないかの差が大きく出たということなのかもしれません。

期待の北湖は終わってみればさっぱりでした。その分、バスが難しいながらも釣れてる南湖のポイントにボートが集中して、よけいに難しくなっただけということもあつたはず。その北湖ですが、まだ釣れる状態にはなってないんですけど、連休の間に大きなバスが浅い所に姿を見せ始めたという情報があります。ということは、もう何日かの間に、あつちでもこつちでも釣れ始める確率が高いんじゃないでしょうか。これからは南湖でアフター回復組を追いかけてるよりも、北湖でスポーニングがらみのビッグバス狙いが面白いかもしれません。

琵琶湖北湖、南湖もビッグバス釣れてます

琵琶湖ホット情報(2002/05/14)

琵琶湖南湖はまだ大きなバスが釣れてますねえ。5月12日に開催されたバッドネットトーナメント第3戦に参加した杉戸繁伸プロのチームは、バス5尾をすべて南湖でそろえた500gの成績で2位に入賞しました。杉戸プロのパートナーがキャッチした56.5cmのビッグバスは、

さすがにプリスポーニングシーズンにくらべると同全長でウエイトは落ちてますが、それでも350gもあって上位入賞に貢献したそうです。

同トーナメントの優勝は北湖で880gのウエイトをマークした小東、西川ペアー。真野から高島のアシ原を中心に攻めたとのこと。そろそろ北湖でもビッグバスが釣れだしたかなって感じですね。

まるで梅雨のような琵琶湖 北か南か迷う季節

琵琶湖ホット情報 (2002/05/16)

天気悪いですね。沖縄はとっとと梅雨入りしたそうなんですけど、滋賀県琵琶湖もここ数日、まるで梅雨のような天候が続いています。天気図も南海上に停滞前線が張り付いて梅雨みたいだし、梅雨入りしてるんだったら、へたにタイミング測ってないで、正直にそう言うた方がいいと思うんですけどね……お天気おじさん。

おまけに5月15日はお昼過ぎ頃まで東寄りの強風で大荒れでした。アフタースポーニングから回復しかけた今の時期の琵琶湖は、こういう天候のときに限って大きなバスが立て続けに釣れたりするんですけど、今日はちょっとひど過ぎます。

そんな悪天候を突いて釣りに出たのは、リプレフィッシングガイドの河畑文哉プロです。河畑プロはこのところ琵琶湖でも奈良県池原ダムでも、釣りに出れば50cm前後のバスをキャッチしていて、50cmオーバーを釣らない日よりむしろ釣る日の方が確率で言うと倍くらい多いという絶好調ぶりです。

琵琶湖でも14日から3日連続のガイドで連日50cm前後のバスをキャッチしています。14日は50cmにわずかに届かなかったんですけど、15日は50cmオーバーを2尾、16日は1尾。しかも16日には80cmはあるかというビッグフィッシュをバラしたんだそうです。それで意地になったんでしょうね。雨が降ってるのもおかまいなしで、ガイド時間を延長してがんばりました。

そんな河畑プロに「琵琶湖と池原とどっちが面白いかって聞いたら、「池原は池原で面白いし、琵琶湖へ帰ってきたら琵琶湖も面白いし、どっちもいいのが釣れるから答えるのは難しいですね」と憎い返事が返ってきました。池原はサイトではなく普通の釣りがよくて、琵琶湖はスローにがまんして釣る、それを信じてやり切れるかどうかか釣れる釣れないの結果に直結するんだそうです。詳しくは河畑プロの公式サイトをこちらください。

このところの琵琶湖は水位がプラス20cm前後で落ち着いたままです。これは自然に落ち着いてるのではなく、ここ数年のデータを見ると、水位の上昇傾向が続いて雨が降ってる状況でも、プラス20cm前後になると上昇はいつも決まったように止まりますから、それ以上は水位が上がらないように意図的にコントロールされると考えた方がいいんじゃないでしょうか。

つまり、大量に流れ込む水量に見合った分の放水が行われているわけで、湖流や濁りの影響を考えると、そのことを計算に入れないといけないくなります。南湖のアフタースポーニングのバスがいち早く沖へ動いて、コンディションの回復が早いのは、その影響で沖の水の状態がいいとか、ベイトフィッシュが多いとかの影響があるんじゃないかと思っんですけ

ど、誰かそのあたりのことを解明してくれませんかねえ。

北湖は遅れていた水温の上昇がいよいよ本格的になって、先週末ごろから5〜15度の所が多くなりました。一部のシャローエリアは8度前後あります。それにともなってアシ原などでスポーニングバスが多く見られるようになり、大きなバスも釣れています。これからしばらくの間は、南湖が北湖が迷ってしまいそうですな。

南浜漁港のゴミが減った理由は？

琵琶湖ホット情報(2002/05/26)

5月25日に琵琶湖東岸びわ町の南浜漁港で開催されたクリーンアップ琵琶湖に参加しました。

中部釣り場とマナーを守る会(CFM)が主催するクリーンアップ琵琶湖は、8年から毎年春と秋に開催されていて今回が7回目になります。これまでずっと天気運がよくて、予報では雨で中止かなと思っけても、朝になったらぎりぎり雨が上がり開催できるということが何回かありました。ここ数回は快晴微風でゴミ拾いをするのもつたいないような好天に恵まれています。その例にもれず、今回もめちゃいい天気になりました。

その割に南浜漁港はバスアングラーが少なく、意外な感じでした。沖側の防波堤の内側にはスポーニングベッドがいくつも見えて、その中には5cmちょっとはありそうなバスが付いているベッドもあるのですよ。10人ぐらいのヘラブナ釣り師が防波堤にズラリと並んで釣りをしているだけで、バスアングラーは港全体で10人もいません。浜の方もバスアングラーが

少なくて、そのかわりというわけではないんですけど、パンツ1枚になって水遊びをしている子供達が何人もいます。なにしろ泳ぎたくなるぐらいいい天気でしたからね。

今回のクリーンアップ琵琶湖には、地元南浜区の区長さんらも参加されました。CFMに加わった地元の方もいて、そういう人達の話聞きながらゴミ拾いをしました。

南浜漁港のゴミは去年あたりまでとくらべて確実に少なくなっています。防波堤の外側の荒れ地になった所に、以前なら弁当殻や¹ポトル、空き缶などを入れたビニール袋がポイポイと捨てられていたのが、今は所々にポツポツと落ちていただけです。これは地元の人もやそれ以外のいるんなボランティア団体が定期的にゴミ拾いをしてる効果が出ているようです。

クリーンアップ琵琶湖がいくらがんばっても、回収できるゴミの量には限度があるし、そうしょっちゅう開催するというわけにはいきません。それよりも、たとえ少人数のグループであっても、たくさんの方が回数多くゴミ拾いをする方が効果的なんですね。そういう活動の立ち上げに、クリーンアップ琵琶湖のようなアングラー自身の手によるゴミ拾い活動が影響を及ぼしたのだとしたら、これは自分達が拾ったゴミの量をはるかに越える成果が得られてるわけですから、とてもいいことなんじゃないかと思いました。

それともう一つ、アングラーが少なくなることの影響もあるんじゃないかという意見が聞かれました。確かにクリーンアップ当日のアングラーの少なさを見ると、この意見って問題の核心を突いているんじゃないかと思っけてしまいます。その結果、ポイ捨てゴミが減って釣り場がきれいになってるのだとしたら、これっていいことなのか悪いことなのか、ちょ

つと寂しい気がしました。

とは言っても、やっぱりある所にはゴミはたくさんあって、今回もいつもと同じようにゴミ袋にして約2杯分、軽トラックの荷台に山積み、ゴミが集まりました。10人ちょっとが1時間半ほどゴミ拾いをしただけでこれだけ集まるんですから、ゴミが減ったと言って喜んでばかりはいられません。減ってはいるけど、まだまだたくさんあるのが現状です。

琵琶湖へ遊びに来る人達から利用税を徴収しようというような話も出てるんですけど、そうだったらボイ捨てゴミは誰かが片付けてくれるんじゃないかな。立派なゴミ箱だけ設置して、そこに集まったゴミだけ回収して、それで終わり、なんてことはないんだろうな。そんなことを考えながらもゴミ袋に2杯や3杯のゴミは拾えましたから、琵琶湖の環境のことを話し合う会議なんかは、ゴミ拾いをしながらやればいいんじゃないでしょうか。10人や20人だったら、声が届く範囲内に集まって話をしながらでも十分ゴミ拾いができるくらい高密度でゴミが落ちてる場所が琵琶湖にはいくらでもあります。そんなことも知らないで会議なんかしても仕方ないと思うんですけどね。ゴミ拾いしながらだったら会議場の部屋代とかもかからないし、いいアイデアだと思いますけど、いかがなものでしょうか。

真夏のような北湖で下野正希プロがSOLPキャッチ

琵琶湖ホット情報(2002/05/28)

5月25日に今年3回目のアメリカ遠征から帰国した下野正希プロ、ひさしぶりの琵琶湖のフィッシングガイドで、朝からいきなり釣ってきました。ゲストとおそろいで50cmオーバー並大抵じゃないと言われているアフタースポーニングシーズンの琵琶湖のしかも北湖で、約3週間ぶりに釣りをして、いきなり50cmオーバーを釣ってくるんですから、さすがとしか言いようがありませんね。

琵琶湖はこしばらく、真夏のような快晴の日が続いています。ただし、お昼過ぎから夕方にかけては急に曇ってきて夕立になることが多く、激しい雷雨になることもしばしばです。26日の夕方から夜にかけては全国的に激しい雷雨に見舞われたんですけど、琵琶湖周辺でも強い雨と雷が翌27日の午前3時頃まで続きました。激しい雷がこんなに長時間続くのはめずらしいことです。

現在の琵琶湖は水位が毎日約1cmのペースで下がり続けて、プラスマイナス0cmが目前のところまできました。水温は北湖の沖合で17〜18度、岸寄りの高い所で20度近くまで上昇しています。南湖はほぼ全域で20度を超えていて、シャローウォーターの一部は22〜24度になっっています。

シャローの水温が上がって、小バスやブルーギルの姿がたくさん見えるようになってきました。リブレのスロープにはオイカワの子の群れもいました。それを狙ってなのかどうか知りませんが、40cmオーバーのバスがフラッと回ってきてくる姿も見かけました。やや沖ではバスがベイトフィッシュを追ってジャンプしてる姿も見えます。こいつのが見えるようになってきたら夏が近いということですね。

下野プロだけでなく、同じリブレフィッシングガイドの河畑文哉プロも釣っています。5月

22日は56.5cmと50.5cmの2尾。うち56.5cmはゲストの方がキャッチしました。そして激しい雷雨が明けた27日にも50.5cm。詳しくは河畑プロの公式サイトをのぞいていただきたいんですけど、現在のリブレのフィッシングガイドはものすごい50UPキャッチ率です。

南湖はアフタースポーニングから回復したバスが狙いなんですけど、これが渋いんですね。河畑プロのように、大きなバスを釣ってくるアングラーはいるんですけど、簡単ではありません。バイトがとても少ないので、根気よくいいねいに釣る必要があります。

南湖はそろそろブリよりもアフターのバスが多くなってくる頃でしょうか。下野プロが釣ったのは「水深5〜6mじゃないか」とのこと、バスがいた位置は明らかにアフタースポーニングバスのポジションだったそうです。下野プロのポートには魚探がセットされてませんでした。魚探なしでそこまでわかるっていうのは、いくら沖島マスターの下野プロでもすごいですよ。魚探にバイトフィッシュが映るとか映らないとか、そんなこともぜんぜん気にしてません。それでもバスが釣れるんですから、はつきり言って簡単に真似するのは不可能だと思いますよ。

昨日、今日の快晴の中で河畑プロと下野プロが連続して50cmオーバーを釣ってきたのは、ちよつとパターンがかわってきたということなのかもしれません。快晴続きでバスが強い日射しを避けられるディーブウォーターやカバリーの陰に動いて、それで釣れるようになったということも考えられます。ただし、まだ5月末ですから、これが今の琵琶湖のパターンだと判断するにはちよつと早過ぎます。部分的にはそういうことも起こる可能性がある、ぐらいに思っていたのがより正解に近いんじゃないでしょうか。

長期予報によると、今年の梅雨入りは例年より早く、近畿地方は6月初め頃だそうです。この予報が正しければ、今は梅雨入り前の好天ということになるんですけど、これからまだまだいい天気が続くのか、一転して梅雨入りするのか、天候の変化に注意する必要がありますそうですね。

追加情報 下野プロは28日の午後も50cmオーバーをキャッチして帰ってきました。これで、この日はゲストが釣ったのも合わせて50cmオーバー3尾です。午後の場所は沖島ではなくて湖西だったそうです。

四十肩テニス肘釣法の加藤誠司プロがJB戦3位入賞 琵琶湖ホット情報(2002/06/03)

5月31日から6月1日にかけて滋賀県琵琶湖で開催された「琵琶湖マスターズプロトーナメント」でジャックルの加藤誠司プロが3位に入賞しました。今シーズンの加藤プロは「Bワールドプロトーナメント」でハイスコアを出してたんですけど、1日とか2日だけで3日間はずかす、上位入賞はしても表彰台に上がることはできませんでした。そのためワンデー加藤と呼ばれてたんですけど、とうとうやってくれました。

加藤プロがメインに使ったのは、パワーホグのテキサスリグだそうです。それでウィードを1本1本ていねいに狙っていった結果、初日は3尾で6005g、2日目は4尾で7405gという型ぞろいのバスをキャッチしました。これって1尾平均1900g以上ですから、アフタースポーニングシーズンであることを考えれば、平均約50cmというすごい釣りです。

なぜ加藤プロがテキサスリグを使っただかと言うと、そういうパターンひらめいたということもあるんですけど、それは別の大きな理由があります。このところのトーナメントで徹底してクランクベイトとかをキャストしまくったために、肘痛が出ちゃったんだそうです。お医者さんの診断はテニスエルボーだそうで、そのためにハードルアーを使えなくなってしまったのでソフトベイトに走ったというのが今回のトーナメントの本当の勝因です。下野正希プロは「それって四十肩ちゃうのん」とうれしそうに言っていました。それを聞いた加藤プロは「肩じゃなくて肘です」と、まるでオヤジグループに入れられたくないとばかりに、まわりのみんなに言いまくってます。

加藤プロが使ったのはテキサスリグだけじゃなくて、ジャツカルから今月発売になるバニードもいいサイズをキャッチしたそうです。これって、アフタースポーニング回復バスがウインドエリアで浅くサスペンドしてるのをシャロークランクベイトやミノーで釣るのと同じパターンですよ。池原タムのようなリザーバーの立ち木にサスペンドしてるバスにも効くんじゃないかという気にさせてくれますから、加藤プロ、タイミングよく、いい仕事してます。

6月上旬の琵琶湖は天気よ過ぎてバス釣れてません

琵琶湖ホット情報(2002/06/05)

ここんとこ天気がよ過ぎて、滋賀県琵琶湖はバス釣れてません。一部のアングラーは釣ってるんですけど、とても渋いのをあの手この手でなんとが取ってきてるって感じです。

いい天気が続いて水温の上昇がハイペースです。南湖は広い範囲で 25°C を超えていて、シャローエリアの一部には 27°C 程度になっている所もあります。バスはアフタースポーニングから回復してきてるんですけど、それよりも天気がいいのと水温が上昇が急なことのプレッシャーの方が上回ってるためにスローなパターンになってるようです。

リプレフィッシングガイドの河畑文哉プロのように、少しでも条件のよいエリアを絞り込み、同時にスローなバスを食わせることができる一部のアングラーだけがいいサイズのバスを釣ってるのは、そういう条件から生じる結果じゃないでしょうか。

元気が回復してきてエサを食いたいバスはいるんですけどね。それを強い日射しと水温の急上昇が押さえ付けてしまってる感じがです。それでもなんとか釣ってるアングラーは、ほかのアングラーが釣れない魚を釣ってるわけですから、これって難しいけどけっこう手堅いパターンになります。釣果がとても偏ってるのはそういうことです。

北湖の水温も 25°C を超えてる所が多くなりました。スポーニングのビッグバスはあちこちでバラバラと釣れただけで北湖のスポーニングシーズンはいつの間にか過ぎてしまい、気が付いたらアフタースポーニングのバスが釣れだしてるのが今の状況なんですけど、一時よりいい状態になってるのは間違いないようです。下野正希プロは5月28日のフィッシングガイドで6cmオーバーを3尾キャッチしてきたんですけど、それと同じような釣りをしたという話をときどき聞くようになりました。

岸釣りは北湖の川尻周辺が面白くなってきてるようです。日中は6cmまでの数釣りなんですけど、朝夕と夜間は大きなバスが上がっています。中には6cm近いビッグバスも出てるよ

うです。

それにしても、2週間ほどの前の長期予報では、今年は梅雨入りが早くて6月始めごろには近畿地方も梅雨になるって言ってませんでした。梅雨、どこ行っちゃったんでしょねえ。琵琶湖周辺は天気がいいだけじゃなくて、本当に暑くて真夏のような天候が続いています。釣りに出られるときは、日焼けと暑さ対策をお忘れなく。日射しが本当に強いのは、真夏じゃなくて梅雨前の天気がいいときですから、油断したらひどいめに合いますよ。

琵琶湖利用適正化条例の要綱案を滋賀県が発表

琵琶湖ホット情報(2002/06/19)

6月18日、滋賀県は「滋賀県琵琶湖のレジャー利用の適正化に関する条例」の要綱案を発表しました。この条例には、バスアングラーにとって気になるバスのリリースと2サイクルエンジンの使用禁止に関する項目が含まれています。

要綱案によると、外来魚を釣った後の再放流を禁止、住宅密集地などの騒音防止が必要な場所にレジャー用動力船の航行規制水域を設ける、2サイクルエンジンは2006年4月からの使用を全面禁止、すでに所有されている2サイクルエンジン搭載船は2011年3月末までの使用を認めることになっています。

滋賀県は要綱案を公表し、滋賀県民の意見を募った上で条例案を作成、9月議会に提案、来年4月の施行を目指すとのことです。これに対し、県内の釣具店やレンタルボート店などの関係団体では、要綱案通りの内容で条例が施行された場合、バスフィッシングへの影響があまりにも大き過ぎるとして対応策を検討中で、1000人規模のデモを行うことや県知事に要望書を出すなどの案が出ています。

要綱案については滋賀県のホームページにすでに掲載されていますので、興味がある方はぜひごらんください。6月18日から7月18日までの間、メールによる意見や情報の募集が行われています。バスアングラーの皆さんも、これを機会に積極的に意見表明されてはいかがでしょうか。ただし、このような意見募集の結果がどれくらい条例案に反映されるかは大いに疑問ではありますが……。

BCC服部の意見としては、この条例は本来、水上バイクを含むプレジャーボートによる騒音や水質汚染、事故などを防ぐために琵琶湖利用の適正化を図るためのものだったんじゃないかと思うんですね。新聞報道などでも、常にその点が強調されていました。ところが要綱案が公開されてみると、外来魚の問題が一緒にたにされてたわけです。

これって、いかににも、この際だから一緒に片付けちゃって感じて外来魚対策が要綱案に盛り込まれたんじゃないかという気がします。その結果、釣ったバスをリリースしたときの罰則規定を設けることもできなかつたんじゃないでしょうか。それと、滋賀県がアングラーや業界の意見をちゃんと聞いたっていう話も聞いたことがあります。こっぴどいやり方って、いかににも官僚が考えそうなことですよ。

県条例で何かを決めるとなれば、これは滋賀県民がどう考えるかという問題ですから、大阪府民であるBCC服部が何を考え、何を言おうと、あくまで外部意見ということになってしまします。滋賀県民の皆さんには県に対して直接働きかけていただくとして、県民以外の

者は何ができるかを考える必要が大いにありそうです。

琵琶湖にひさしぶりの雨。梅雨の好機到来か!?

琵琶湖ホット情報 (2002/06/21)

6月20日の滋賀県琵琶湖はひさしぶりの雨になりました。夜のうちから降りだした雨は午前中けっこう強く降って、午後から夜になっても傘をささないといけないくらい強い強さです。ずっと止むことなく降り続いています。19日までの真夏のような天候から、いきなり梅雨が舞い戻ってきたって感じですよ。

天気予報で雨が降るって言うってたんですけどね。このところ、降る、降るって言うってはいせいで曇り空か、いい天気になったりしてたもんですから、どうせ降っても大したことないだろうと油断してました。そんなところへ、しつかり雨が降ったもんですから、やっぱり梅雨だったのね、とあらためて納得しちやいました。

6月に入ってからの琵琶湖の水位は、雨が降るたびにピクッと上がりはするんですけど、全体的には下がりが続いています。この一週間ほどは毎日きつちり1cmのとても順調なペースで下がっています。水温の上昇は、一時曇り空が続いてスローダウンしかけたときもあつたんですけど、この一週間ほどの晴天続きで、また勢いよく上がり始めました。特に、遅れていた北湖の水温上昇がこのところ顕著です。

そんな状態のところ、雨が降ったわけですから、これはバス達にはいい刺激になるんじゃないかと思ったら、リフレフィッシングガイドの河畑文哉プロが釣ってきました。20日は雨の中のガイドでComオーバーを2尾です。

しかも、ルアーはペンシルベイトのボニ25だそうなんです。いきなりトップブウオーターですから、感じて感心なんですけど、今シーズンの琵琶湖は本当に何が起こるかわかりませぬえ。詳しくは河畑プロのサイトをのぞいてください。それと、琵琶湖大橋から北のウィードエリアがよくなってきてるそうです。これから本格的な梅雨空が続くようなら期待できるかもしれませぬ。

リリース禁止反対イベントを急ぎよ開催。署名運動も 琵琶湖ホット情報 (2002/07/04)

滋賀県が発表した琵琶湖利用適正化条例の要綱案にバスのリリースを禁止する項目が盛り込まれたことを受けて、7月6日に滋賀県琵琶湖の彦根港でジャッカルに加藤誠司プロ、小野俊郎プロらが参加するイベントが急ぎよ開催されることになりました。詳しい内容はジャッカルホームページをのぞいてください。また、ジャッカルでは同条例案に対する反対署名を集めています。署名用紙はホームページからダウンロードできますので、ご賛同いただける方はぜひご協力ください。

真夏のような七夕の琵琶湖。水泳よりもバスフィッシング 琵琶湖ホット情報 (2002/07/07)

夏ですねえ。この週末は天候が崩れるって天気予報は言うってんですけど、滋賀県琵琶湖

は7月6日の土曜日に夕立みたいな雨が一時、ザツと降っただけで、7日の日曜日にはカンカン照りのいい天気になりました。七夕の星空は望み薄だなんて言っただけのは、どこのチャンネルのお天気おじさんですかねえ。

水泳場もオープンして、絶好の水泳日和なんですけど、まださすがに泳ぎに来る人は少なく、近所の人だけがわざわざ来てただけです。7日の真野浜水泳場を午前と午後、2回のぞいてみたんですけど、バラバラッと人がいるだけでした。全体で3数人でしょうか。いい天気とは言っても、まだ梅雨は明けてないし、夏休みにも入ってないから無理はないんですけど、どこの水泳場もガラガラです。

その真野浜水泳場の沖でバスボートが釣りをしています。琵琶湖のバスフィッシングはすっかり夏らしく、水泳場の沖でバスが釣れるようになってるんですね。

それと、真野川尻に立ち込んでるアングラーが5人以上いました。その場所がやっぱり夏らしくて、川尻よりもかなり北寄りの水泳場に近い側なんです。こちら側は比較的フラットボトムになっていて、水泳場の沖から続いている広いウィードエリアがまばらになるあたりが夏場のポイントになります。冬から春先にかけてのビッグバス狙いのときは、もっと南寄りの川尻近くから琵琶湖大橋に向き合うぐらいの所がポイントなんですけどね。ですから、水泳場寄りに立ち込んで釣りをするアングラーが多くなって、投げるルアーがキャロライナリグやバイブレーションプラグ、朝のうちはペンシルベイトなどになってきたら、そろそろ夏が近いということです。

真野川の河口近くに架かる橋の上からバスの姿を見ることができました。30cmちょっとのが、あちらの倒木の陰に1尾、こちらのブッシュの陰に1尾と見える範囲に3尾、20cmぐらいのは5尾ぐらいの群れになって2カ所に分かれて泳ぎ回ってます。おそらく川の中の方が水温が低くて居心地がいいんじゃないでしょうか。つまり、真野川河口周辺あたりでも日中の水温はかなり高くなるといふことなんじゃないかと思えますよ。

琵琶湖の水位は6月末からの雨で上昇してるんですけど、この調子だとまた下がり始めるかもしれません。台風5号は日本海で温帯性低気圧になってしまいました。そして太平洋のはるか沖合では、次の台風6号が沖縄から九州、四国地方をうかがいながら進んでいます。今の位置と進行方向からすると、6号の方が5号よりも近畿地方に影響が大きいかもしれません。もし台風6号がまともに来たら、そのままの勢いで梅雨が明けてしまう可能性もあるので、この夏のバスフィッシングを占う意味も込めて、ここしばらくの天候変化には注意が必要です。

加藤誠司プロとその一味。なんだかんだで大忙し

琵琶湖ホット情報(2002/07/09)

6月18日に滋賀県が発表した琵琶湖利用適正化条例の要綱案にバスのリリースを禁止する条項が含まれたことは皆さんもご存じだと思っただけですけど、それに対して、いろんな人がいち早く、自分にできることをやるよというこで行動を開始しました。

その中の1人、加藤プロはただでさえ忙しい毎日が増々忙しくなっていました。日中、会社にいられる時間がなかなかありません。もちろん、ルアーデザインの仕事もしないとい

けませんし、来週には地元の琵琶湖で「ワールドプロトナメント」が開催されますから、その練習もしないといけません。それでも、忙しい時間をなんとかやりくりしてでも走り回っているのは、自分やジャッカルのことを応援してくれているバスアングラの皆さんのために、今できることをしなないではいられないからです。偉そうなことだけ言って、実は何もしてない人達とは、考えてることが全然違うんですね。

加藤プロの行動を見ると、バスフィッシングが本当に好きだというのは、こういうことなんじゃないかと思ってしまう。何かを好きだということの中には、自分がその何かをどれだけ好きで楽しんでいるかだけじゃなくて、好きな何かのために自分がどれだけのことのできるか、何ができるかということも、加藤プロぐらいのレベルになると当然含まれてくるわけで、彼女や奥さん、彼氏や旦那さんを好きだということのも、釣りが好きだということのも、その点では同じことです。

そんな加藤プロをバツクアツプする会社のスタッフは、もろにあおりをくらってしまっていたいへんなんですけど、それができてしまっただけからジャッカルという会社も大したものです。偉そうなことだけ言って、実は何もしてない会社（メーカーだけではありません）の人達とは、ものごとに対する問題意識の持ち方や取り組み方が本質的に違うんですね。その根底には、やはりスタッフ全員、バスフィッシングが大好きだということがあると思います。その「好き」の度合いが、何もしようとしてない会社の人達とは違うということです。

こういうことを言うと、釣りの世界では「そんなことはない」という異論がすぐに出てくるんですけど、そうおっしゃる方には、それなら自分は何ができてるかということから聞いてもらいたいです。つまり、実際に行動を起こしている人達に対して何かを言うのは、言う側も実績を残してから、あるいは少なくとも行動を起こしてからにしたいです。意見も言えないのか」と反論される方には、選挙にも行かないで意見だけ言っても仕方ないという言葉をお贈りします。そういうのは意見じゃなくて、感想って言うんですよ。

インターネットのホームページや掲示板に意見を上げてただけの人が、「自分達の意見も聞かないで」とかいうケースがよくあるんですけど、その意見にどれだけ説得力があるかと、重みがあるかと、ただひたすら楽で手取り早い方法で垂れ流してただけでは、誰も読みも聞きもしてくれません。その意見をどういう方法で訴えるかということが大事で、それが行動に直結します。例えば、ある雑誌の編集部に意見のメールを送ったけど無視されたと思います。そのときに、ひたすらメールを送り続けるという方法もあるかもしれませんが、編集部へ直接乗り込む方がはるかに効果的です。そうすれば、意見を取り上げられる確率は、はるかに高くなるんじゃないかということです。

これが相手が県や議会、政治家、官僚といふことになってきたときに、何をどうすればいいのかということ、さしあたっての問題なわけです。自由主義経済と多数決による民主主義を基盤としている日本という国で、県条例をどうこうしようというときには、どこへ行って誰を相手に何をすればいいのか。実際の問題はそれほど単純ではありませんが、まあそういうことです。加藤プロが取り組んでいるのは、まだそのほんの取っ掛かりのところなんですけど、最終的にはそういう仕事になってくるのかもしれません。日本釣りなんかか会って

のは、一般の釣り人にかわってそういう仕事をするためにあつたんじゃないかと思ってたんですけど、今さら加藤プロが出張らないとできなかつたんですかねえ。

琵琶湖の水位が急上昇。釣行にはくれぐれもご注意を!! 琵琶湖ホット情報(2002/07/10)

台風6号が接近してる影響で滋賀県琵琶湖の水位が急上昇しています。7月9日朝にマイナス28cmだった水位は、10日朝にはマイナス20cmまで上昇しました。琵琶湖の水位が1日と10cm近く上昇するのはたいへんなことです。台風の影響で9日夜から降り始めた雨は、滋賀県東部と南部で特に強く降っています。台風は3日お昼過ぎから夕方にかけて紀伊半島の沖合を通り抜けて東海、関東方面に向かうことが予想されているため、これからさらに雨が降る可能性があります。琵琶湖の水位の上昇はこの後もしばらく続き、河川から流木や大型のゴミが流れ込むことが予想されます。川からの濁りはすでに広い範囲に広がっていて、琵琶湖全域がひどい濁りになってしまつてもかもしれません。台風が行った後も、しばらくは影響が残りそうですので、今週後半の釣行はくれぐれもご注意ください。

立て続けの台風でひどい濁りになった琵琶湖

琵琶湖ホット情報(2002/07/16)

台風6号と7号が立て続けに来て、滋賀県東南部に大雨が降りました。その影響で、琵琶湖はひどい濁りになってしまいました。北湖も南湖もほぼ全域に薄茶色の濁りが広がっています。一部は泥濁りになっています。

琵琶湖周辺に大雨が降ったのは、岐阜県大垣市に大雨を降らせて洪水が発生したのと同じ梅雨前線の端っこが滋賀県の一部に引つ掛かっていたからなんです。琵琶湖の水位は7月9日のマイナス28cmを境に急上昇し始めて11日にはマイナス6cmを記録。その後は15日のマイナス15cmまでいったん下降し、16日にはマイナス13cmとふたたび上昇しています。しかしながら、台風7号の雨は台風6号のときほどではなく、水位の上昇もそれほど極端ではありません。

問題は濁りです。湖東の野洲川は台風6号の大雨で濁流になったままのところへ、また台風7号の雨が降ったために、まだ当分は濁りが取れそうにありません。他の流入河川も濁りがひどく、それが琵琶湖へ流れ込む状態が1週間近く続いているために、琵琶湖の濁りはぜんぜんましになりそうにありません。

大津市今堅田のBBC事務所の窓から見える真野川もひどい濁りになっています。琵琶湖に流れ込んだ濁り水が、はっきりとした境目を作ったまま琵琶湖大橋をくぐり抜けて南湖へと流れています。その濁りの外側の真野浜側に立ち込んで釣りをするアングラがいるんですけど、釣れてるんでしょうか。もしかしたら、大爆釣になってたりして……。そんなことも考えてしまつぐらい濁りの影響は強そうです。

新しいジャッカル琵琶湖研究所から見える小野のアシ原も、岸近くは泥濁りになってしまつています。その沖は薄茶色の濁りになっていて、複雑に蛇行した境目ができています。岸近くの濁りは、研究所のすぐ横にある小川から濁った水が流れ込んだのが原因なんですよ。

ね。こういったひどい濁りが部分的に入ってしまったる所が琵琶湖のあちこちにあります。

この濁りがどう影響するかは、今週末に琵琶湖全域をエリアに開催される「ワールドプロトーナメント」の結果を見ればよくわかると思います。まだブラクティスも始まってないんですけど、下野正希プロは「この台風の濁りで、今までプリブラしてた」データが「破算になるはずや。ぜんぜん釣れんようになってたら、面白いトーナメントになるんやけどね」と言っています。

それともう一つは、大量の雨水が流れ込んだことが、夏のバターンに影響するかもしれません。表層の水温はそんなにかわってないんですけど、梅雨明け以降が涼しかったりすると、今年の琵琶湖はサマーパターンが成立しなかったというよくある現象がもっと強く出てくる可能性があります。そのあたりも要注意がもしれせんね。

アングラーのポートが増え始めた夏休み直前の琵琶湖 琵琶湖ホット情報(2002/07/19)

夏休み直前の琵琶湖は、7月8日頃からバスアングラーがジリジリと多くなってきました。15日から21日まで開催されてる「ワールドプロトーナメント」の観戦をかねてというアングラーも多いみたいで、ポートの数が目立って増えています。

18日のブラクティスで下野正希プロが釣りをしていたら、「来た、来たっ」って感じで、すぐにまわりを5隻以上のポートに取り囲まれたそうです。20日、21日の連休は天気がよくなりそうですし、けっこうにぎやかなことになるんじゃないでしょうか。

台風2連発の濁りはかなり取れかけてます。北湖の沖合の水質はクリアになりつつあって、岸寄りでもササ濁りのちよどい状態の水質になってる所が多いようです。まだ一部には濁りのひどい所が残ってますが、この週末あたりはバスフィッシングにちよどいタイミングになるんじゃないでしょうか。朝夕や、日中でも曇り空のときなどは、思い切ってトップウォーターで狙ってみても面白いと思いますよ。

台風一過、二過、三過。いよいよ夏本番の琵琶湖 琵琶湖ホット情報(2002/07/28)

7月28日は大阪と京都で気温が37度を越えたんですね。枚方はなんと38度を越えたそうです。去年の夏は暑過ぎて海水浴に行く人も減ったというほどの猛暑で、釣りに行くのをやる人も少なくなかったんですけど、今年も台風の連続攻撃が終わったと思ったら、いきなりこの暑さです。お天気が極端過ぎますよね。「中間はないんか」と言いたくなります。

27日土曜日の真野浜水泳場は、近所の人しか来てないんじゃないかって感じで、遊びに来てる人数の割に駐車場の車が少ないんですね。真野浜だけじゃなくて、ほかの水泳場も人出はいまいちのようです。台風や何やかやで天候が安定しないために、行楽客がどっと繰り出す弾みが見つからないんでしょうか。台風が行った後はいい天気が続いていますから、夏本番になって人が動くようになるのはこれからかもしれませんね。

台風9号が九州の南から東シナ海へと進んだ影響で、琵琶湖は17日頃から東の風が強くなつて、それが28日まで続きました。バスポートでも北湖を走るのはちよつと厳しいぐらいの

大荒れです。26日の午後は、走り屋の杉戸繁伸プロが週末のガイドのブラクティスのために釣りに出ようとしたところで中止してたぐらいてすから、荒れ方は半端ではありません。

翌日は風が止んで、夏らしい天気になりました。と言うより、風が止んだら暑過ぎます。琵琶湖大橋下にはシールドバターのアングララーが集まってきました。

朝からガイドに出てた杉戸プロは、30分前後は釣れたけど、午前中は大きいのはなしでした。前日、ブラクティスを中止しながらも、「大きいのは南湖ですよ」と自信たっぷりに言ったのと結果が違うやんかって感じですよ。さすがに、いかにも夏本番らしいお天気になって、バターンがかわつちやつたんでしょか。そのあたりの詳しいことは、午後のガイドの結果と合わせて、杉戸プロ自身のレポートをお読みいただきたいと思います。

暑いと言えは、琵琶湖大橋東詰の料金所下は沖の方までウィードが水面を埋め尽くして見るからに暑苦しくなっちゃってます。「この夏は、こういう場所があるかと思うと、あれっ」と思っほどウィードが少なくなってる場所もあるんですよ。バスが沖へ沖へと移動しながらシールドを求めるこれからのシーズン、このウィードの状態の見極めがサマーバターの攻略のカギになるかもしれませんよ。

夏休みの琵琶湖にアングララーが少ない理由

琵琶湖ホット情報(2002/08/07)

夏休みだというのに、滋賀県琵琶湖はバスアングララーがそんなに多くありません。なんせ暑いですからねえ。水泳場だって人出はバラバラです。

その水泳場の近くで見かけるのが、いかにも外してるポイントで、昨日買ってきましたって感じのタックルを使って釣りをしてるアングララーです。夏休みて、こういうにわかアングララーが多いのがいつものことなんです。けど、この夏に限っては、そんなアングララーの数も少なくて感じます。

夏休みらしい盛り上がり欠けるのは、滋賀県が琵琶湖利用適正化条例でバスのリリースを禁止しようとしている影響が早くも出てるのかもかもしれません。「琵琶湖へ泳ぎに行ったらバス釣りできないんだったら、海へ行って泳ぐついでにイカ釣りしようよ」というようなことが早くも起こってるんじゃないでしょうか。その影響は、琵琶湖へバス釣りに来る人数から考えれば決して小さくないかもしれません。水泳場だけじゃなくて、これからきつというんな所へそういう影響が波及していくんでしょうね。

確かにバスも釣れてないんですけどね。トーナメントで釣れたって言ったって、レベルの高いアングララーの中だけの話です。一般のアングララーは、「だからどうなの」って感じで簡単には動こうとしません。自分達が行っても簡単に釣れるわけがないということを見んなよく知っちゃってますからね。

バスが釣りにくいのは、南湖のウィードが多過ぎるということが原因の一つとして考えられます。シャローのウィードエリアは水面をウィードが覆い尽くしてしまってる所が多くなっていますし、その沖側もウィードが多過ぎて、例えばバスがいたとしても、どうやって釣った方がいいのか、簡単には手を下せない状態になっちゃってます。水位の低下がそれに追い討ちをかけてるから、ますます釣り難いんですよ。

琵琶湖の水位は、8月7日現在すでにマイナス40cmまで下がっています。この調子で下がり続けると、8月後半にはマイナス50～60cmを下回って、取水制限とかなんとか、また世間が騒ぎだすかもしれません。それだったら、今からなるべく水を減らさないようにすればいいと思うんですけど、そういうわけにもいかないですよ。なにしろ、琵琶湖の整備や維持管理には、下流の京都や大阪、兵庫（神戸市の水道水にはかなりの割合で淀川の水が使われています）などからのお金も使われていますから。下流へ流す水の量を大幅に減らすとなったら、琵琶湖だけの事情ではできません。

つまり、琵琶湖は滋賀県だけのものではないし、滋賀県だけではとても面倒見切れないということ。BRCの本部は東大阪市民なんですけど、東大阪の水道水って、大阪市が淀川から取水した水を分けてもらってたはず。それだったら、BRCの本部が払ってる水道代の一部は琵琶湖をどうにかする予算に使われてるはずなんですよ。現在の悶々とした状況から思うに、水道代しばらく払わんといたるかな……これって、八つ当たりというものでしょうか。

南湖がよくないんだったら北湖へ行けばいいんじゃないかとなるんですけど、北湖の釣りって南湖にくらべると難しいんですよ。夏に狙うのは、水深10m以上のデーブエリアとか、5m前後のウイードエリア、河口周辺、岩場、沈みエリなどですから、それをどうやって釣つたらいいのかわからないことを知らないと手も足も出ません。

現在の状況は、北湖の広い範囲で水温が例年同期よりも高めになっています。この水温の高い層がどのくらい深いレンジまで広がっていくかによって、バスの釣れる深さがかわってきます。特に大きなバスほど、高水温を嫌って深い所へ動く傾向が強いので、そのあたりのチェックと判断が重要になってきます。水深10mとか、あるいはそれ以上、思い切った深く狙った方がいいかもしれません。これから先、8月半ばから後半にかけては、そういう傾向が強くなるか、逆に早くから秋っぽいパターンになっていくかが、その夏の天候によって大きく分かれるので、状況変化に注意しながら釣っていく必要があります。

それにしても、とにかく暑過ぎます。昨日も、いつも岸釣りに来てるアングラーが、「朝のうちにがんばってみたけど、ぜんぜん釣れなかった。暑くなってきたから、今日はもう帰る。」と言っていました。日中に釣りをする場合は、あまり無理をせず、水分を多めに取って、熱中症などにならないように注意してくださいね。

お盆休みに突入した琵琶湖で杉戸繁伸プロが爆釣!!

琵琶湖ホット情報(2002/08/10)

お盆休みに突入した8月10日、琵琶湖ガイド情報の杉戸繁伸プロが友人と一緒に琵琶湖北湖へ釣りに出て、45mクラスを含む約30尾のバスをキャッチしました。エリアは今津までの範囲で、水深5m前後のウイードエリアを中心にクランクベイトやスピナーベイトなどの巻き物系ルアーで攻略したそうです。

表面水温が30℃程度もあったにもかかわらず、風当たりのシャローエリアのバスは思った以上に活発で、ハイスピードな釣りに気持ちよく反応してきました。ジャッカルから発売されたばかりのサーフェスプラグ、バーナーを水面ぎりぎり泳がせていると、波しぶきを上げ

ながら元氣よく飛び付いてくるシーンが何回もあつたそうです。北湖は水温がとても高くなつてもかかわらず、バスは意外と浅い所にいるのかもしれない。

早くも秋の気配が漂い始めたお盆休み終盤

琵琶湖ホット情報(2002/08/18)

今年のお盆休み期間中に琵琶湖へやって来たバスアングラーは、日によって極端に多かつたり少なかつたりという事はなかつたようです。アングラーが多かつたピークは15日頃で、その後、17、18日の週末になつても、まだけっこう大勢のアングラーが来ています。予定されていた「トーナメント」は台風33号の影響で中止になつたんですけど、琵琶湖へ来ていた選手達は大勢がそのまま帰らずに釣りに出ていました。その分が上乘せされて、お盆休み終盤のアングラーが多くなつたのかもしれない。トーナメントエリアの南湖の沖合に浮かんるボートがこの週末に目立つたのも、そのせいじゃないかと思えます。

下がり続けてた琵琶湖の水位は、16日にマイナス5cmになりました。水温は南湖で30度前後、北湖もあちこちで28、29度まで上昇していて、例年にくらべてかなり高めなんですけど、バスの釣れ方が真夏のパターンにはまってるかという点、意外とそうでもありません。

そのあたりの見切りが難しいのがこの夏の特徴です。おまけにトーナメントが開催されない普段の週末よりアングラーは大幅に多いので、がんばってる釣ろうと思つと苦労することになります。お盆休みに限つては、そういう釣れる釣れないの結果にこだわらないで、カッブルやファミリィで楽しくやつてるアングラーが多いんですけど、それでもそこそこ釣れたというアングラーがけっこういましたから、状況としては決して悪くはなかつたんじゃないでしょうか。ただし、日によるムラはけっこうきつかつたようです。

10日に北湖で爆釣した杉戸繁伸プロは、17日もガイドで釣りに出て、同じように釣れるエリアを探し回つたんですけど、マメは釣れても30cmオーバーがなかなか釣れませんでした。ところが翌18日はコロツと状況が変わつて、40cmオーバーを含めてふたたび爆釣でした。場所は10日のときとはかわつてたんですけど、釣れ方は同じような感じだったそうです。杉戸プロから簡単なレポートが届きましたのでご紹介しておきます。

「17日は3人で3ヶ所、メインはツネでした。先週の場所はほとんどダメで、いろいろ回つてなんとか釣ってきた感じです。水深は4〜6mで、特に南湖は水が今一つで難しい状況でした。18日は、午前中なら風も大丈夫と思ひ、北湖のみで釣りをしてきました。やはり先週のシャローはまったく気配がない状態でした。そこで、自分が普段の8月には行かないエリアを回つたところ、水深6mのウイードに魚があり、普通のツネでボトムを釣つていましたが、ポツポツ釣れる程度。それをツネ、ジグヘッドのフール、スイミングでやってみると入れ食いとなり、2人で2尾以上釣ることができました。ただサイズは小さいです。キロサイズは2本出ました。ちなみにこのエリアは9〜10月になつてからチエックする所でした。もう9月かも」

杉戸プロがこう言うからには、琵琶湖はもう秋なのかもしれないですね。

下野正希プロも「バスは秋の場所にあるね」と言ってます。下野プロはお盆休みの間、毎日ガイドに出ている、結果は30cmオーバーが釣れたり釣れなかつたりでした。数釣ろうと思

えば釣れるけどサイズが小さい。大きいのは秋の場所にいるけど、パターンがたまりきつてないのか、まだちょっと不安定。その結果が、釣れたり釣れなかったりということのようです。

琵琶湖の天候は「日」が北寄りの風で晴れ。「8日」は北西の風がやや強くなって、午後には曇り空からバラバラと雨が落ちてきています。北寄りの風が吹いているのは台風の影響らしいんですけど、この「8日」台風、太平洋のはるか沖合を北東へ向かっています。これで一気に秋になってしまふというほどの影響はないかもしれません。これからどれぐらいの雨風になるかによって、季節の別れ目になりそうな微妙な情勢です。

台風13号の影響で琵琶湖は一気に秋にかわるか!?

琵琶湖ホット情報(2002/08/19)

8月16日の滋賀県琵琶湖は、太平洋の沖合を通過中の台風13号の影響で北寄りの風が強くなっています。本当の大荒れというほどではないんですけど、北湖へボートを出して釣りをするのは無理なぐらいの荒れ方です。風が強かったのは「8日」夜から「10日」朝の間でした。その間は上の写真よりも波は高かったんじゃないかと思えます。

雨は「8日」にバラツと降っただけで、その後はほとんど降ってません。台風13号はすでに関東の沖合へ向かっていますから、この後、風は次第に弱まり、雨も結局は大して降らないまま終わるんじゃないでしょうか。

バスフィッシングへの影響なんですけど、波が高かった北湖で水温が下がってれば、一気にか秋のパターンにかわる場所が出てくるかもしれません。台風の影響が落ち着いてからの北湖はかなり面白そうです。南湖は広い範囲でひどい濁りになっちゃっています。この濁りがどう影響するかですな。

バスも釣ってる下野正希プロ。J田戦9位入賞

琵琶湖ホット情報(2002/09/01)

イシダイ釣りが趣味の下野正希プロは、仕事のバス釣りも手抜きはありません。その証拠が上の写真です。8月30日、31日に滋賀県琵琶湖で開催された「Bトツップマスターズトーナメント」で9位に入賞しました。下野プロはうれしそうに桶を見せながら「バスもちゃんと釣ってるから、そう書いといてや」と言っていました。

下野プロがトーナメントでバスを釣ったのは、すべて北山田のウィードエリアで、水深2メートルもないシャローエリアだそうです。初日が5尾、3676gで24位。そのうち1尾が大きくて、それ以外はただのキーパーです。2日目は2尾で3935g。つまり、50cm級を2尾釣って初日の5尾よりもウエイトを伸ばし、順位を大幅にアップしました。初日はノンキーがたくさん釣れたけど、2日目は同じ場所で大きいだけの一発勝負みたいな感じになりました。これって、トーナメントのプレッシャーでしょうか。

下野プロが使ったのはテキサスリグで、ワームはズームのデッドリンガーだそうです。こう書けば、どんなポイントでどんな釣り方をしたかはだいたい想像できますよね。比較的密度の高いウィードの中を引いてきて、ウィードにからめたり、落とししたり、ウィードのボケ

ツトの中でアクシジョンさせたり、そんな感じですよ。同じ場所で常吉リグで釣ってる選手も多かったんですけど、大きなバスを釣ってるのは見なかったと下野プロは言っていました。これって、軽いリグよりも重めのリグの方がウィードの中へ入れたりしやすいからいいということなのかもしれません。

トーナメントが終わった後は、〇釣リビジョンのスタッフの人が下野プロの家へ打ち合わせに来てました。翌9月1日は木浜で開催されるイベントで、下野プロは何をさせられるかよくわからないけど司会役なんだそうです。このイベントの準備やら前乗り込みで、いろんな所のいろんな人が大勢琵琶湖へ来てて、そのついでに打ち合わせやら何やらかやらで動き回ってるんですね。その相手もしないといけないバスプロはたいへんです。

イベントが終わった翌日の9月2日から、下野プロは千葉の雄蛇ヶ池へ雑誌の取材に行きます。「イシダイ釣りは当分だけへんね」と言いながら下野プロは、「トップだけ持って行って、それでもこれだけ釣れるっていうのをやったらうかな」と雄蛇ヶ池へ行くのをけっこう楽しみにしてる様子でした。

真夏の暑さがぶり返した琵琶湖。それでもパターンは秋 琵琶湖ホット情報(2002/09/02)

8月30、31日に滋賀県琵琶湖で開催されたEトトップマスターズトーナメントで下野正希プロが9位に入賞したことは9月1日のBBCホット情報でお伝えしました。そのときのパターンは赤野井沖のシャローウオーターで、けっこう秋っぽい釣れ方をしてます。

下野プロはそれ以前から、琵琶湖のバスフィッシングのパターンはすでに秋にかわりつつあると言っていました。ところがトーナメントのプラクティスが始まる頃から、台風15号の影響で南からの暖かい湿った風が吹き込んだため、また真夏が帰ってきたような暑さがぶり返しました。それでも水中の季節感はかわってないってことなんですよ。トーナメントで釣れなかった方のパターンは、8月22日のレポートでプリプラクティスはばっちりだと豪語してた杉戸繁伸プロが解説してくれるはずですので、そちらも合わせてお読みただければ、けっこう面白くて参考になるんじゃないかと思えますよ。

夏休みの終わりに週末が重なった8月31日、9月1日は、けっこう大勢のバスアングラーが琵琶湖へ釣りに来ていました。それ以外の水遊びや観光の人も多くて、琵琶湖周辺の道路はひどい渋滞になった所もありました。上の写真は琵琶湖大橋から木浜にかけての釣り風景なんですけど、夏休みらしくレンタルのローボートやゴムボートが強い南風の中でがんばって釣りをしています。拡大写真をこらんだだければ、対岸の木浜の湖岸道路が渋滞してるのがわかると思います。撮影したのが1日の午前5時過ぎでしたから、ちょうど佐川急便体育館でイベントが始まった頃です。おそらくその渋滞なんですよ。

琵琶湖の水位は2日早朝にマイナス6cmまじり、マイナス7cmを割るのは時間の問題です。台風15号の影響による雨で、30、31日頃には減水が足踏みしてんですけど、その後、雨が降らなくなると、また勢いよく下がり始めました。おかげでシャローウオーターが干上がったしまってる所があちこちにできてしまってます。その先はウィードが水面を覆ってしまっていて、そこへ強い日射しが差し込んでるのを見ると、暑苦しくてとても釣れそ

な感じがしません。

これからの時期に狙い目になるのは、そのさらに沖のウィードの密度が変化する所です。それが水深2メートルなのか3メートルなのかは、ウィードの生え方と水温、気象条件によってかわってきます。水温はお盆休みの終わり頃に台風13号の影響による強い北風が吹いて一気に下がりました。その後、南湖の水温はやや上昇しました。北湖の水温はあまりかわってないが、場所によっては下がる傾向の所もあります。

バスは釣れてくはないんですけど、釣れる場所とパターンが頻繁にかわって、その分難しくなっているようです。夏だと思って釣っていると秋だし、秋だと決め付けるにはまだ秋になりきってないし、ということでもバスもアングラーもどっち付かずになっているのかもかもしれません。40人以上の選手が南湖で釣りをしているトーナメントの2日目には50cmクラスを2尾も釣ってきた下野プロのアプローチは、それを思い切り決め付けて成功したという意味で参考になるんじゃないでしょうか。

琵琶湖バス釣り人協議会が滋賀県に意見書を提出

琵琶湖ホット情報(2002/09/11)

散らかったデスクで捜し物をしてるのはジャックルの加藤誠司プロです。大切な書類がどっか行っちゃったんですね。ジャックルは5月に新しいオフィスに引っ越したばかりなんですけど、もうすでに散らかるところは十分に散らかりまくってます。加藤プロのデスクなんか、あつと言つ間でした。

現在、アメリカではWON BASS US OPENが開催中なんですけど、加藤プロは今年US OPENに行かずに日本にいます。アメリカへ行つてられない大事な仕事があるからなんです。バスのリリースを禁止する琵琶湖利用適正化条例の審議が、今月から始まる滋賀県議会で行われます。加藤プロはこれまでもバスアングラーの先頭に立って署名運動や意見表明のためのイベント、県庁や議会に対するロビー活動などを進めてきたんですけど、それがいよいよ正念場にさしかかりました。

9月10日には日本釣り振興会の琵琶湖バス釣り人協議会(会長〓奥村豊尚、実行委員長〓加藤誠司)から滋賀県に意見書が提出されました。この意見書は、現在の琵琶湖のバスアングラーが置かれた立場を踏まえた上で、これまでの議論から一歩踏み込んだ問題解決のための具体的な提案をする内容となっています。

加藤プロがなくしたのが、滋賀県に提出するための書類じゃなくてよかったですね。

琵琶湖レジャー利用適正化条例案を滋賀県が発表

琵琶湖ホット情報(2002/09/20)

「滋賀県琵琶湖のレジャー利用の適正化に関する条例」の条例案が9月18日に滋賀県から発表され、19日から滋賀県のホームページで公開されました。この条例案は、6月18日に発表された同条例の要綱案に修正を加えたものです。要綱案に対して寄せられた様々な意見や要望に配慮したとのことですが、琵琶湖で釣ったバスのリリースを禁止する条項については実質的に何もかわっていません。

バスを含む外来漁のリリースに関して、要綱案では次の通りでした。

「琵琶湖におけるレジャー活動として魚類を採捕する者は、ブルーギル、オオクチバスその他の規則で定める魚類を採捕したときは、これを琵琶湖に放流してはならない。」

それが条例案では次のようになっていました。

「琵琶湖におけるレジャー活動として魚類を採捕する者は、外来魚（ブルーギル、オオクチバスその他の規則で定める魚類をいう。）を採捕したときは、これを琵琶湖に放流してはならない。」

つまり、まったく何もかわっていないということですね。要綱案が発表されたときに募集したパブリックコメントって、いったい何だったんでしょうか。その点に関して滋賀県の自然保護課は「釣り人の理解が得られるように務めたい」とのことで、処分する魚を入れるためのイケスや回収箱の設置を検討してるんだそうです。

また、条例案には「水鳥の生息地への配慮」として次の内容が加えられました。「レジャー利用者は、琵琶湖においてレジャー利用を行うに当たっては、水鳥の営巣地その他の水鳥の生息地への保全に配慮するように務めなくてはならない。」

この中にある「水鳥の営巣地その他の水鳥の生息地」というのは、実施規則とかで指定するんでしょうけど、場合によってはバス釣りに影響が出てくるかもしれません。冬に岸釣りをしているアングラーが水鳥の群れに向かってルアーを遠投したら条例違反、ボートで走っていて水鳥が1羽でも逃げたら条例違反、そういうことになるかもしれません。

滋賀県のホームページには同条例に対する県の考え方、パブリックコメントの分析や評価

なども掲載されています。また、2サイクルエンジンの使用禁止についても要綱案から変更された部分がありますので、興味がある方はぜひ確認してみてください。滋賀県のホームページの中の同条例に関するページにアクセスが異常に集中して、そのログを誰かが見るようなことがあれば、それもまた一つのプレッシャーになるかもしれません。条例に賛成であれば、それを訴えるには直接的な手段以外にも、いろんな方法があるということです。小さなことでも、できることはしておいた方がいいと思いますよ。

同じ8日に滋賀県は「湖面利用税」の概要を発表しました。湖面利用税は琵琶湖での船舶利用者に新しく納税義務を課するもので、利用者に届け出義務を課し、1隻あたり年間3000〜30000円を徴収することになっています。届け出ずみの利用者にはワッペンを交付し、それを船体に貼ることも義務付けられ、違反者には罰則が設けられます。集まった税金は湖岸の環境保全や利用者のための施設整備などにあてるとされています。

湖面利用税の対象からは漁船や行政所有の船舶が除外されるようです。琵琶湖のレジャー利用適正化条例と湖面利用税の両方が実際にスタートすれば、バスアングラーはわざわざ4サイクルエンジンに載せかえたボートを税金を払って琵琶湖に浮かべてリリースできないバスを釣ることになります。その一方で漁業者は、税金を払う必要なく漁船を琵琶湖に浮かべて、食用にならない大量のブルーギルとその数分の1あるいは数分の1のバスを獲って、それを税金で買い上げてもらうことになります。遊びで釣りをしているアングラーだけでなく、ガイドで琵琶湖へ釣りに出て滋賀県に税金を払ってるバスプロでも同じなんだそうです。

投票率わずか8%の知事選で信任されただけでしかない現滋賀政権だけに、支持をつなぎ

止めるのになりふり構ってられないんでしょうけど、やるのがこれだけあからさまだと、もう開いた口がふさがりません。バスアングラーの中にアルカイダのようなテロ組織が誕生して、その標的にされるんじゃないかと心配してしまいます。日本のような平和国家のことですから、そこまではいかないまでも、今やそれと同質の恨みを買いつつあるということを経験したことを強引に押し進めようとする人達は認識してるんでしょうかね。

リリース禁止に対する公開質問状を日釣振が知事に提出 琵琶湖ホット情報(2003/09/21)

秋本番の3連休第二弾のレポート。まずは琵琶湖のレジャー利用適正化条例に関する情報から。

「滋賀県琵琶湖のレジャー利用の適正化に関する条例」の条例案を滋賀県が9月18日に発表しました。それに対して日本釣り振興会は18日、公開質問状を県知事に出しました。

公開質問状は条例案に盛り込まれた外来魚の再放流禁止の撤回、削除を求めるとともに、以下の項目について18日までの回答を求めています。

外来魚増加と在来魚減少の因果関係と過去10年間の科学的データの提出。

再放流禁止による在来魚保全の効果の予測。

条例施行後のバスの回収と管理方法。

条例施行前と後のバスの生息と捕獲状況の変化予測。

また、納得できる回答がない場合は再質問なども検討するとのこと、今後の成り行きが

注目されます。

秋本番の3連休第一弾初日は絶好の釣り日和

琵琶湖ホット情報(2002/09/21)

9月の3連休第二弾初日となった12日の琵琶湖は快晴微風の好天に恵まれ、大勢のバスアングラーが釣りに来ています。多いとは言っても、岸釣りもポイント釣りも入る所がないというほどではなくて、岸釣りは普段の週末よりはやや多いかなという程度、ポイント釣りはトーナメントがらみのエリアを除けば普段の週末並みです。3連休第一弾は中日の15日が一番多かったそうですから、今日よりも明日の方が多いのかもしれないですね。

バスの釣れ具合は、天気がよ過ぎるせいで、かなり難しくなってるみたいです。2人で80尾も釣った杉戸繁伸プロのようなわけにはいかないかもしれないですけど、どこかにいいパターンはありそうです。琵琶湖大橋近くでポイント釣りをしているアングラーが、うんと沖の方で釣ってるのなんかはそれかもしれません。

現在の琵琶湖はマイナス80cmを割る大減水になってます。こういうときは少しでも水の動く場所がいいですね。おまけにシャローからのウィードが沖の方までびっしり広がってますから、ウィードの密度が適当な沖寄りのエリアで水の動きがいい場所というのがホットスポットになる可能性があります。琵琶湖大橋のすぐ北側の沖のエリアなんかは、そういう条件が揃ってるんじゃないでしょうか。

小野沖はシャローの広い範囲が干上がってしまってます。ポイントは沖のウィードエリ

アのさらに沖に浮かんでいて、真野寄りに集中することなく広い範囲に散らばっています。例年なら、そろそろ真野川尻寄りにボートが集まる頃なんですけどね。真野寄りはウィードが多過ぎるっていうアングラーが多くて、そのせいで釣れる場所がかわっているのかもしれない。

岸釣りは和邇川尻でいいサイズのバスをキャッチしてるアングラーを見かけました。立ち込み釣りで二人近くが並んでる中ですから、そう簡単に釣れるわけではないかもしれないんですけど、バスはいるみたいですね。

近江舞子は石積み突堤より舟だまりの出口の水路にアングラーが集まってしまいました。バスの釣れ具合は大したことないみたいです。だいたいのアングラーは、あっちで釣ったり、こっちで釣ったり、ウロウロしてました。浜の方もあまりかわりはないみたいです。

琵琶湖の水位はマイナス8cmを割った後モ下がり続けてます。11日に雨が降って、その直後だけ1cm増水したんですけど、すぐまた減水し始めました。だいたい毎日1cmのペースで減水してるので、今の調子で雨が降らないままだと10月頃にはマイナス1mを割ることになるかもしれません。現在でもボートの揚降などがかなりやりにくくなり始めてるんですけど、そうなったらいろんな所で支障が出てきそうです。

バスもバスアングラーも、この連休が終わったあたりで一雨ほしいところですね。一雨では足りないかもしれませんが、二雨でも三雨でもドカンと降ってほしいところです。誰も代弁してくれないけど、琵琶湖の在来魚達も同じことを思ってるんじゃないでしょうかねえ。

天気予報は明日の午後から下り坂になって、明後日は天気がよくないようなことを言って

ます。当たるかどうかはわからないし、このところの雨は琵琶湖をわざと避けて降ってるみたいなんですけど、琵琶湖で釣りをするんだったら3連休最終日の28日がいいかもしれませんね。

杉戸繁伸プロがゲストと2人でバス120尾の大爆釣!! 琵琶湖ホット情報(2002/09/28)

杉戸繁伸プロが9月16日に続いて、またまたやってくれました。今度は28日のガイドで、ゲストと2人で120尾です。

27日夜から雨になった琵琶湖は、コアユの接岸で絶好調。杉戸プロは湖西のウィードエリアで、午前8時30分から正午までの間にゲストと2人で約80尾程度、午後はしばらくの間ビッグサイズ狙いに走ったんですけど、バイトがなかったのでふたたび釣りエリアへ行って約10尾をキャッチしました。最大は33cm。ルアーはミノー、スピナーベイト、バイブレーションがメインだったそうです。詳しくは杉戸プロのレポートをらんくください。

しばらくぶりの雨によるコアユの接岸で、北湖は数釣りに絶好のタイミングになってます。28日の日曜日曇り空が続くようですから、爆釣が期待できるかもしれません。長期予報はなかなか当たらないんですけど、参考のためにお伝えしておく、来週前半まではつきりしないお天気が続くとのこと。これって大チャンスかもしれませんよ。

雨が降っても水位は上昇せず。それでもバスは入れ食い 琵琶湖ホット情報(2002/09/30)

雨は降ったんですけど、琵琶湖の水位は上昇してません。雨が降る前の27日の朝がマイナス93cmで、雨後の30日の朝がマイナス94cmですから、減水が一時的にストップしただけです。

おかげでリブレのボートヤードのスロープは上の写真のような状態になってしまいました。トレーラーを浸ける部分は水深があるから、なんとかボートを載せることはできるんですけど、それ以外は浅いのでエンジンをチルトアップして慎重に入ってこないといけません。休日とその後でボートの揚降が集中するときなんかは仕事がたいへんです。リブレから沖へ出ていく水路も浅くなってしまってるので、エンジンを使わずにエレクトリックモーターで、それも揚げ降ろし用のコードを引っ張って浅く持ち上げながら出ていくボートが多いくらいですからね。さあ釣りに行くぞ、という勇ましい感じとはぜんぜん違います。

バスの数釣りはまだ続いています。28日にゲストと2人で1.5kg尾の爆釣をした杉戸繁伸プロだけでなく、リブレのフィッシングガイドでは三村和弘プロ、河畑文哉プロもよく釣ってます。サイズは20cmくらいまでなんですけど、釣るうと思えばいくらでも釣れるくらい、1日中入れ食いが続くそうです。ひさしぶりに雨が降ってコアユが接岸してるからよく釣れるんですね。北湖のあちこちに入れ食いエリアができてます。

下野正希プロは28日のガイドで朝のうちに南湖で2kgクラスをキャッチし、1.5kgクラスをバラしています。キャッチしたのはヘビィキャロライナリグ、バラしたのはバスバイトだそうです。午後も大きいのを狙いにつたけど、マメしか釣れなかったそうです。JB琵琶湖マ

スターズトーナメント初日の27日に3kgオーバーのビッグフィッシュをキャッチした下野プロは、2日目の28日はノーフィッシュでした。その翌日の29日にまたまたグッドサイズをキャッチして、いい感じはいい感じなんですけど、下野プロは「昨日釣れとけよ」と言っていました。南湖は大きいのが釣れるけど、誰にでも釣れるというわけではなさそうです。

現在の琵琶湖北湖はひさしぶりに数釣りのパラダイスになっています。台風12号が北上したりして、まだしばらくはあやしい天候が続くそうなので、入れ食いも続きそうです。これって、気持ちよく琵琶湖バスの数釣りを楽しめる最後のチャンスかもしれません。今のうちに釣りに行つといた方がいいかもしれませんよ。

リリース禁止条例の審議が滋賀県議会でスタート

琵琶湖ホット情報(2002/10/01)

琵琶湖で釣ったバスのリリースを禁止する「滋賀県琵琶湖のレジャー利用の適正化に関する条例」の実質審議が9月28日からスタートしました。滋賀県議会の9月定例会の初日である25日に県知事から出された条例案に含まれるバスのリリース禁止条項は、6月28日に発表された要綱案と本質的に何もかわっていません。「琵琶湖におけるレジャー活動として魚類を採捕する者は、外来魚(ブルーギル、オオクチバスその他の規則で定める魚類をいう。)を採捕したときは、これを琵琶湖に放流してはならない」となっていて、罰則規定を設けずにバスのリリースを禁止しています。

30日には本会議の代表質問が行われ、同条例案に質問が集中したそうです。質問を受けた

県知事はリリース禁止について、「琵琶湖は外来魚に占められて危機的な状況であり、阻害要因を取り除く必要がある。努力規定では効果が見込めず、禁止に踏み込んだ」と強調し、罰則規定を設けなかったことについては、「再放流の習慣は釣り人の多くに浸透しており、社会通念上、刑罰の適用や証拠の確保が難しいためだ」と回答したそうである。

これってつまり、努力規定では効果が見込めないから条例でバスのリリースを禁止しておきなから、再放流の習慣は多くの釣り人に浸透しているなどの理由から罰則規定を設けなかったということなんですけど、話がぜんぜん違うじゃないでしょうか。努力規定で効果が上がらなかつたのは、今までバスアングラーの習慣や考え方を無視し続けてきたからです。その点を省みることもなく、2000余りにも及ぶアングラーからの反対意見を無視して、つまりバスアングラーの習慣や考え方を無視したまま、条例でバスのリリースを禁止しようとしているわけなんですけど、リリースが禁止されたらというアンケートに約30%のバスアングラーは琵琶湖ではバスフィッシングをしないと回答しています。これでは二重の意味で条例の効果なんか上がるわけがありません。

まず一つの問題点として、努力規定と罰則のない条例と何が違うんでしょうか。もし条例が施行されたら、リリース禁止を守るバスアングラーは琵琶湖に来なくなりそうです。その一方で、罰則のない条例なんか平気で無視するようなバスアングラーはいかかわらず琵琶湖へ釣りに来て、釣れたバスは平気でリリースします。きっと、マナーのかけらも見られない荒れ果てた釣り場ができてしまうでしょう。この点は、すでに多くのバスアングラーから指摘されている通りです。

それと、もう一つの問題点として、来年4月から条例が施行されて、その直後の4月と5月だけでもバスアングラーが激減し、トナメントも開催されなかつたら、結果がどうなるかは陽を見るより明らかです。そのために増えたバスを漁師の漁獲努力だけで獲り切れるでしょうか。あるいは、有り余るほどの予算を組んで、漁師が獲ったバスをどんどん買上げたら、それで本当に琵琶湖の外来魚は減るんでしょうか。

条例を作っても外来魚が減らなかつたら、バスアングラーが条例を守らないからだという理由で、またまたその理由が本当かどうかの議論もなく、新たに罰則規定を設けようということになるかもしれません。その結果、さらにバスアングラーが減って、それで増えたバスを漁師ががんばって獲って、それを税金で買い上げるといったことになりそうです。これで誰が一番おいしいめをするかは、今さら説明するまでもないでしょう。

加藤誠司プロが実行委員長を務める琵琶湖バス釣り人協議会から提出された意見書の主旨は、条例が施行されても外来魚が減る保証はどこにもないどころか、増える可能性さえあるという点を特に問題視した上で、より現実的な妥協案を探ろうというものだったんですけど、残念ながら同協議会の努力は無に帰してしまいました。

「再放流の習慣は釣り人の多くに浸透しており、社会通念上、刑罰の適用や証拠の確保が難しい」から罰則規定を設けないというのは、バスアングラーをバカにするのもいいかげんにしろと言っておきましょう。こんなことで琵琶湖の環境を守れると本気で思ってるんだつたら、バカもバカ、大バカ者です。って言うか、本当は琵琶湖の環境を守るうなんて、これっぽっちも思っていないんでしょうか。そんなことはどうでもよくて、琵琶湖の環境を守る

ための条例を作った、立派な仕事をした、そういう実績作りだけが狙いなんだということが、議会でやり取りからもよくわかります。

県の環境課の担当者は、外来魚のいない琵琶湖にすることが最終目標だとまで言ってるんですけど、そんなことは不可能です。その目標に近づくだけでも想像を絶する努力が必要なのは間違ありません。そのままの結果、それで在来種が増えたらいいんですけど、在来種が減った原因が本当は外来魚以外のところにあつたら、最後にはいったい何が残るんでしょうか。

公聴会で発言してる研究者の中には、琵琶湖でルアー釣りをしてほしくないと思ってる人物もいるようです。つまり、バスアングラーは琵琶湖に来るなということなんですけど、これってとんでもない考え違いだと思います。琵琶湖へ遊びにやってくる人の多くを占め、釣り人の多数派でもあるバスアングラーを追いかけて守った琵琶湖の環境って、いったい何なんでしょうか。何か本当に守られるものがあるのだとしても、バスアングラーを追いかけて守って守ることが、いったい何の役に立つんでしょうか。

そういう勘違いから本当の自然破壊が起こるんじゃないかと思えます。そんなバランス感覚のかけらもない研究者を重用すると、バスアングラーの意見を無視した条例案が出てくると、根は同じところにあるんじゃないでしょうか。滋賀県に税金を収めてるバスアングラーは、そんな研究者は即刻辞めさせるとはっきり言う必要があると思えますよ。

滋賀県議会の9月定例会の本会議は、この後、10月3日、4日、7日に一般質問、16日に採決が行われ閉会になる予定です。つまり、審議が予定通り進めば、あと2週間ほどで琵琶湖のバスのリリースが本当に禁止されるかどうかの答が出ます。どんな結果が出るかに注目するだけでなく、決まったことに対してバスアングラーとしてどんな態度を取るかを考えるためにも、審議の経過をしつかりと見守る必要があるんじゃないでしょうか。

台風21号で水位が上昇しパターン急変

琵琶湖ホット情報 (2002/10/03)

台風21号が秋雨前線を刺激して降らせた雨で、滋賀県琵琶湖は水位がちょっとびり回復しました。10月1日の朝がマイナス94cmだったのが、同日の夕方にはマイナス90cmまで上昇しました。その後、2日の朝はマイナス92cm、3日の朝はマイナス91cmと微妙な変動を見せています。

台風21号の影響は雨だけでなく、1日の午後は東寄りの強い風が吹きました。下野正希ブ口はこの日のフィッシングガイドを午後3時に切り上げています。2日には天候が回復したんですけど、今度は南寄りの風が強くなって、南湖は大荒れでした。

琵琶湖周辺で降った雨は20mm以上だったそうです。これで水位が上昇したんですけど、2日からは天候がすっかりよくなりました。このまあいよいよ天気が続くと、また水位が下がり始めそうです。普通なら、これから秋が深まるにつれて雨は次第に少なくなっていくんです。水温と気温が下がるから湖面からの蒸発量は少なくなるので、琵琶湖の水が自然に減る勢いは真夏ほどではなくなるんですけど、ベースが落ちるといっただけで、雨が降らなければ減水し続けことにかわりはありません。

今でもボートの運航に支障が出てるマリナーやレンタルボート店がたくさんあるんですけど、9月9日のマイナス24cmの記録に迫るぐらいの覚悟はしとかなないといけないかもかもしれませんね。異常気象でも何でもいいから、とにかくあと2回ぐらいはまとまった雨が降って、秋の後半以降のカラカラ天気が出て来る前に水位が戻ってくれないことには、このまま冬に突入したらいへんなことになってしまいます。

台風2号以降のバスフィッシングの状況は、コアユの接岸による入れ食いも落ちてきたようです。北湖の岸寄りではコアユの群れやバスのポイルがまだあちこちに見えてるんですけど、9月8日から8日頃のような数釣りはできてません。なれたアングラーなら20尾や20尾は釣るうと思えば釣れるから、決して悪い状態ではないんですけど、台風前のように1日中入れ食いというわけにはいなくなってきました。台風の影響でバスが動いたということも考えられるので、しばらくたてばまたよく釣れるようになる可能性は十分あるんですけど、まったく同じパターンが戻ってくるかどうかは、この後の様子を見てみたいとわかりません。

台風の影響は南湖の方が強くて、パターンがはっきりとかわりつつあるようです。水温の下がり方が急なんですよ。これからしばらく、南湖のバスフィッシングは秋らしいめまぐるしいパターン変化が続くことになりそうです。

秋の好天に恵まれた3連休中日。岸もボートも大入り満員 琵琶湖ホット情報(2002/10/13)

さすがにすごい人出ですね。3連休中日の10月13日の琵琶湖は快晴無風の好天に恵まれ、岸釣りもボート釣りも大勢のバスアングラーでにぎわいました。上の写真は近江舞子なんですけど、舟だまりの中も、水路も、石積み突堤も、浜も、どこもかしこもアングラーだらけです。

バスは舟だまりにつながる水路にちっちゃいのがたくさん見えてました。ウィードの上をブルーギルと一緒に遊んでススイと泳いでるんですけど、ルアーではなかなか釣れません。半分ぐらいのアングラーは生きたエビを使ってエサ釣りをしています。内湖からのドンドン落ちのすぐ横で釣ってた子供に聞いたら、朝から10尾ぐらい釣れたって言ってました。エサ釣りですけどね。ルアーでは多くて10尾ぐらいまでで、普通は何尾か釣れたらいい方です。石積み突堤の沖で午前中にバスがポイルしてたそうですから、もうちょとしたら本格的に釣れ始めるかもしれませんね。

ボート釣りは3トナーナメントが開催されていた南湖が大入り満員のぐちゃぐちゃ状態。北湖も調子のいいポイントはボートが何隻も集まっています。さすがにこれだけ混雑すると難しいみたいで、3トナーナメントは5尾で3kg前後釣れば10位以内に入賞できるというロースコアの大会になってました。これって30cmちょっとのナイスキーパーを5尾揃えれば上位に入れるわけですから、40cm前後はなかなか釣れないということですよ。南湖はしばらく前までにくらべると、よく釣れるサイズが小さくなって、20~25cmまで落ちてるようです。それと、45cmオーバーの大きいのも急激に釣りにくくなり始めてます。

北湖は12日に杉戸繁伸プロがフィッシングガイドに出ていました。その報告によると、9

月後半に数釣れたのと同じようなエリアで釣りをしているも、サイズにすぐムラが出始めるとのことです。北湖でも数釣れるサイズは小さくなって、25cmくらいまでがメインだそうです。そのかわり、数釣りしてたときにはなかなか釣れなかった50cm前後が釣れたり、ビッグサイズにラインを切られたりするようになっています。

これって、北湖も南湖もいよいよ秋の真つただ中だということですね。13日はお休みしていた杉戸プロは、明日14日は海へ行かずにはガイドに出るとのことです。はたしてどんな結果が出るか、詳しくは杉戸プロのレポートをごらんください。

3 連休最終日はバスもアングラもスローダウン

琵琶湖ホット情報(2002/10/14)

さすがに3連休の最終日となるとバスアングラは減ります。10月14日の滋賀県琵琶湖に出ているバスフィッシングのポートは、3連休中日で「B」トーナメントが開催されていた13日の半分ぐらいです。それでも普段の週末よりやや多めですけどね。

上の写真は南湖の堅田沖です。13日も14日もたくさんのポートが釣りをしてるんですけど、拡大写真をごらんになれば、13日の方が浮御堂沖のポートの密度が明らかに高いことがわかると思います。トーナメント中はこういうことになるんですね。

岸釣りアングラは13日にくらべるとうんと少なくなって、普段の週末よりも少ないぐらいです。3連休の間、ずっと天気がよかったので、来る人は昨日までに来てしまった感じですが。それと、14日はお昼前ごろから北寄りの風が強くなったので、早めに引き上げたアング

ラーが多かったのかもしれない。バスは13日よりもさらに釣れなくなりました。連休が3日も続くと、最終日はバスもアングラもスローダウンするみたいです。

今回の3連休は好天に恵まれ、大勢のアングラが琵琶湖へやって来ました。季候がいいシーズンの連休は、子供や女性、ファミリーやカップルがたくさん釣りに来て、釣り場はにぎやかな雰囲気になります。これがだんだんと寒くなってくると、同じ連休でも本格的なアングラーしか釣りに来なくなります。二月上旬の文化の日がらみの連休あたりがその境目で、二月下旬の勤労感謝のがらみの連休になると釣り場の雰囲気はがらりとかわって、その後はエキスパートやマニアだけの世界になります。

琵琶湖の外來魚リリース禁止条例は、まず間違いなく今週には滋賀県議会で可決されるでしょう。来年4月以降、バスのリリースが禁止されたら、この3日間のような楽しい光景は二度と帰ってこないかもしれません。皆さんも今のうちに、せいっぱい楽しんでおいてください。二月の連休も天気がよかったですね。

新たなフェーズに突入したリリース禁止問題

琵琶湖ホット情報(2002/10/17)

「琵琶湖で釣ったバスのリリースを禁止する」滋賀県琵琶湖のレジャー利用の適正化に関する条例」が滋賀県議会9月定例会の最終日となった10月15日に可決成立しました。同条例は来年4月から施行され、バスのリリースができなくなります。緊急速報では条例の内容をごく簡単にしかお伝えできませんでしたが、ここであらためてバスフィッシングに強く関

わる部分がどういう内容になっているかご紹介しておきます。

まずバスのリリース禁止についてですが、条例では「琵琶湖におけるレジャー活動として魚類を採捕する者は、外来魚（ブルーギル、オオクチバスその他の規則で定める魚類をいう。）を採捕したときは、これを琵琶湖に放流してはならない。」となっています。罰則規定がないので、ただちに処罰されるというわけではありませんが、これにより来年4月からは琵琶湖で釣ったバスやブルーギルをリリースすると条例違反になります。

次に2サイクルエンジンの使用禁止ですが、条例では「プレジャーボートの操船者は、2サイクルの原動機（規定で定める方式の2サイクルの原動機を除く。）を推進機関（補助的な推進機関を除く。）として備えるプレジャーボートを琵琶湖において航行させてはならない。」となっています。条例のこの部分は2008年4月1日から施行されることになっており、その時点ですでに所有されている2サイクルエンジン付きプレジャーボートには2008年3月末まで条例は適用されません。

この部分はちょっとややこしいので補足説明をしておきましょう。2006年4月以降は、新規の2サイクルエンジン付きプレジャーボートを琵琶湖に降ろして航行すると条例違反になります。2006年3月末の時点ですでに所有されている2サイクルエンジン付きのプレジャーボートは、2008年3月末までは使い続けてもかまいません。「すでに所有されている」という部分の意味は、ほかの湖や海で使っていて、琵琶湖には浮かべたことのないプレジャーボートでも、2006年3月末の時点ですでに所有されているボートであれば2008年3月末までは琵琶湖で使っても条例違反にはならないということです。「すでに所有されている」というこ

とですから、中古ボートを買って登録したのが2006年4月以降だとアウトということになるんじゃないかと思うんですけど、そのあたりの詳しいことはボート屋さんか滋賀県環境課に問い合わせて確認した方がいいかもしれませんね。

条例にはさらに、プレジャーボートのマフラーの改造禁止や騒音禁止、航行規制などについても様々な規定が盛り込まれています。マフラーの改造や騒音の部分はバスフィッシングにはあまり関係ありませんが、航行規制にもいろいろと細かい指定があって、条例の文面を読んでもよくわかりませんが、規制区域や航行方法などについては、いずれ条例が施行されるまでに詳しい説明があると思います。条例が施行されるまでに、事前にそういうパンフレットなどを手に入れて熟読しておいた方がいいと思いますよ。

同条例については、Bassingがわら版でもこれまでいろいろとお伝えしてきましたが、数万人に及ぶバスアングラーや関係各位の多大の努力のいかなく、とうとう県議会で可決されてしまいました。来年4月から琵琶湖でバスのリリース禁止が現実のものとなります。これからは、来年4月1日の条例施行に備えての、新たな行動のフェーズに移らないといけません。行動計画の中には、実力行使に近いものも含まれることになるでしょう。これまでよりも具体的で、1人1人の皆さんが参加しやすい行動を提案していかないとイケません。ジャッカルに加藤誠司プロもいろいろと考えているみたいなんですけど、Bassingがわら版でもBBCホット情報やEditorialを通じていろいろと提案していきたいと思っております。

10月17日付けのasahi.com滋賀版が伝えるところによると、「滋賀県琵琶湖のレジャー利用の適正化に関する条例」が滋賀県議会で可決されたことを受けて、大津市内の20歳の男性が県を相手に再放流禁止義務の不存在確認訴訟を大津地裁へ起こす方針を表明したそうです。男性の話では「条例は個人の自由を束縛する。訴訟を機に釣り人の意見を広めていきたい」とのこと。ほかにも同条例をめぐっては、いくつかの提訴の動きがあり成り行きが注目されます。

リリース禁止に関して県知事が意向を表明

琵琶湖ホット情報(2002/10/24)

10月23日付けのasahi.com滋賀版が伝えるところによると、バスアングラから多くの反対意見が寄せられながら10月16日に成立した「滋賀県琵琶湖のレジャー利用の適正化に関する条例」に関して、滋賀県の国松知事は10月22日の定例会見で、日本釣振興会や近隣府県の知事に条例の主旨を説明し理解と協力を求めていく意向を明らかにしたそうです。

国松知事は、外来魚のリリース禁止に反対意見が多く寄せられた経緯などを踏まえ、「皆さんに新しいルールを守ってもらう形にしていきたい」とし、日本釣振興会の麻生太郎会長らと会談したい考えを示したとのこと。日釣振の麻生会長とは、自民党国会議員で現政調会長の麻生氏のことなんですけど、この名前、来年4月から琵琶湖でバスのリリースが禁止されるに至った一連の経過の中で、今回初めて出てきたんじゃないでしょうか。

日釣振の会長って、いったい何なんでしょうつかねえ。今頃になって初めて名前が出てくるような人物に滋賀県知事が会って、何をしようって言っただけでしょう。それでバスアングラに対する説明が行われたとするなら、とんでもない間違いです。もしそのような手続きに日釣振が利用されて、自民党議員と滋賀県知事が会談したことで今回の条例の問題がシヤンシヤンになるとしたら、つまり日釣振が政治的な手続きのために利用されるだけとしたら、これってまったくアングラのためになってないどころか、害になってるだけです。

それだったら、いつそのこと日釣振なんか解体して、全アングラを代表する組織なんかどこにもないという大昔のアナキーな状態に戻してしまった方がいいんじゃないでしょうか。そうすれば、県知事が何かしようとするときに、誰を相手にしたらいいのかわからないから、へたに利用されることもなくていいと思います。日釣振がなかったら、琵琶湖で起こった今回の問題に対して、バスアングラを代表する組織を作って対処しようというような動きが出てきたかもしれません。そういうことをしようというアングラがなかなか現れないとか、そういうことをし始めたらずぐに横槍が入ってつぶされるとか、利権争いが始まるとか、アングラの側にも問題があるのは事実ですが……。

日釣振というのは今から8年ほど前に日本釣り団体協議会と相前後して、きわめて政治的な要求から誕生した団体ですから、こういう結果になるのも無理はありません。とりあえずは、釣り人の団体ではなくて業者の団体であるという事実だけでもはっきりさせておいた方がいいと思うんですけど、いかがなものでしょうか。

国松知事は、琵琶湖のレジャー利用者の多くが県外から来ていることから、「利用者の多い

大阪や京都、愛知の知事に条例を説明し、理解、協力を求めたい。できれば今月中にも実行したい」とも述べているそうです。これって、例えば大阪府民の著者に対しては、太田房江大阪府知事に会って、バスのリリース禁止の告知に協力を求めるといっただけのことですね。もう一つ、これはasahi.comではありませんが、「滋賀県琵琶湖のレジャー利用の適正化に関する条例」は釣りを禁止するのではなく奨励する条例であると知事が語り、キャッチアンドイトの新ルールに協力を求めていくと滋賀県が主張しているとの報道があります。つまり、アングラーによるキャッチアンドリリースという文化はいまだに県側に理解されておらず、バスアングラーの主張も無視されたままです。アンケートに回答したバスアングラーの2%が、バスをリリースできないなら琵琶湖へは釣りに行かないと答えた事実に対して、今でもこんなことを言い続けるのは、いくら政治的な都合があるとしても、バスアングラーをバカにしてるとしか言いようがありません。

秋の後半に突入した琵琶湖 近江舞子の岸釣りが好調 琵琶湖ホット情報(2002/10/26)

10月26日の滋賀県琵琶湖は朝から曇り空で、午後には雨が降りだしました。しぐれもよりのパラパラと降る冷たい雨です。バスアングラーはそんなに多くありません。さすがに寒くなってきましたからね。岸釣りは普段の週末並みかやや少なめ、南湖に浮かんでるボートは「トーナメントが開催されてたときの半分以下です。」

琵琶湖大橋から南を見ると、10月中旬までは堅田沖から木浜沖にかけての一面にバスフィ

ッシングのボートが浮かんでたのが、26日は堅田寄りと木浜寄りに分かれてました。釣れ方がかわってきたんでしょつが。

近江舞子の岸釣りは、秋の後半の好シーズンに突入したようです。26日のお昼ごろに石積み突堤の先端で釣りをしていたアングラーに釣れてるかどうかが聞いたら、「まあまあです」って言いながら、目の前で20cmぐらいのを釣ってました。これぐらいのが朝からポロポロと釣れ続けているんだそうです。

舟だまりのドンドン落ちで釣っていたアングラーは「それなりに釣れてます」と言っていました。足元にはたくさん的小バスが見えてて、その下には30cmぐらいのも見えています。「小さいのは釣れるけど、大きいのはなかなか釣れない」とのことでした。水路で釣っていた2人組は「ぜんぜん」という返事でしたから、調子いいと言っても、それなりにちゃんとした釣り方をしないと釣れないのかもしれないですね。

近江舞子は1週間から2日ぐらい前から調子がグンと上向いたんだそうです。確かに石積み突堤の足元も水路も舟だまりの中も小バスがたくさん見えていますし、30cmぐらいのもあちこちで見ることができました。これで北風が吹いて一段と冷え込んだら、ますます調子よくなるかもしれません。天気予報は26日夜から北の風が強くなって冷え込むって言ってます。27日は厳しい釣りになるかもしれないんですけど、これでもっとたくさんバスが集まってくれたら、いよいよ本格的な岸釣りシーズンですね。

琵琶湖はネコも冬のパターンになりかけてます。下野正希プロの家の喫茶店TouTouXへ行ったら、ベットのあそばるばんがお客さんの女の人の膝に乗ってなごんでました。暖かい膝

の上からネコが離れようとしなくなったら冬のパターンです。

秋の後半を飛び越して冬の初めみたいな琵琶湖

琵琶湖ホット情報(2002/10/27)

10月27日の滋賀県琵琶湖はグッと冷え込んで寒くなりました。まるで秋の後半を飛び越して、一気に冬の初めになったみたいです。こうなるとさすがにアングラーが減ります。上の写真は野洲川河口のすぐ近くにある吉川漁港なんですけど、北西の風がまともに吹き付けて、いかにも寒そうです。それでも「まあまあ釣れる。大きいのは45cmぐらいのが釣れた」と言っていましたから、ここも岸釣りのシーズンになってるみたいですわね。

吉川漁港内の石塚マリナーではLBBC(Lake Biwa Bassfishing Competition)のトーナメントが開催されていました。LBBCは16t、70馬力以上のボートに限定のフライベイトトーナメントです。普段は琵琶湖全域がトーナメントエリアなんですけど、今回は荒天に配慮して南湖限定になりました。南湖とは言ってもLBBCの場合は、野洲川北流河口の岬と和邇川河口の岬を結んだ線から南がエリアになります。

琵琶湖大橋から南のエリアは午前中、南風が強くて大荒れで、とても釣りにくかったそうです。トーナメントの上位入賞者のコメントには和邇浜、鮎屋、ラフォーレ、堅田などの地名が出てました。釣り方はソフトベイトのライトリグというのが多かったんですけど、中にはクランクベイトの男引きで30cm台後半のバスを選んで釣ってきたというアングラーもいました。

南湖に浮かんでるボートは昨日にくらべると半分以下の減り方です。大荒れだから無理もないんですけど、それでも釣りをしてるがんばり屋さんのボートは、琵琶湖大橋から見える範囲では名鉄沖に集中してました。そろそろエリア的に絞られてくる季節なのかもしれませんね。

近江舞子の岸釣りアングラーも半分ぐらいになってました。上の石積み突堤の写真を見る限りは、前日とくらべてそんなに減ってないように感じるかもしれませんが、水路から舟だまりにかけてはアングラーがうんと少なくなっています。

石積み突堤の先端では、昨日と同じアングラーが釣りをしました。京都から2日連続で釣りに来たんだそうです。どうですかって聞いたら、「まあまあ釣れるけど、昨日よりは渋いですね」という返事でした。足元にはたくさんバスの見えてるんですけど、やっぱり風が強くて寒いから釣りにくくなってるのかもしれないですね。石積み突堤に並んだアングラーの服装も、黒っぽいフリースとか防寒ウェアが多くなっています。いよいよ寒さに備えないといけないシーズンですね。

琵琶湖は寒くなってもまだシャローのミノーが好調

琵琶湖ホット情報(2002/11/02)

滋賀県琵琶湖は3月末から急に寒くなって、冬の始めごろみたいな天候が続いています。水温も下がって南湖は5度以下、北湖でも12度前後になってるんですけど、まだシャローのウイードエリアにはバスがたくさんいてミノーでガンガン釣れてます。

このところ好調の杉戸繁伸プロのフィッシングガイドのブラクティスに同行して、二月2日にひさしぶりにバスボートで琵琶湖へ出ました。杉戸プロは「D」ミノーとスクワレル、それにジャッカルから間もなく発売されるマスクの量産試作品を使って次々とバスをキャッチしていきます。

場所は北湖の南寄り、水深2m前後のシャローのウィードエリア数カ所です。シークレットのような場所は1カ所もなく、すべてバスアングラーによく知られた有名な場所です。そんなポイントでも20~25cmぐらいのバスがたくさんいるみたいで、釣るうと思えば入れ食いに近いペースで釣れてきます。その中に、ときおり25~30cmちよつとぐらいのがまじってくる感じです。もつちよつと大きいのも粘れば釣れるとのことなんですけど、そうなる時間帯がかかりそうです。

この日は3連休の初日だったんですけど、寒くて風が強いという予報が出ていたので、バスアングラーはそんなに多くありませんでした。北湖のポイントを何カ所か回った中でボートが多かったのは、小野沖ぐらいのものです。岸釣りは、和邇川尻に立ち込んで釣ってるアングラーが数人いました。

杉戸プロは小野沖でも次々とバスを釣ったんですけど、まわりのボートはほとんど釣ってませんでしたが、釣り方が違うんですね。ミノーでよく釣れるのに、まわりのボートはほとんどがソフトベイトのライトリグでスローに釣ってます。一部スピナーベイトなどを使ってるアングラーもいるんですけど、ミノーをキャストしてるアングラーはいませんでした。

マスクのテスト結果は上々です。これってコンセプト的なことを考えれば、必ずしも琵琶湖のシャローのウィードエリアをテンポよく釣っていくのが得意なタイプのルアーではないと思うんですけど、杉戸プロのお気に入りである「D」ミノーとくらべても負けてません。ということ、ていねいに食わせていけないといけないような局面になったら、つまり、このルアーがもっとも得意とする状況で使ったら、けっこうすごいんじゃないでしょうか。

テストした杉戸プロの感想は、「はまったら恐そうなるルアーですね」とのことでした。それと、杉戸プロが釣ってるのを見ていて気が付いたんですけど、マスクはボディが柔らかな素材でできてるせい、掛かったバスがバレ難いような気がしました。

杉戸プロによると、去年の秋にスクワレルを使って数釣ってたのと同じエリアで、この秋はミノーが効いてるんだそうです。その原因は、ウィードが多くなってるかららしいんですけど、「この分なら12月頃まで数釣れるんじゃないか」と杉戸プロは言ってます。琵琶湖周辺の山は、この2日ぐらいの間に急に紅葉が目立つようになっただけです。二月中旬に一度ぐらいは暖かい日が帰ってくることもありそうです。琵琶湖はまだ当分の間、バスの数釣りが楽しめるんじゃないでしょうか。

微妙に風向きがかわってきた琵琶湖バスのリリース禁止 琵琶湖ホット情報(2002/11/07)

琵琶湖の外来魚リリース条例に関して二、三の進展がありましたのでお知らせします。

滋賀県議会の9月定例会で成立し来年4月から施行される「滋賀県琵琶湖のレジャー利用の適正化に関する条例」に関して、滋賀県知事が釣り人の理解を求めめるための会談を日本釣

り振興会の麻生太郎会長に求めていたことは10月21日のBBCのホット情報でお伝えした通りですが、日釣振は同県に対して知事との会談を断ると11月1日に電話で回答し、その理由などを5日に書面で伝えたとのことでした。知事との会談を断った理由については、「日釣振が県に申し求めた」琵琶湖の魚類生態合同調査などの要望に納得できる回答がなかった、「具体的資料を添付して要望を提出したが、県が真剣に検討したとは認められない」などから現時点での会談には意味がないとしています。

これに対し滋賀県知事は5日の定例会見で「麻生会長でなくても、会のしかるべき人に会って説明したい」と語ったそうなんですけど、知事が日釣振のしかるべき人物に会って、今さら何を説明するって言うんでしょうか。説明したところで、意見を無視されたアングラーが納得すると思ってるんでしょうか。知事が言うところの「しかるべき人」って、いったい誰なんでしょうか。きつといつものことで、アングラーが誰も知らないような人なんじゃないでしょうかねえ。

まあ、知事が釣り人に対する説明義務を果たしたという既成事実を作るために日釣振が利用されるといふ最悪のシナリオはこれで回避されたということでしょうか。だけど、麻生会長にかわる別の人物が誰か出てくるのか、あるいは何か別の方法を考えることになるのか、もしかしたら釣り人に対する説明なんかしないままでもリリース禁止に突入することになるのか、これからの進展に注目する必要があるそうです。それにしても、根本的に間違ってる点は訂正されないままなんですけど、そこところはどうするんでしょうか。日釣振は釣り人の代表組織でなく業者の代表組織です。知事が日釣振の誰と会っても釣り人に説明したこと

にはならないと思うんですけど、そんなことも理解できない人物が知事なんかやっていいんでしょうか。

次に、滋賀県は来年4月からのリリース禁止の実施にあたって、湖岸沿いに外来魚回収用のイケスを設置する方針を決めたそうです。イケスは滋賀県漁連が県の助成を受けて外来魚を回収している回収力の漁港近くに設置する予定で、陸上に設置する回収ボックスと合わせて約300カ所になるとのこと。また、県は条例施行後にアングラーが多い場所でビニール袋を配るなどして、釣り上げた外来魚を持って帰って食べることを勧め、処分にも困る人のためにイケスと回収ボックスを設置するんだそうです。

これにも問題があります。現在、琵琶湖の漁港の多くには釣り禁止や立入禁止の看板が立てられてるんですけど、そんな漁港にもイケスや回収ボックスが設置されるんでしょうか。って言うのが、釣り公認の漁港が回収力の所もないと思うんですけど、釣り禁止の漁港の「近く」にイケスを設置して、港内で釣ったバスは港の近くのイケスがある所まで持って行って入れると、本気でそういうことをしようと思ってるんでしょうか。

本当にそんなことするんだったら、漁港でバスを釣ったアングラーは港内を見渡して、イケスが見付からなかったら滋賀県庁の環境課へそのバスを届けに行つた方がいいと思いますよ。そして、漁港の近くにイケスがあると聞かれたら、なぜ港内になのか説明を求めましょう。釣り禁止あるいは立入禁止だから港内にないんだって説明されたら、誰がどんな権限で釣り禁止、立入禁止にしているのか説明を求めればいいと思います。港内にスペースが取れないなどという説明だったら、アングラーが外来魚の回収に協力しようって言うてるのに、

なぜ港内にイケスを設置する努力をしないのかってガーンと言ってやればいいと思います。

そういうお役所的な回答をいっぱい見ることが出来るホームページが滋賀県のサイト内に新しく設置されました。「滋賀県琵琶湖のレジャー利用の適正化に関する条例」の要綱案に対して大勢のバスアングラーから寄せられた反対意見に対して、「ごいねいにも一つ一つ反対の反対意見を述べていう、おそろくこのことが目的で設けられたページなんだと思うんですけど、官僚作文の典型みたいな文章を読むことができ、こういう説明ができないんだなど、ある意味でとても楽しめるページです。

これって、けっこうたいへんな努力とお金がかかっていると思うんですけどね。アングラーの意見を無視したって言われないようにしようと思ったら、税金使ってこんなことまでしないといけないからたいへんです。だけど、こんな傷口にタバスコを擦り込むようなページを見たバスアングラーは気分を害するだけなんじゃないでしょうか。まあ、アングラーのこともなんか最初からどうでもよくなって、主な目的はアングラーの意見を無視してるんじゃないって一般の人に訴えることで、ここまで説明してもアングラーは言うことを聞かなかったとかなんとか、条例が施行されてから何かあったときに言えるように今から準備しておこうという魂胆があります。

こういうことをしながら一方では日釣振のことも無視できなくて、その日釣振にも知恵が付いてきてうまく立ち回るようになってきてるんだとしたら、滋賀県や知事はこれからちょっとたいへんです。なにしろ背後には10万、100万単位のバスアングラーがいますからね。問題は、日釣振がこの切り札をいかにうまく使うかです。条例はすでに成立しちゃってるん

ですけど、ちよつとは関係各位の努力のかいあって、バスアングラーの方にも風回ってきてるのかもしれない。本当の勝負はこれからなのかもしれないね。

11月上旬の雪景色でパターン激変の琵琶湖

琵琶湖ホット情報(2002/11/10)

滋賀県琵琶湖は周囲の山に雪が積もって、もう見るからにさぶーって感じですよ。湖東の伊吹山は10月末に雪が積もったんですね。これって、例年より1カ月以上早いんだそうです。二月に入って湖北の賤ヶ岳や湖西の比良山にも雪が積もりました。景色は完全に真冬みたくです。それでもバスアングラーは釣りに来ます。連休やトーナメントが開催されるときみたいに多くはないんですけど、10日の日曜日は寒くて風が強かったにもかかわらず岸釣りもそこそこ来てたし、ボートもけっこう出てました。本当にバスフィッシングが好きなアングラーが来てるんでしょうね。

バスフィッシングのパターンは完全にかわりました。二月2日頃までは北湖のシャローエリアで30cmくらいまでのミニヤクランクベイトなどで数釣れたのが、猛烈寒波の強風と冷え込みの影響で一気にスローになってしまいました。今はやや深い場所ですフトベイトのライトリグがメインです。

ボートが集まっているのは南湖西岸の堅田から名鉄にかけてのエリアで、水深3〜4メートルが中心です。水温が一気に下がったためにバスが深い側へ動いたのが、そのあたりで止まって密度高く集まっているようです。魚は多いんですけど釣り方が難しく、ウィードエリア

の釣りなんですけどピンスポットを釣るつもりでいいねに狙わないと、アバウトな釣りではまったくバスの反応がありません。それぐらい難しい釣りなんですけど、魚はいるから釣るアングラーと釣れないアングラーの差がとてつきつくなっています。

近江舞子は有料駐車場の営業が終わったみたいですが、浜側の駐車場の入り口も開放されています。その意味ではオフなんでしょうけど、バスの岸釣りはこれからはシーズンで、アングラーは大勢来てます。バスが岸近くに集まりだしたっていう情報が、やっと伝わったのかも知れませんが、10日は1週間前の連休中よりも多いぐらいのアングラーでにぎわっていました。

バスの釣れ方は、ちょっとスローなようです。石積み突堤の先端付近の足元には30~25cmぐらいのバスがいっぱい見えてるんですけど、釣れ方はボロボロです。舟だまりの中でエサ釣りをしていたアングラーに聞いたら、「今日はエビのエサでも釣れません」とのことでした。水温が急に下がった影響でしょうか。バスの数は多くなってるみたいですから、これからの天候次第でよくなってくるのかも知れません。と言うか、例年ならまだまだこれからよくなっていく時期ですから、一時的な天候の変化にだまされないように気を付けた方がいいのかもしれないですね。

平日でもアングラーが絶えない近江舞子石積み突堤

琵琶湖ホット情報(2002/11/15)

滋賀県琵琶湖の岸釣りアングラーは平日でも釣りに来てます。「あんたら仕事は、学校は」という気もするんですけどね。ボート釣りの方は休みの日やトーナメントがあるとき

に比較的集中するのに対して、岸釣りの方が平日でもコンスタントです。特にこれからのシーズンには、寒がるつと雪が降ろうと来る人は来てるって感じで、人気ポイントは週末とかわらないぐらいの混み具合になることもめずらしくありません。

11月15日夕方の近江舞子石積み突堤とその周辺には5人のアングラーがいました。突堤の先端でがんばってるアングラーに「釣れますか?」って聞いたら、「ハイッ!!!」ときっぱり応えてくれました。もう1人のアングラーは、「釣れてるのは釣れてるけど30cmまでですね」と言っていました。このところの冷え込みでバスはたくさん集まっているみたいなんですけど、大きいのは少ないんじゃないでしょうか。

石積み突堤の足元には、たくさんバスが見えています。サイズは20cm弱から大きいので30cmぐらいでしょうか。突堤の先端のすぐ沖には、小さなバスがオイカワの子がピチピチと群れて泳いでるのが何カ所も見えます。コンディションがいい日にはバスのボイルも見られそうです。

それと、石積み突堤の南側すぐ横(写真では右側)にもアングラーが1人いるんですけど、ここも釣れてるんですね。バスはブレイクの斜面に付いてて、浜から普通にキャストすればそこまで届きます。もつと寒くなってバスのポジションが深くなったら、浜からは遠投しないと釣れなくなるんですけど、今は石積み突堤の近くの浜からでしたら、そんなに遠投しなくても釣れる範囲にバスはいます。

岸釣りアングラーはバスが釣れてるか釣れてないかという情報をとてよく知っています。ですから、平日の夕方にこれぐらい釣りに来るといことは、よく釣れると判断してい

いのかもしれませんね。あとはサイズがどれくらいまで出るか、いつ頃になったらそこそこ大きいのが釣れるようになるかが問題なんじゃないでしょうか。

琵琶湖の岸釣り好シーズンの連休。南浜は小バスが好調 琵琶湖ホット情報(2002/11/23)

11月23日に開催された中部釣り場とマナーを守る会の第8回クリーンアップ琵琶湖に参加して南浜漁港へ行ってきました。

今年は12月に天皇誕生日がらみの連休がもう1回あるんですけど、一般のアングララーが滋賀県琵琶湖へ気軽に来て釣りができる連休としては、この週末の勤労感謝の日がらみの連休が実質最後になります。その先は寒いですもんね。今月初めの文化の日がらみの連休は後半が猛烈な寒波に襲われて散々だったんですけど、今回は快晴微風のいい天気になりました。そのおかげで大勢のバスアングララーが琵琶湖へ来ています。来年4月から琵琶湖で釣ったバスをリリースすることが条例で禁止されるので、連休のにぎわいとしてはこれが最後になるかもしれません。

南浜の放水路前はアングララーが数日間隔で並んで釣りをしています。釣れるバスのサイズは20cmちょっとまでなんですけど、見る間にポツポツと釣れてました。サイズにこだわらないで数釣るつもりなら、ちっちゃなワームを使えば3尾や4尾は釣れそうです。B.C.C.服部が見てないだけで、粘ればいいサイズも釣れるのかもしいんですけど、聞いて回った範囲では「よく釣れるけど小さい」とのことでした。

ここはワイドがけっこう多いようで、キャロライナリグでもツネキチリグでも使い方をひと工夫する必要があります。飛距離を落とさないと範囲内でなるべく軽いシンカーを使うか、重いシンカーを使う場合はキャロライナリグならリーダーを長くするとか、ツネキチリグもフックから先のラインを長くするとか、何かしないとイケません。中には投げ釣り用のジェット天秤を使って、リーダーを1.5mぐらいにして、それで次々とバスを釣ってるアングララーもいました。もしかしたら、そうやって遠投すれば、ましなサイズが釣れるのかもしれない。水位が低いので、そういうポイントにルアーが届く可能性も考えに入れたい方がよさそうです。

南浜漁港内にも大勢のアングララーがいたんですけど、冬場の最盛期ほどではありません。港内で釣ってるアングララーに聞いたら、「小さいのなら何尾でも釣れる」という返事が帰ってきました。シンカーを小さくしたツネキチリグに2.5gぐらいのワームをセットして、棧橋まわりや岸壁の際を狙えば、20cmぐらいまでのバスが次々と釣れます。見る間に20cmちょっとのバスを釣って、「これは大きい方です」と言っていました。港内には小さいけどバスがたくさんいるみたいですね。

沖側の防波堤から港内へ向かってバイブレーションプラグをキャストしてたアングララーは、30cm弱のバスをキャッチしてました。これぐらいのサイズを狙うとなると、スポットを吟味するか、あるいは手返しの早いルアーで広く探って勝負する必要があるのかもしれない。

上の右の写真でバスをキャッチしたアングララーの後ろに写ってるのはクリーンアップ琵琶

湖のメンバーです。その他大勢のアングラーが、バスが釣れたのをうらやましそつに見てるわけではありませんで、その点諷解のないように……。クリーンアップ琵琶湖については改めてご報告したいと思しますので、そちらをこらんください。

昨日は空いてた近江舞子も、きっと今日は大勢のアングラーでにぎわったことでしょう。せつかく岸釣りでバスがよく釣れるときにうまく連休になってくれたんですから、明日も天気がいいことを祈りたいと思います。楽しく釣りができる間に、皆さんもがんばって琵琶湖のバスフィッシングをエンジョイしておいてくださいな。

クリーンアップ琵琶湖に参加、ゴミはあいかわらず多いぞ 琵琶湖ホット情報(2002/11/26)

11月23日に開催された中部釣り場とマナーを守る会(CFM)主催の第8回クリーンアップ琵琶湖(南浜漁港)に参加しました。当日の琵琶湖は快晴微風の絶好の釣り日和で、大勢のアングラーが詰めかけ、ゴミ拾いをしながら見てる間に何尾もバスをキャッチしてました。

琵琶湖のバスアングラーは昨年から今年にかけて目立って減ってるんですけど、それでも釣りの場はゴミはなかなか減りません。特に今回のクリーンアップは琵琶湖の水位がマイナス90cm近い減水状態の中で開催されたこともあって、水位が高いときに拾うことができなかった水際のゴミをたくさん回収することができました。拾ったゴミの量は、1時間半ほどのゴミ拾いで、前回までよりもたくさん集まったほどです。

空き缶やPETボトルが多かったのは、夏の間捨てられたのが残ってたからでしょうが、

それと、沖からの漂着ゴミもあいかわらずたくさんあります。ゴミ袋にきつちりとまとめた生活ゴミも捨てられてました。これなんかは、わざわざ持ってきて来て捨てたとか考えられませんが、拾うのは袋ごと持って行けば終わりですから手間はかからないんですけど、こういうのを見るとちよつと腹が立ちます。釣りの場がゴミがいつまでたってもなくならない理由の一つがわかったような気がしました。

実際のロープや漁網、木の枝などにラインがからんで、それが大きなかたまりになってます。前回までのクリーンアップのときは水の中で拾うことができなかったのが、減水の今回はそういうラインのかたまりが何力所も見付かりました。こんなの拾い始めるときりがあります。かたまりを一つ回収し終わつたと思つても、そこから何本かのラインが伸びて、あちこちにつながっています。それをたどっていくと、また次の小さなラインのかたまりが見付かります。最後までたどつていこうと思つても、次々とつながってるからきりがありません。一つのかたまりを回収したら、ある程度とこできりを付けて次の大きなかたまりに移らないと、いつまでたっても1カ所から動けないっていう感じです。

根掛かりで切れるラインは、ボイ捨てゴミと違って、釣りをしてる限りどつしても避けられない面があると思うんですけど、これだけひどいと何とかする必要があるんじゃないかと思いました。ソフトベイトに関しては生分解性素材の開発がかなりいいところまで進んでいるんですけど、ラインはそれ以前から問題になりながら、いまだに状況は何もかわっていません。メーカーは本当にやる気があるのかと思つてしまいます。

クリーンアップ琵琶湖は今回が8回目になります。CFMと地元の人達や自治体の担当者、

漁協などの間にはいい関係ができてるんですけど、問題は来年4月以降のクリーンアップをどうするかです。はつきり言って、リリース禁止がどうなるかは、蓋を開けてみないとわかりません。最悪のことを考えたら、誰も条例なんか守らずにバスはリリースするわ、ゴミもあいかわらず捨てるわ、場合によってはそういうマナーのよくないアングララーだけが釣りに来るようになって、地元の人達の感情が一気に悪化するような事態にならないとも限りませぬ。そうなったら、今までクリーンアップをやってきた努力は水の泡です。

そういうこともあるので、主催のCFMとしては、次回以降の開催については慎重に、リリース禁止問題も含めて状況がどのように推移するか見ながら考えていきたいとのことでした。南浜漁港は立入禁止や釣り禁止になってない数少ない港の一つです。そういう釣り場がこれからどうなっていくか、バスを回収するためのイクスが設置されるというのが実際はどんなことになるのか、琵琶湖へ行ったら釣りをするだけでなく、そういうことにもしっかり目を向ける必要があります。これからは目を向けないといけない対象がどんどん多くなってきそうです。

岸釣り好調の近江舞子。最後の数釣りのチャンスか

琵琶湖ホット情報(2002/12/04)

12月4日の琵琶湖は朝から弱い雨がシヨボシヨボと降ったり止んだりしています。気温はそんなに低くなくて、風もほとんどありません。雨さえ止んだら、バス釣りにはやさそうな天候です。

天気がよくなって、バスアングララーは釣りに来てます。杉戸繁伸プロのレポートによると、天気がよかった1日の日曜日は、12月にしてはびっくりするぐらい大勢のバスアングララーが釣りに来てて、バスもけっこうよく釣れてたそうなんですけど、4日朝の近江舞子石積み突堤とそのまわりも20人以上のアングララーがいました。

バスは石積み突堤先端の足元に20cmまでのちっちゃいのがたくさん見えています。突堤の南横の浜の水際から10mくらい沖にも、たくさんの小バスの群れが泳ぎ回っているのが見えまます。見る間に次々と釣れるのは、10cmくらいちっちゃいから20cmまでの小バスばかりでした。それ以上大きいのは、突堤の先端からキャストしてたアングララーが朝のうち何尾か釣ったそうです。状況としては悪くないみたいなんですけど、まだ大きいのは少ないみたいですね。

23くらいまでの小さなワームを使うと、小バスが水面まで上がってきて飛び付いたり、浜の水際まで追いかけてきて食い付くのがよく見えます。活性がすごくぶる高いのは、雨模様で気温が高いからでしょうが、こういう感じでもこそこのサイズが釣れたらいいんですけど、サイズとしては10cmくらいか20cm弱までなので、ちょっと小さ過ぎます。そのかわり、釣ろうと思えば何尾でも釣れる感じでした。

上の右の写真のアングララーはバスをぶら下げただけじゃなくて、手元にもう1尾バスを持ってます。どういうリグを使ってるかは、ちょっと細か過ぎてわからなかったんですけど、このアングララーは2尾ずつバスを釣ってました。それぐらいバスがたくさんいて、よく釣れるという事です。

琵琶湖の水位は2月中旬にいったん上昇しかけたのが、その後また下がり始めて、今はマインス88〜89cmのところではほぼ安定しています。水温は下がり方が一時よりもスローペースになりました。その意味では、ここしばらく水位、水温ともに、いい感じのところでは落ち着いた状態になってます。杉戸プロが分析する通り、数釣りのチャンスがふたたびやってきているのかも知れませんね。

近江舞子舟だまりが好調。石積み突堤のバスはどこへ？ 琵琶湖ホット情報（2002/12/15）

琵琶湖北部に雪が降ったのは12月10日のことです。山間部は10cm前後、彦根や長浜の市街地にも数cmの雪が積もり、琵琶湖の周囲の山は頂上から中腹まで積雪で白く覆われました。寒さはその後も続き、15日になってやっと峠を越しました。

快晴微風の好天になった15日の日曜日、近江舞子には大勢のバスアングラマーが来ていました。岸釣りアングラマーはバスがどこで釣れるかよく知っていて、舟だまりの中は満員、石積み突堤は空いています。舟だまりの内湖からの放水口の前で釣ってた2人連れのアングラマーは、見る間に20cm前後のバスをそれぞれキャッチ。その隣のアングラマーも釣っています。ほんの二分ほどの間に3人で4尾です。2人連れのアングラマーによると、朝からこんな感じで釣れていて、大きいのは35cmくらいだそうです。

石積み突堤では数人のアングラマーががんばってたんですけど、あまり釣れてる様子ではありませんでした。ちょっと前までメタルジグやラバージグでけっこう釣れてたそうなんですけどね。なぜか終わっちゃったみたいで、遠投も足元もいい感じの反応はありません。10日ほど前まで突堤の先端付近の足元にたくさん見えてた小バスは、ぜんぜん見えなくなっちゃいました。

12月に入って琵琶湖の水温はハイペースで下がっています。特にこの5日ほどは下がり方が急で、南湖は7〜8度になり、北湖のボディウオーターも1〜2度になっています。この水温低下の影響が近江舞子のバスの釣れ方に表れているのかもしれないですね。単純に言うと、石積み突堤先端付近の足元にたくさん見えてた小バスがいなくなると、舟だまりの中でよく釣れるようになったということなんですけど、バスの群れが移動したのとは違うような気がします。バスのサイズが違つんですよね。

石積み突堤の足元にいた小バスの群れとは別に、20〜25cmサイズのバスが集まってきたのが一時的にメタルジグでよく釣れて、その一部が舟だまりの中へ入ったのが今よく釣れてる。そう考えられなくもないんですけど、そんなに単純なものかどうか、何とも言えません。それがもし本当なら、石積み突堤の回りに20〜25cmのバスが残っていてもおかしくないんですけど、そんなのぜんぜん釣れません。それと、石積み突堤からキャストしてブレイクの先の水深10m以上の所でそこそこのサイズのバスが釣れるのが、ちょっと前に一瞬釣れただけで、その後はぜんぜんです。

近江舞子の岸釣りは、強い北風が吹くようになって、水温が下がってからはがいよいよ本番なんですけど、この冬はわかり方が極端なんですよね。おそらく、今のままの状態安定するとは思えませんし、現状が現状ですから、いつになったらどうかわるかの予測もきわめて

困難です。舟だまりの中でよく釣れてるのも、いつまで続くか、なんともあてにならない状況です。

滋賀県知事が適当と認めた!? 審議委員・加藤誠司プロ 琵琶湖ホット情報(2002/12/18)

滋賀県琵琶湖レジャー利用適正化審議会の初会合が2月16日に行われます。審議会は「滋賀県琵琶湖のレジャー利用の適正化に関する条例」第23条に基づいて設置された滋賀県知事の附属機関で、県民からの公募と学識経験者、知事が適当と認めた委員により構成され、同条例を実際に運用するにあたっての「基本計画の策定」「レジャーボートの航行を規制する水域の指定」「琵琶湖におけるレジャー活動に伴う環境への負荷の低減に関する事項」などの調査や審議にかかわることになっています。(注 ここで「調査や審議を行う」と書かずに「……にかかわる」と書いたのは、委員が実質的な審議を本当にさせてもらえるかどうかについて、BBC服部は執筆責任を持ってないからです。官僚が作った要綱案に形だけ意見を言わせてもらってそれで終わりにすることも大いにあり得ますからね。ここまでの内容は主に滋賀県の文書を参考に、一部は引用させていただきます)

この審議会の委員にジャッカルに加藤誠司プロが選ばれました。加藤プロは公募委員ではなく、学識経験者でもありませんから、「知事が適当と認めた」委員に該当することになります。バス業界の爆弾男を知事が適当と認めたわけですから、これが面白くなくて何が面白いて言っただけでしょうか。

さっそく加藤プロに会って話を聞いたら、「思い切りやるよ!」って言っていました。来年4月1日からのバスのリリース禁止に向かって、何がどのように決まって、どう運用されていくかということ考えたとき、加藤プロの活動はこれまでがブラクティスのようなもので、これからがトーナメント本番なのかもしれません。バスアングラーにとっても本場の山場はこれからです。そういうときに加藤プロが審議委員に選任されたのは、条例案を作ったときの委員として日本釣り振興会滋賀支部の役員が出たのとくらべれば、大きな進歩だと言えるんじゃないでしょうか。

琵琶湖周辺に積雪。年末年始の釣りに影響必至か!?! 琵琶湖ホット情報(2002/12/27)

12月25日からの寒波で滋賀県琵琶湖周辺は雪になりました。25日夜から26日にかけては、そんなにひどい雪ではなかったんですけど、26日未明からお昼頃までは大粒の雪が止み間なく降り続いて、湖北から湖南までどこもかしこも真っ白です。

急な雪で道路が各所で凍結し、あちこちでひどい渋滞が発生しました。琵琶湖大橋が凍結し午前10時頃までノロノロ運転が続いたため、国道161号と477号は琵琶湖大橋の交差点から何百メートルも渋滞してしまいました。米ブラザから大橋へ向かう車で渋滞で入れず、米ブラザをぐるっと回って大橋をくぐる所まで数珠繋ぎになってたほどです。

BBC服部はバスの岸釣りの様子を見に午前8時頃から国道161号を北へ向かったんですけど、ノロノロ運転は北小松付近まで続いてました。トラックが坂でスリップして動けなくな

つてたり、乗用車が道路脇の溝に落ち込んだり、あちこちでトラブルが発生します。知内漁港に着くまでに7台が事故を起こしました。うちわけは追突が2件で4台、溝に落ちたのが2台、電柱にぶつかっただけか何かの自滅が1台です。

さすがに年末休みの直前にこんなひどい天気になると、アングラーは少ないですね。知内漁港と浜分漁港に2、3人ずつ。大溝の水上警察周辺は0人。近江舞子の石積み突堤は2人だけ釣りをしていたのが見てる前で引き上げてしまって、一瞬0人になってました。舟だまりもヘラブナ釣り師は何人かいたんですけど、バスアングラーはいません。

バスは知内と浜分で小さいのが釣れてました。知内は下野正希プロらがテレビの取材をして、後で聞いた話では、そこそこのサイズも釣れたそうです。浜分は見てる前で15cmあるかないかの小さいのが釣れました。大きいのが釣れる確率は高くないけど、小さいのはたくさんいるようです。知内で釣ったアングラーは、雪の中を滑りながら走ってきて、午前4時に着いたんだそうです。「今日は空いてるぞと思いが、がんばって走って来たら、その通りやった」と言っていました。

大溝と近江舞子はアングラーがいないので様子が変わらないんですけど、近江舞子で数日前に釣りをしたアングラーからの情報によると、あいかわらず舟だまりの中で25cmぐらいまでの小型が数釣れたとのこと。それと、近江舞子で会ったアングラーの話では、湖東の彦根などでも25cmクラスまでなら数釣れるそうです。そのアングラーは、「近江舞子なら大きいのが釣れるかと思って来てみた」と言っていました。

年末年始のお休みを前にした琵琶湖の岸釣りは、けっこういい感じで釣れるようになったところなんですけど、そこへまとまった雪が降ったわけですから、これがどう影響するかが問題です。琵琶湖の水位は、かなりのハイペースで上昇が続いています。つまり、川から流れ込んだり湖岸近くに湧き出してる水が多いということです。そこへ1日や2日降った雪が解けて流れ込んでも、意外と大した影響はないかもしれないし、やっぱり影響はあるかもしれません。そのあたりをどう見極めるかが、年末年始の琵琶湖の岸釣りの勝負所になるかもしれませんね。

下野正希プロ近江舞子で2002年ラストバスニング

琵琶湖ホット情報(2002/12/30)

2002年のインシダイ釣りの決着を着けに三重県尾鷲の梶賀へ通って下野正希プロ、年末の釣りはインシダイをあきらめて琵琶湖の近江舞子へバスの岸釣りに出かけました。12月30日午前の過ぎに近江舞子舟だまりに着いて、1投目にいきなり30cmです。まわりにいたアングラーも、これにはびっくり。熱心に釣り始めたんですけど、なかなか後が続きません。足元には10cmちょっとレベルのものがいっぱい見えてるのにまじって20cm前後のまじなサイズもいるんですけど、そのちょっと大きいのを選んで釣るのが簡単ではないですね。

この日は晴天微風で、日が射してるときは防寒着を脱ぎたくなくなるぐらいの暖かさでした。バスアングラーは年末の間では日曜日だった29日と翌日の30日が一番多かったですね。30日のお昼前で、近江舞子の舟だまりと石積み突堤周辺を合わせて30人以上来てました。その大部分は、ほとんどバスを釣ってません。釣ってるのはごく一部のアングラーだけです。

舟だまりの中にはバスがたくさんいるんですけど、よほど釣り方をうまく合わせないと釣れないようです。

舟だまりの一番奥で釣ってたアングラーは、ちっちゃいのを入れ食いでキャッチしてました。投げたときにアタリがあって、それが掛かるか掛からないかという感じですよ。バスのサイズは10cmちょっとか15cmくらいのが多くて、それに20cm前後がときおりまじるくらいです。25cm前後となるとなかなか釣れません。リグは極小シンカーのツネキチリグかショートスプリットのマスバリリグ、あるいはフックにシンカーをセットするかで、ワームは2匹前後の細身のものを使います。ウイードのちよつと上の中層で細かくシエイクしながらワームを泳がせるのがいいようです。

岸壁の足元のちっちゃいのを狙うんでしたら、極小ワームをセットしたノーシンカーリグを落とし込んでやれば、食うのがまる見えで釣ることができます。釣れるサイズは20cmまでです。お正月に釣りに来て子供を遊ばせるにはいいんじゃないでしょうか。ただし、天気の良い日じゃないと寒いだけかもしれないけどね。

下野プロが釣った30cmは、まさに青天の霹靂みたいな感じで、ほかのアングラーは誰もそんなのを釣ってませんでした。石積み突堤にいたアングラーに聞いても、「ぜんぜんダメ」という返事でした。この分なら、お正月休みの近江舞子は舟だまりでのんびり釣るのがよさそうです。あとは天気がよくなってくれたらいいんですけどね。

正月の琵琶湖は荒天続き。近江舞子のバスは行方不明 琵琶湖ホット情報(2003/01/04)

お正月休みの琵琶湖は寒くて風が強くて、晴れているかと思ったら雪が舞ったり雨が降ったりする荒れ気味の天候が続いています。周囲の山は真っ白です。こうなるとさすがにボートで釣りに出てるアングラーは少ないですね。12月28日の日曜日はトーナメントのプラクティスに出てるボートがかなりあったんですけど、それ以降は激減しています。1月1日からはさらに風が強くなってるため、ボートではちよつと釣りにならない状況です。

そんな中、1日午後南湖の御呂戸川沖でバスフィッシングをしていたボートから2人が転落して、うち1人が死亡するという事故が発生しました。この冬は、いったん天候が荒れると、とんでもない強い風が吹いて大荒れになるので、ボート釣りは特に注意しないといけません。いきなり元日に事故が発生したのは残念なことですよ。

岸釣りは大勢のアングラーが来てるんですけど、風が強いのと雪解け水が流れ込んで水温が下がってるためバスを釣るのは難しいようです。近江舞子は年末まで舟だまり内で小バスがよく釣れたのが、新年が明けてからというものの、ぜんぜん釣れなくなってしまいました。4日に様子を見に行ったら、舟だまり内は水がちよつと濁ってて、岸壁の足元にたくさん見えてた小バスがぜんぜん見えなくなってます。

水が濁ったからなのか、水温が下がったからか、原因はよくわかりません。年末に漁師が網を入れてバスを獲っちゃったという説もあるんですけど、28日のお昼前にたくさん見えてた小バスが正月にいなくなっただけということでは、28日の午後か大晦日に網を入れたということになります。いくらバスがいいお金になるといつても、そんなことするんでしょうかねえ。

舟だまりだけでなく石積み突堤や浜にも大勢のアングララーがいて、全体で8人くらいが釣りをしていたでしょうが。8分ほど様子を見てたんですけど、誰もバスを釣ってませんでした。エサ釣りでも釣れないくらいですから、ちょっとたいへんです。舟だまりの奥の方で釣りをしていたアングララーに聞いたら、「今日はなかなか釣れませぬねえ」と言っていました。ぜんぜん釣れないということはいいようなんですけど、8日に様子を見に行ったらときにくらへるとたいへん釣り難くなってるのは間違いありません。

確かに元日以降の琵琶湖は寒くて荒れ気味の天候が続いてるんですけど、湖西の川尻のウインドエリアでトップで釣れてるなんていう情報もあるくらいですから、舟だまりの中にバスがいるんだつたら釣れてもよさそうなものです。琵琶湖の漁師がバスを獲るために網を入れてるのを見たら、そういう情報こそ携帯電話やインターネットでみんなに知らせないといけません。サーフィンの波情報みたいに、バス漁師の網入れ情報のホームページを誰か作ってくれませぬかねえ。

正月休み最終日も大荒れの琵琶湖南湖

琵琶湖ホット情報(2003/01/05)

お正月休み最終日の1月5日の琵琶湖南湖は、朝から南からの強風が吹いて大荒れになっています。沖合は波が高く、御呂戸川沖で死亡事故があった1日よりもひどいくらいですから、ボート釣りはとても無理です。トーナメントは、やっただですかねえ。岸釣りも湖岸から琵琶湖に向かって吹き込む風が強く、建物などの風裏に入らないと立ってるだけでもた

いへんぐらいいです。風が弱くなるまで釣りは無理ですな。

北湖の風は南湖よりはましなんですけど、局地的に強い風が吹いてる所があります。この風は突風みたいに吹くことがあるので、釣りの邪魔になるだけでなく、タックルや帽子を飛ばされないように注意しないとけません。立っただけでも風にあおられてふらつくことがあるくらいですから、お子さん連れなどは特に注意してあげてくださいね。

この風の中、北海道の苫小牧から福井県の敦賀へ向かった新日本海フェリーがエンジン故障で立ち往生してるそうです。実は御手洗雄一元プロがお正月休みに北海道へ行っていて、3日のジギングはみたらーが来なかったから船が出たしよく釣れたとメンバー全員喜んでたんですけど、なぜか新日本海フェリーで帰ってくるのことでした。心配して電話で聞いてみたら、1日早く4日の夜に帰ってきたんだそうです。みたらーは初めてジギングに行つてハマチを入れ食いしたら、日本中が大雪になって大迷惑したという実績の持ち主です。「新日本海フェリーまで止めた」と言われなくてよかったね、みたらー。

NHKの受信料支払い拒否の理由

琵琶湖ホット情報(2003/01/07)

たった今、NHKの集金人がBRの服部の自宅へ来ました。その集金人いわく、受信料を長い間払わずに貯まってるから払ってくださいとのこと。昨年4月に母親が他界した前後から、ずっと払ってなかったのを集金に来たようです。「NHKを見て受信料を払ってた人は母親で、去年の4月に死んでしまいました」と言つた。「その間の分はいいから、この2カ月分だけ

でも払ってほしい。電波法で払ってもらわないといけないことになってる」と言われました。数分のやり取りの後、結局払わずに帰ってもらったんですけど、その不払いの決め手になったのは次のようなことです。「NHKはバスが害魚だという一方的な報道をしている。そのことが原因の一つになって、今年の4月から琵琶湖で釣ったバスをリリースできなくなってしまい、仕事に大きな影響を受けている。そういう報道をするNHKに受信料を払って、放送を支援することなどできない。バスが害魚だという報道をやめるのなら受信料を払ってもよいが、それが無理ならこの家から受信料を徴収することはあきらめてほしい。もしこの主張に反論があるなら、会長でも役員でもプロデューサーでもディレクターでも記者でもいいから来てもらおうように伝えてほしい。もうしていただけたら、当方はメディア関係の仕事であるから、ネタとして大いに利用させていただく、こう言ったら、集金人はこれといった反論もなく引き上げていきました。

受信料を集めることだけが仕事の集金人にこういうことを言って、それがNHKに伝わることは期待しない方がいいんですけど、何も言わないよりはましかもしれません。大勢が同じことをやれば、ちょっとは影響力を行使できるかもしれませんね。NHKのファンで、受信料はぜひ払いたいという方にはお勧めしませんが、払ってないんだったら、集金に来たときにこういう風に言えば、話が早くすむかもしれませんよ。バスのリリース禁止が3カ月後に迫って悶々とする気持ちが悪くもありません。バスのリリース禁止が3カ月後に迫ることも覚悟の上で引き受けてるはずですよ。まあ、なるべく集金人の個人攻撃にならないように、あくまでNHKに文句を言いたいというスタンスを崩さずに言うのがいいんじゃないでしょうか。

これって、NHKの不買ですよ。不買ってというのは、こういう風には買わない対象となる商品や会社を絞って、はっきりした狙いと主張を持ってやらないと効果がありません。それを集団で大がかりにやったら、不買運動ということになります。Editorial Vol.11でBBC服部は滋賀県でなるべくお金を使わないようにしていると書きましたが、これは滋賀県の経済に寄与したくないから個人的にそうしているだけで、こういうのは不買とは言いません。こんなのを不買と言ったら、本気で不買運動してる人に対して失礼なんじゃないでしょうか。

NHKのようなメディアに対して不買運動を仕掛けたら、それは言論の自由の侵害になるんじゃないかという意見もあるんですけど、受信料の強制徴収でNHKを見ることを強要されているのだとしたら、それこそ思想、信条の自由の侵害というものです。また、受信料の支払い拒否という方法にどれぐらいの効果があるかも疑問です。バスアングラの一部分が支払いを拒否したところで、膨大な支払い拒否者の中にまぎれてしまっただけかもしれませんからね。

ましてやコマーシャル入りで放送されている民放の場合、視聴者にできるのは電話やファックス、emailで意見を言うくらいがせいぜいです。そこで行われている、例えば滋賀の琵琶湖放送の県政とのなれ合いぶりは、兵庫県と神戸市が株主であるサンテレビよりもはるかにあからさまで、見ているこっちが恥ずかしくなってしまうほどです。その放送のスポンサーが滋賀県なら、もちらんのこと税金が使われてるわけなんですけど、それに対して視聴者はいったい何ができるでしょうか。

そのような強い力を持ったメディアとそれを支配する勢力に自分達の意見をぶつけるには、あらゆる手段を使って圧力をかけるしかありません。NHK受信料の支払い拒否は、その手段の一つですから、特に理由もなく払わないというんじやなくて、ここぞというときに自分の意見をはっきりと述べた上で支払いを拒否するのでなくては効果が上がりません。新聞に対しては、購読をやめるんじやなくて、「長い間購読してる者ですが」と言った上で意見を述べた方が聞いてもらえるようです。琵琶湖放送に対しては何が考えた方がいいんじやないでしょうか。そういうメディアとの賢い付き合い方を皆さんもぜひ一度、真剣に考えてみてください。

正月明けの3連休初日はのんびり穏やか

琵琶湖ホット情報(2003/01/11)

成人の日がらみの3連休はまずまずの釣り日和が続きますね。だけど、さすがにお正月休みが明けて1週間後ですから、各地ともアングラーはそんなに多くないようです。今が旬の若狭湾や丹後半島のルアー船も、穏やかで釣りに出られるチャンスなのに空気があります。今なら、ちょっと探せば連休中に乗れる船が見付かりますよ。

滋賀県琵琶湖のバスフィッシングも3連休初日の1月11日はお正月休みの多かつたときよりアングラーは少なめです。それでも岸釣りはそこそこ来ていますが、ボート釣りは本当にバラバラです。南湖の有望ポイントでも数隻ずつボートが浮かんでるだけで、気温が上昇してるし風も強くありませんから、のびのびと釣りができるんじやないでしょうか。ただし、

バスを釣るのは本当に手強いみたいですよ。

近江舞子の岸釣りは、またバスが釣れるようになりました。年末までよく釣れて、それがお正月になったとたん、なぜかバスの姿が見えなくなって釣れなくなってたんですけど、今は舟だまりの中で小さいのなら釣れます。サイズは年末までよりも小さくなってしまったみたいで、35cmがなかなか釣れず、数釣れるのは10cm前後になってしまってます。11日午後2時半頃に10分ほど様子を見てる間に、同じアングラーが10cmほどの20cmほどのバスを釣ってました。ルアーは1匹くらいにちぎったワームのノーシンカーリグです。石積み突堤の方は、あいかわらず釣れてません。

この日、たまたま釣り場の様子を見ていた村上晴彦君と会いました。皆さんに「明けましておめでとございます」とのことです。村上君に聞いても、石積み突堤は釣れてないとのことでした。舟だまりの方は、そこそこのサイズのバスは、内湖からのドンドン落ちから水路にかけて、道路の反対側の岸壁の近くに多いそうです。お正月からこっちは、25cm前後のバスはいないことはないけど、すこくナーバスになって、釣れるタイミングを絞って狙わないと、食わないときはぜんぜん食わないそうです。

村上君は昨日まで和歌山県の野池へ取材に行っていて、明日から関東の方へワカサギ釣りに行く合間の1日に琵琶湖の釣り場の様子を見に来たんだそうです。あいかわらずがんばりますね。下野正希プロや杉戸繁伸プロにも負けない釣り好きの1人ですから、近江舞子で会うのも偶然ではないと思いますよ。

琵琶湖の水位はマイナス60cm台まで上昇して、8日に取水制限が解除されました。例年な

ら水位が上昇し始めるのは1月になってからなんですけど、この冬はそれよりも約1カ月早く、12月中旬からはつきりとした上昇傾向になってます。水温は南湖で年間の最低レベルになりました。北湖の方はボデイウオーターで8度以上あります。北湖の水温がさらに下がるのは、まだこれから先のことで、琵琶湖周辺の積雪が大きく影響します。この冬のバスの釣れ方は例年とかなり違つので、そのあたりのことをよく観察しながら、どこでどんな釣り方をするかを考える必要があります。

3 連休最終日も穏やか。近江舞子はマメバス天国

琵琶湖ホット情報(2003/01/13)

成人の日がらみの3連休最終日の1月13日の琵琶湖は、ときおり日が射す薄曇りで風も大したことなく、まずまずの釣り日和でした。3連休を通じていい天気が続いたのはよかったですね。魚が釣れても釣れなくても……。

近江舞子舟だまりはヘラブナ釣りとハイジャコ釣り、バスアングラーが入りまじって釣りをしています。バス釣りはルアーとエサ釣りが2対1ぐらいの割合で、カップルや子供連れのファミリーが目立ちます。成人の日でも、さすがに晴れ着や羽織袴、スーツ姿の人はいますね。

釣れてるバスはめっちゃちっちゃいですね。数上がってるのは10~15cmもないぐらいのマメサイズです。ちっちゃいワームの尻尾をちぎって1匹ぐらいにしたのを極小シンカーのマスバリリグにセットしたり、マスバリにシンカーをセットしたりリグを使ってるアングラーが見える。バスがいつせいに姿を消したお正月休み頃にくらべると、また戻ってきたのか、どこかに隠れてたのが出てきたのか、姿が見えるようになりました。ただし、サイズは一回り小さくなっちゃってます。10cm前後を数釣ってる間に20cmクラスがまじってたのが、今はなかなかまじりません。エサ釣りなら25cmぐらいまでは釣れてるんですけどね。このサイズをルアーで狙うのは、真冬のボート釣りで30cmオーバーを狙うぐらい難しいようです。エサ釣りで釣れてるといことは、舟だまりの中にいないことはわけですから、村上晴彦君の言うように時間帯や釣り方をよく考えて狙う必要があるのかもしれないね。

石積み突堤はあいかわらず釣れてません。岸からのキャストで届く範囲にもバスはいないようで、沖で釣りをするボートも見かけません。北湖で釣りをしているボートは本当に少なく、ごくたまにバスボートが沖を走ってる程度です。近江舞子で会ったアングラーの話では、知内、浜分、北小松、中浜など湖西の岸釣りポイントはどこもマメバスが釣れてる程度で、いいサイズは出てないようです。

それと、南湖の木浜や矢橋で漁師がバスの網を入れてるのを見たという話も聞きました。近江舞子でも年末に漁師が網でバスを獲ってしまったから釣れなくなったという話があります。ほかの釣り場も含めて、岸釣りで釣れたり釣れなかったりしてる様子を見ると、確かに漁師の網入れの影響と考えれば説明が付くような気もするんですけど、漁師がこのページ

の情報を見て網を入れてるなんてことはないでしょうね。

琵琶湖周辺に積雪。いよいよ厳冬期に突入か!?

琵琶湖ホット情報 (2003/01/16)

1月14日夜から滋賀県琵琶湖周辺は雪になりました。BBC事務所がある大津市今堅田周辺は、15日朝には約10cmの雪が積もって、どこもかしこも真っ白です。雪は15日の夕方まで降り続き、夜になってやっと小康状態になりました。積雪は15cmぐらいになってます。

雪の影響で琵琶湖周辺の道路があちこちでノロノロ運転になったり、チェーン規制が行われたりしてます。湖西道路の真野から志賀までの区間でもチェーン規制が行われ、それを避けて一般道に降りてきた車で国道19号が終日長い渋滞になりました。天気予報によるとこれから天候は回復してくるらしいんですけど、今夜いっぱいには雪が降る可能性があるとのこと、まださらに雪が積もるかもしれません。明日の朝は道路の凍結が心配です。琵琶湖へ釣りに来られる方は、くれぐれも車の運転にご注意ください。

琵琶湖岸は北へ行けば行くほどたくさん雪が積もってます。この雪が解ければ、当然のことながら冷たい水が琵琶湖に流れ込むわけで、水温が下がったり水が濁るなどの影響が出ます。ただでさえ下がってる水温がさらに下がることになるんですけど、港の岸釣りにはかえって好影響があるかもしれません。

特に港内に湧き水が多くて近くに川が流れ込んでるような所では、雪解け水が出ると港内の水温が港外よりも2〜3度以上も高くなる現象が起こります。その結果、港内にバスが集まって、かえってよく釣れるようになることがあります。お正月からこっち、マメバスしか釣れなくなってる岸釣りポイントが、この雪の影響でよくなる可能性があるわけです。厳冬期によく釣れる岸釣りポイントというのは、そういう場所が多いので、これからの釣れ方に注目する必要があります。

県漁連会長らの恐喝未遂事件。メディアの反応に注目!! 琵琶湖ホット情報 (2003/01/22)

滋賀県漁業協同組合連合会長らによる恐喝未遂事件が1月22日午後のテレビニュースと新聞の夕刊でいっせいに伝えられました。滋賀県だけでなく全国レベルで取り上げられたので、すでにニュースや新聞をこらんに持ってご存じ方も多いと思います。

このニュースを見て思うんですけど、これって琵琶湖のことをよく知ってるバスアングラーにとつては別に驚きでもなんでもないんですよね。「やっぱりね」というような感想を持たれた方が多かったんじゃないでしょうか。つまり、県漁連会長と漁協の副組合長や理事らがつるんで、建設業者に対し実際には起こっていない被害を訴えて金を脅し取るつとしたなどというとんでもない事件が、予想の範囲内におさまってしまっぐらいの黒い噂がたくさんあるということです。

今回の一件は、そのうちのひとつがたまたまバレちゃっただけのことだと、そういう受け止め方をしたのが琵琶湖のバスアングラーだけじゃないという事実は、同日付け京都新聞滋賀版の夕刊に掲載された見出しによく表れています。「疑惑の声 以前から」「絶えぬ金品不当要

求」補償各目 漁業関係者に多く、テレビのニュースではここまで言うてませんし、全国の新聞でどう伝えられたかはわかりませんが、さすが京都新聞は地元だけに、よくわかってらっしゃいます。新聞がこれぐらい書くことは、裏には記事にできないようなことが山ほどあるってことです。

それとも一つ、同紙の記事に県水産課の課長補佐のコメントが出ています。

京都新聞滋賀版（1月22日夕刊）からの引用――

また、県漁連の全面的協力を得て外来魚の緊急駆除対策を実施している県水産課の辻章一課長補佐は「まだ詳しいことがわからないから」としながら、「仮に逮捕が事実としても、組織としてはなくあくまで各個人の行為。外来魚駆除の実際の取り組みは、漁業者個々が使命感を持ってやっていただいております、県の政策には影響ない」と語った。

引用終わり――

やっぱり気にしてるんですね、事件が外来魚対策に影響しないかって。そこで必死に影響をなくそうとしてるのが上のコメントなんですけど、これって京都新聞の記者がわざわざこういうことを水産課に聞いたんでしょうか。もし聞いたんだしたら、記者の頭の中には、県漁連会長の悪事から外来魚問題を連想する回路ができてるといいうことになります。でなかったら、恐喝恐喝事件に関してプロの新聞記者がこんなとんちんかんなこと聞くわけありません。普通に考えたら、今回の事件と外来魚問題って何の関係もありませんからね。

つまり、京都新聞のような地元メディアでさえすでに、外来魚問題に関して漁連に後る暗

いところがあるんじゃないかと疑問に思ってるということじゃないでしょうか。できることなら、この先、漁連や漁協の組織と有力な個人の力関係、補償金や助成金などの流れと帳簿処理などもよく調べて記事にしていたら、いろんなことがよくわかると思うんですけど……って言うか、そんなことすでにこ存じですよ。そのことは恐喝未遂事件の記事や見出しの行間からもよく読み取れます。

と、仮定と推測だけでここまで書いたらちよつと飛躍が過ぎるかもしれませんが、一つの事件に対するメディアの反応から、こういういろんなことが読めるということ。さらに詳しいことはEditorial P……。

それにしても、大阪や京都、愛知の知事の所へ協力のお願いに行ったときに、滋賀県漁連の会長じゃなくて副会長と一緒に行ってよかったですね、國松さん。滋賀県民のかけがえない財産であるところの琵琶湖をあずかる立場の県知事として「琵琶湖の漁業は生態系とともにある」なんて堂々とうそぶかれたのを琵琶湖のバスアングラーは忘れもしません。次になんとおっしゃるか、とても楽しみにしておりますので、よろしくご高配のほどを……。

アングラーがとても少ない極寒の週末

琵琶湖ホット情報（2003/01/25）

1月25日の琵琶湖は、雪は大して降ってないんですけど、北寄りの風が強くて寒い1日になりました。こうなるとアングラーは少ないですね。ボート釣りはよほど根性がないと無理です。カートツバーを車に乗って釣りに来たけど、風が強いのでボートを出すのはやめて

岸釣りに変更したアングラーもいたぐらいです。岸釣りも普段の週末の半分以下しか釣りに来てません。

お昼前の近江舞子石積み突堤で釣りをしたバスアングラーは1人だけでした。舟だまりはバスアングラーが2人、ヘラブナ釣り師が2人だけです。その後、午後1時を過ぎた頃からバスアングラーが増えて、一時は3人近くになったんですけど、長続きせず、すぐにどこかへ行ってしまふのは魚が釣れそうにないからでしょうが。それとも寒いから帰っちゃったんでしょうか。

琵琶湖の水位は2日頃から上昇が続いて、内湖から舟だまりへ流れ込むドンドン落ち方は、けっこうな勢いで水が流れています。湧き水よりもドンドン落ちから流れ込む水の方が多くなっているからでしょうか、舟だまりの中の水はちょっと濁ってしまって、小バスの姿が見えなくなっています。

見えなくなっただからと言って、いないことはないと思うんですけどね。バスは誰に聞いても釣れてません。10cm台の小型を何尾か釣ったままじな方で、20cmを越えるサイズになると本当に釣れないようです。ここ何日か雨が降ったり雪が降ったりして、へんに水位が上昇しているのがよくないんじゃないでしょうかね。

釣り場がこんなに空いてると、アングラーの人数よりも釣りをしているのを見てネコの数が多いくらいです。魚がよく釣れるときは、ネコもやる気一杯で1尾でも多く釣れた魚をもらおうとするんですけど、この日は魚が釣れてないから暇そうでした。

琵琶湖で続発する事件の二エースを見て思ったこと

琵琶湖ホット情報(2003/01/26)

今日も琵琶湖の沖では漁船が漁をしてました。寒い中、沖へ出て漁をするのは、本当にたいへんな仕事です。ご苦労さんなことです。こうやって法律や規則を守りながら真面目に漁をしている人達は、きつとくやしい思いをしておられるでしょうね。心中お察します。

「生態系と共存している」はずの琵琶湖の漁師の一部の人達が、またやっちゃいました。「琵琶湖で操業している約300隻の漁船のうち、3割がエンジンの馬力数を実際より小さく偽装し、漁船法と県の漁業調整規則に違反している疑いが強いとして、これらの漁船に対し、任意の立ち入り検査を行う」(京都新聞二エース1月22日からの引用)っていうんですけど、琵琶湖にある漁船のうち約300×0.3=約270隻って言ったら、けっこうな数ですよ。

先日のお喝未事件も、4年も前から滋賀県警に不当要求対策室が設置されてたということなんですけど、漁業調整規則に違反する高馬力エンジンを積んでる漁船がこんな数になるまで本当に気付かなかったとしたら、お役所の目は節穴です。こんなにでっかい節穴が開いてたら、助成金がちゃんと使われているかどうかなんてわかりっこないでしょうね。テレビニュースに写った漁船のエンジンなんか、けっこう古そうだったし、検査なんかはどうなっていたんでしょうか。あるいは、お役所も最初からグルなんじゃないかと、そう思ってる人も少なくないと思います。ぜひ県知事のご意見をうかがいたいものです。

漁業調整規則違反の高馬力エンジンを積んでる漁船が漁をしているところを現行犯で押さえて船長を逮捕したら、これは手が後ろに回る犯罪になります。道交法違反で罰金や免許停ん

て甘いもんじゃなくて、罰金刑や懲役刑を課せられて前科にもなります。「任意の立ち入り検査」なんて言っていないで、今すぐ水上警察の船艇を出して取り締まりをやったらどうなんでしょうかねえ。在来魚の保護のためには、絶対にそうするべきです。なんてことを昨日のテレビで海上保安庁の実録番組を見ながら思ったんですけど、できない事情が何かあるんでしょうか。

さて、ここから先が重要です。外来魚駆除に支出される助成金のことをEditorial Vol.18で書いたんですけど、その後、漁業調整規則違反の記事を見たり、近江舞子へバスの岸釣りの様子を見に行ったりときに沖で漁をしてる漁船の様子を見たりしてるうちに、ふと思いました。漁師が獲った外来魚を助成金で買ひ上げてますよね。これって、最終的には完全駆除が目的のはずですから、どんどん獲っていったら外来魚が減っていったら、そうなる当然だんだん獲れなくなります。漁獲量が減っていったら漁師は今の値段では仕事にならなくなるはずなんですけど、そのときは1kg1000円とかに値上げするんでしょうか。

だけど、値上げてまた獲り続けたら、さらに獲れなくなるから、また値上げしないといけないくなります。そのまま外来魚がいなくなるまでずっと続けていったら、1kg2000円、3000円、5000円、1万円、10万円と上がっていったら、最後の1尾は1億円とかの値段を付けてでも獲らないと完全駆除はできません。あくまで仕事で魚を獲ってる漁師にまかせると、理論的にはそういうことになります。完全に駆除し終わるまでに何10億円かかるのか、何兆円かかるのか、本当にざっとした話でもいいから、見込みをおたずねしたいと思うんですけど、行政や研究者や駆除派の方でどなたか、そんなことを考えたことがありでしょうか。

あるいは、こういうこともかもしれません。ある一定のところまでは漁師に獲ってもらって、そこから先は漁師の仕事としては採算が合わなくなるので、何か別の方法で駆除するとかです。だけど、誰が、どんな方法でやるんでしょうか。完全駆除ということになったら、広い琵琶湖のことですから、労働量を考えてもたいへんな予算が必要になるはず。それでもなんとかしたいというのであれば、今「駆除、駆除」って言うてる人達が駆除釣り大会にきた人達やその他大勢をかき集めて、ボランティアで駆除するなんてのも一つの方法がもしれません。そのための駆除釣り大会の参加者名簿などをぜひ大切に保管されるようにお勧めします。でないと、手が足りなくなったらたいへんでしょうから……。

ボランティアによる外来魚駆除の際には、いい機会ですから、県知事が大阪や京都、愛知へ協力のお願に行ったりときに知事の隣りにおられた環境保護グループ女性代表の方ならびにリリーヌ禁止条例に満場一致で賛成された県会議員の皆さん、県環境課、水産課職員の皆さん、琵琶湖博物館学芸員の皆さんは、ぜひウエイター履いて琵琶湖へ立ち込んで1尾1尾駆除してみてください。そういうことを誰よりも率先してやっていただければ、琵琶湖の自然環境がどんなことになってるか自分の目でしっかり見る事ができますし、自然を大切にすることというのはこういうことなのかと身を持って感じる事ができますよ。ああ、そうか、こういう人達は知事と一緒に立派な船の上で県職員の説明を聞きながら作業の様子を眺めるのでしたね。どうも失礼しました。まあ、そういうことも含めた駆除計画や費用の試算なんてものがあるんです。ぜひ公表していただきたくようにお願ひ申しあげます。

そういう完全駆除に向かっている計画はまだないけど、とりあえず在来種を保護するために、

今できる手段を使って外来魚を駆除するんだということなのかもしれない。だけど、それにして、漁師まかせの駆除がはずれ行き詰まることは間違いありません。そのときにどうするかの計画や見通しもなく毎年何億円もの税金が注ぎ込まれるのは問題です。それぐらいのことをちゃんと説明できませう。完全駆除なんて非現実的なことを言っているのは大嘘つきではありません。

これって、ゼネコンに世間一般より高い値段で工事を発注して、完成したときには最初の計画よりも何倍も予算がかかってたあげく、できあがったものは赤字山積みの高速度道路や売れもしないマンション、水の需要のないダム、飛行機の着陸料がバカツ高いから航空会社に次々と逃げられてる海上空港なんていう公共事業と同じですね。琵琶湖の外来魚駆除を公共事業と考えたら、とてもよくわかるような気がします。琵琶湖のバスアングラーや釣具店、レンタルポート店の人は、公共事業で強制的に立ち退かされる住民だったらまだいいんですけど、言い分を聞いてもらえない上に立ち退き料も出ないわけですから、ある日突然工事が始まって住み家を追い出される野良犬や野良猫と扱いは同じです。ワンワン、ニャーニャーと抗議しても何も聞いてもらえません。

BBC服部がこういふことを考えるようになったのは、今日でもっとも注目を集めてる人物、猪瀬直樹の「日本国の研究」（文春文庫488円）という本を読んだからです。「続・日本国の研究」（同488円）もすぐ読んでみたいと思ってます。どちらも、ちょっと大きな本屋さんだったら平積みになってるから、簡単に手に入ります。

今年の4月1日以降は琵琶湖へ行って釣りをしないで、こういふ本を読んでるっていうのもいいですねえ。大勢のバスアングラーが釣りをしないで、みんな同じ本を読んだら、ちょっと恐い景色だと思っんですけど、バイブルや毛沢東語録に匹敵する何かいい本はないでしょうか。これから作っても間に合うから、いっそのこと地下出版したるかな……。赤い表紙で、タイトルはやっぱり「琵琶湖の研究」か。

世界水フォーラムで琵琶湖の浚渫船は消えるか

琵琶湖ホット情報（2003/01/31）

3月に滋賀、京都、大阪の3府県にまたがって開催される世界水フォーラムの滋賀県でのイベントの概要が発表されました。それによると、フォーラムの分科会がびわ湖ホールと大津プリンスホテルの両会場での21日に、コンサートやミュージカルの上演、パネル展示、シンポジウムなど様々なイベントが行われる水フェアが16～21日に県立体育館、なぎさ公園、ピアザ淡海の各会場を中心に開催されるということです。

3月21日は春分の日がらみの3連休初日で、ワールドプロトーナメントの初日でもあります。4月1日からの外来魚のリリース禁止を目前に、大勢のバスアングラーが琵琶湖に集まるんじゃないかと思うんですけど、そこで一つ見ていただきたいことがあります。浚渫船が南湖の沖にいつも通り浮かんで、琵琶湖の水を茶色く濁らせながら作業してるかどうかです。

2000年4月に大津市での環境担当大臣会合（環境サミット）が開催されたことです。そのときもちょうど田マススターズプロトーナメントが琵琶湖で開催されていました。世界の

主要先進国の偉いさんが集まる会議で、琵琶湖の視察なんかが行われたら、航行規制があるんじゃないかなどと噂してたんですけど、なんとこのとき南湖の浚渫船がきれいさっぱりいなくなっただけです。

そのときの様子は Bassett がかわら版でお伝えしました。上の写真はトーナメント前日の7日に加藤誠司プロのブラクティスを取材中に撮影したものです。赤野井沖なんですけど、いつも大きな顔して南湖の真ん中に浮かんでる浚渫船がいなくなってます。沖の浚渫船だけじゃなくて、赤野井湾内や北山田のテトラの内側で作業してた台船や作業船も見事にいなくなっ、工事の跡形も消えてなくなってます。

世界水フォーラムの新聞記事を見て、環境サミットのときに琵琶湖の浚渫船が消えたことに気付いて、「すごいことするねえ」と加藤プロと話し合ったのを思い出しました。今回の世界水フォーラムはちょうど「E」ワールドの開催週でもあり、バス関係のメディアも琵琶湖に集合するはず。トーナメントの様子だけじゃなくて、こういうこともぜひしっかりと見て帰ってほしいものです。

水位、水温ともに落ち着いた琵琶湖。一発狙いの季節か!? 琵琶湖ホット情報 (03/02/06)

2月4日から5日にかけて琵琶湖南部は日中そんなに寒くなくて晴れ間がのぞいたりしてたんですけど、6日になってまた雪空になりました。北の方はきつと雪でしょうね。1月末から、いい天気の日がなかなかなくて、いかにも冬の琵琶湖って感じの天候が続いています。

この冬は天気よくない日が例年より多いような気がします。

天気がよくないから、平日はバスアングラーがとてもなく、釣り場はガラ空きです。6日正午の近江舞子は石積み突堤に1人、舟だまりに1人、釣りをしないで様子を見てるだけの人が2人、そんな感じでした。見学ネコの姿が見えないのは、魚が釣れてないからでしょうか。

バスはあいかわらず舟だまりの中に小型がたくさんいます。ルアーではなかなか釣れないんですけど、生きエビのエサ釣りなら毎日ほとんど入れ食い釣れますから、コンディションは落ち着いているようです。サイズは10cmちょっとがメインで、大きくても20cm前後までですけどね。石積み突堤はずっと釣れてなくて、アングラーもあまりいません。

琵琶湖の水位は2月に入ってマイナス10cmをちょっと超えたところで落ち着きました。石積み突堤の石畳の隙間が水に漬かっているけど、石畳の上に立って釣りをするのは問題ないレベルです。内湖から舟だまりへ流れ込むドンドン落ちは、一時よりも水量が少なくなってます。水温も下がりが切ったところで落ち着いているし、ちょうどこのあたりが状況の分かれ目かもしれません。これからは浜や石積み突堤で一発狙いが面白いんじゃないでしょうか。ただし、寒くても、ちょっとぐらい釣れなくてもがまんできる根性があればの話ですけどね。

今週末は千葉の幕張メッセで国際釣り博、来週は大阪南港のインテックス大阪でフィッシングショー OSAKA が開催されます。毎年、フィッシングショーの頃になると、琵琶湖で大きなバスが釣れ始めます。下野正希プロが得意のロングビルサスペンドミノーで大きいのを釣って、フィッシングショーのセミナーで「こんなとこ来てたらあかんよ」と憎まれ口をた

たく、あのパターンです。すでにボート釣りで大きいのが出始めてるみたいですから、早めに釣り方を切りかえた方がいいかもしれませんね。

このところジギングばかりやってた杉戸繁伸プロは、8日の土曜日にひさしぶりに琵琶湖へ出て一発大物を狙うそうです。「ヒラマサやメジロ狙いのジギングで、がまんの練習はさんざんしたから、何のアタリもなくても1日釣り続ける自信はある」と言っていました。杉戸プロのレポートをお楽しみに……。

琵琶湖は冬のどん底。平日の釣り場はガラ空き

琵琶湖ホット情報(03/02/14)

今日からフィッシングショーOSAKAですね。だからということもないんですけど、滋賀県琵琶湖はバスアングラーがぜんぜんいません。14日午後3時頃の近江舞子は、舟だまりに1人いただけです。石積み突堤は無人で、駐車場にもう1台いたバスアングラーの車は、BBC服部が到着するのと入れ違いで帰っちゃいました。うーん、これってバスが釣れてないから、だんだんとアングラーが少なくなってるってことなんじゃないか。

そのたった1人、舟だまりの奥の隅っこで釣ってたアングラーに聞いたら、「ちっちゃいのは釣れるけど、20cmオーバーは釣れてない」と言っていました。近江舞子へはよく釣りに来るとのことです。だいたいいつも日中は小さいのばかりで、午後4時を過ぎる頃から20cmオーバーが釣れだして、夕方暗くなったら終わってしまうそうです。ほかのアングラーから同じような話を聞いてますから、これが今の近江舞子のパターンみたいですね。

琵琶湖周辺は9日の日曜日からこつち暖かい日が続いてたんですけど、13日の午後からちよつと寒くなってきました。と言っても、薄めの上着を着てれば手袋なしでも平気なぐらいですから、普通の真冬にくらべたらぜんぜん寒くないんですけどね。比良山から吹き下ろす風が強くなり始めてますから、これから寒くなって週末は荒れるかもしれませんよ。

琵琶湖の水位はマイナス30cm近くまで上昇しました。水温も今週はわずかに上がってます。内湖から舟だまりへ流れ込むドンドン落ちの水の勢いが、一時にくらべるとずっと緩やかにになりました。これは雨や雪解けで流れ込む水の勢いが落ちてることもあるんですけど、本湖の水位が上昇して内湖との水位差が小さくなってる影響が大きいと思います。これで何日か暖かい日が続いたら、舟だまりの中の水温がポツと上がって、それにつられていいサイズのバスが動くということも考えられるんですけどね。南湖で大きなバスが数は少ないけど釣れてるのは、もしかしたらそういうことがもっと大きなスケールで起こってるのかもしれないですね。

今の調子で季節が進んだら、去年に負けないぐらい早く春がやって来る可能性がありそうです。もしそうなってくれたら、リリース禁止になる前にちよつとでもスポニングシーズンの釣りが楽しめるからうれしいんですけどね。

ミノーにグッドサイズ。琵琶湖の春がスタートか!?

琵琶湖ホット情報(03/02/22)

滋賀県琵琶湖は春の釣りがスタートしてます。水深2〜3mのシャローエリアでスピナー

ベイトやミノーに40〜50cm、大きいのは60cm近くあるようなバスがヒットし始めてます。

2月22日の午前中だけフィッシングガイドに出た杉戸繁伸プロのゲストは、40cmオーバのバスをキャッチしました。ルアーはロングビルサスペンドミノーのDDスクワレル7SP。場所は南湖で、この時期の定番中の定番ポイントです。これって、杉戸プロがもっとも得意としている釣りの一つなんですけど、今シーズンはちょっと早めにパターンが進んでるみたいですね。

23日は午前中曇り空で、次第に寒く、風が強くなってきました。午後からは雨です。午前中だけガイドに出た杉戸プロは、うまくやってます。翌23日には「Bトナー」ナメントがあつて、そのプラクティスのポイントもかなり出てました。杉戸プロの報告によると、要所要所に2、3隻ずつはポイントがいたとのことなんですけど、午後は雨に降られて寒かったんじゃないでしょうか。

午後になって雨が降りだしてから近江舞子へ岸釣りの様子を見に行っただけなんですけど、バスアングラーは舟だまりに1人しかいませんでした。ほかにヘラブナ釣り師が2人いただけで、石積み突堤には誰もいませんでした。

近江舞子へよく釣りに行ってるアングラーの話によると、舟だまりはあいかわらずママバスが釣れてるけど、石積み突堤はかなり粘っても何も釣れないそうです。この冬に限ってなのかどうかはわかりませんが、石積み突堤はぜんぜんダメでした。もう2月下旬ですし、南湖のボート釣りは上に書いたような状況ですから、大きいのを狙うんだったら岸釣りもシャローエリアに切りかえた方がいいかもしれませぬ。

南湖東岸の各岸釣りポイントはアングラーがそこそこいて、早くもアシ原に立ち込んでるアングラーもいるそうです。寒い夜に浅い所で釣りをしてるアングラーも少なからずいるそうです。今シーズンは早めにそういう釣りを始めた方がいいのかもしれないよ。

リリース禁止まで1カ月の琵琶湖にバスアングラー戻る 琵琶湖ホット情報(03/03/02)

4月1日からのリリース禁止まであと1カ月というところで、琵琶湖のバスフィッシングがにわかには春めいてきました。大きいのもポロポロ上がってます。上の写真は2月28日に野洲郡中主町のイシツカマリンからバスボートで釣りに出た西山隆規さんがキャッチした50cm、273g。場所は膳所沖で、ルアーはサスペンドミノーだったそうです。

3月2日の「Bトナー」ナメントでも大きいのが釣れてるみたいですね。バスをキャッチした選手の割合も約5%までアップしてます。1日の雨で水位がグッと上昇したし、水温も上がってきてますから、いよいよバスがスポーニングに向かい始めてるのかもしれないね。プラクティス中に40cmクラスをキャッチしたという話を数人のアングラーから聞きました。釣れないと言っアングラーもまだまだ多いんですけど、少なくとも厳冬期のめっちゃ難しい状況から脱してるのは間違いないようです。

3月に入ってバスアングラーも多くなりました。さすがに土砂降りの雨だった1日の土曜日は「トナー」ナメント以外の一一般のアングラーは少なかったですけど、2日の日曜日は岸釣りもボート釣りも目立って多くなっています。近江舞子は石積み突堤に数人、舟だまりにも2人

ぐらいのバスアングラーがいました。2月のアングラーが少なかったときは、誰もいなかったり1人とか2人、多くても5人までだったのにくらべると、はつきりと増えてます。

バスの釣れ具合は、石積み突堤はいかかわらずダメとのことでした。舟だまりはマメの活性が一時よりもアップしてるようです。舟だまりの奥の隅に20cm弱ぐらいまでのが浮いてるのがたくさん見えて、ちっちゃいワームを使ってるアングラーは見てる前で何尾も釣ってました。ドンドン落ちから流れ込む水量が増えて、水温も上がってるので、それがいい方へ作用してるみたいです。ただし、ましなサイズが釣れたという話は聞きませんでした。

レンタルポートのお客さんも急に増えてます。志賀町小野のレンタルポート店ひさの屋は2隻ほどのポートが出てました。2月中は本当にお客さんが少なくて、こんなに来たのはひさしぶりだそうです。釣果は1尾釣れたとか、ぜんぜん釣れないとかで、お天気がよ過ぎたからなのかどうか、思いのほか難しかったみたいです。しばらく前には20cmオーバーを1人で5尾釣ったとか、20cm前後を何尾も釣ったアングラーがいたそうなんですけど、いつもそうはうまくいかないようです。

だけど、フィッシングショーが終わって、3月に入って、休日がいい天気になったら、釣れるかどうかよりも、とにかく釣り場へ行きたくなるんですよ。この春の琵琶湖は、早いタイミングで大きなバスが大挙して浅い所へ押し寄せて来そうですから、ギャンブルのもりで早めに動くのは正解だと思いますよ。

春とは名ばかり。3月に吹雪の琵琶湖

琵琶湖ホット情報(03/03/09)

滋賀県琵琶湖は雨が降ったり雪が降ったり風が強かったりで、めっちゃ寒い日が続いています。3月8日は琵琶湖開きだったというのに、春とは名ばかりです。9日はさらに寒くなって一部では吹雪になりました。まわりの山は真っ白です。

こうなると、さすがにバスアングラーは少ないですね。午前中の近江舞子は石積み突堤に2人、舟だまりには1人しかいませんでした。石積み突堤のアングラーは、ぜんぜん釣れないと言っていました。舟だまりのアングラーは、まだ釣り始めたばかりとのことだったんですけど、横なぐりの雪が降る中でちよっとつらそうです。

午後3時頃から、今度は琵琶湖大橋を渡って南湖東岸の赤野井湾や下物周辺を見て回ったんですけど、岸釣りアングラーはどこにもいません。朝から風が強くて雪も降ったりしたので、釣りに来たアングラーも帰っちゃったのかもしれないけど、中主の吉川漁港でやっとアングラーの姿を見付けました。吉川漁港では数は多くないけどバスが釣れてて、サイズもちよっと大きくなって25cm前後が釣れるようになったとのことでした。

ポート釣りはZBCチャプター湖南トーナメントが開催されたため、寒い中をそこそこ釣りに出てがんばってました。名鉄沖は、かなり沖の方に浮いてるポートが多くて、岸寄りの浅い所で釣ってるのはわずか2、3隻です。まだバスのポジションがそのあたりなんです。うね。レンタルポートは天気がよかった2日の日曜日にくらべると半分以下です。今のところ、アングラーが増えてきたとは言っても、バスフィッシングが本当に好きな人達が主体で、

手軽に釣りに来るタイプのアングラーはまだ少ないみたいですね。

3月に入ってからというものの、強い雨がたびたび降って、琵琶湖の水位は急上昇しています。1週間前とくらべて20cmくらい上昇していますから、琵琶湖の面積を考えればすごい増え方です。これでいよいよスポーニングと言いたいところなんですけど、あまりにも急に水位が上昇したことに加えて、寒い日が続いているため、水温は下がり気味になっちゃってます。ここらあたりで雨が止んで、天気がよくて暖かい日が続いてほしいところです。そうだったらいよいよシャローの釣りが本格化するんじゃないでしょうか。

ニュースステーション琵琶湖特集放送延期の理由

琵琶湖ホット情報 (03/03/17)

3月11日夜放送のテレビ朝日ニュースステーションが、滋賀県琵琶湖の外来魚問題を取り上げる予定だったのが、急きょ延期されました。予告を見る限り、今までに何度もあった特にとつてことない類型的範囲を出ない内容のはずだったんですけど、その中に例によって滋賀県漁連青年会長が出てきて、インタビュアーに答えておられるシーンがあったそうです。(注 B.C.服部が使ってるパソコンはアップルのPowerBookG4で、WindowsMediaPlayerはインストールしてないので、予告編を見ることができません。ですから、青年会長が出てたというのは見た人から聞いた話です)

この人って、滋賀県漁業調整規則第8条の制限を越える高馬力エンジンを自分の船に積んだのが水産課による立ち入り検査で見付かり、漁船登録の取り消しとアコ沖すくい網漁の認可取り消しをくらって、現在操業できない状態に追い込まれてるんですよ。そのことは滋賀県水産課が認めています。法律を無視して魚を獲った漁業者に、外来魚がどこのこののなんて言う資格があるのかって、もし本当にニュースステーションの特集に姿を現したらテレビ朝日に抗議するつもりだったんですけど、その前に放送延期になっちゃいました。

予告まで流してた特集の放送を延期するぐらいですから、よほどの事情があったはずなんですけど、イラク攻撃が間近にせまってるのに、琵琶湖の外来魚問題なんかやってる場合じゃないってことなんじゃないでしょうか。同番組のメインキャスターのコメントでは、延期は放送時間の関係で、近日中に放送することとしたから、まあそういうことなんじゃないかな。県漁連の青年会長がやばいことしたから延期したなんて、もし本当だったとしても言えるわけありません。なぜ延期したのかと局に電話して聞いても、番組内で説明した通りですとか答えてもらえないはず。本当に電話した知人の話では、特集はできあがってるから必ず放送しますと電話で応対した女の人がきっぱりと言い切ったそうです。それなら楽しみに待ってまじょうか、抗議するときのセリフをよく考えながら……。

それにしても、特集の予告に出たという琵琶湖のお魚の先生は、こんな漁業者と一緒に話にされていいんじゃないでしょうかねえ。その点、どう考えなんですか。あるいは同類だから何も感じないとか……。本当に近日中に放送するとしたら、青年会長はそのまま出てくるんじゃないか。それとも完パケを今から作りかえるんですけど、それもたいへんですよね。だけど、それにしても、裏で何やってるかわからない漁業者のお相手をいつまでもしてたら、それこそ沢ダイオキシン野菜報道の二の舞になっちゃいますよ。テレビ朝日さんには、老

婆心ながら、「ご忠告申しあげる次第です。

とりあえず、特集の放送を楽しみにしています。青年会長が出てくるシーンをカットしたらカットしたで、言いたいことは思い切りありますから。それと、これから先、他のテレビ局や新聞などがこの漁業者のことをどう扱うかがとても楽しみになってきました。

アメリカのイラク攻撃と外来魚リリス禁止の共通点

琵琶湖ホット情報(03/03/20)

3月20日正午前にアメリカを中心とする米英豪連合軍によるイラク攻撃が始まりました。日本はアメリカの行動を支持するが攻撃には参加しないと小泉総理大臣は言ってるんですけど、海上自衛隊のイージス艦や補給艦がインド洋西海域に出動しています。日本国内のアメリカ軍基地から出動してる艦船や航空機もいて、日本はそれを支えるために毎年多額の予算を支出しています。つまり、支持するかしらないか、攻撃を手伝うか手伝わないかなって議論をしているのは日本の国会とメディアだけで、日本はすでに戦争に参加している状態なわけです。ブッシュアメリカ大統領は自国民に対してそのように説明してるはずですよ。

そういう背景があるから、小泉総理大臣は誰から何と言われようとアメリカ支持の姿勢をかえなかったんじゃないでしょうか。その裏には、ブッシュ大統領との間で選択肢のない何らかの約束があったとしか思えません。つまり、現在の日本が置かれている立場は、上のイラストのようなものじゃないでしょうか。

今回のイラク攻撃に突き進んだアメリカのやり方は、あらゆる反対意見を無視し、民主

義のルールを破ってリリス禁止条例を押し通した滋賀県の手法にそっくりな気がします。そんな滋賀県の言い分を飲んで、バスを駆除するトーナメントを開催するなんて言ってるトーナメント団体は、上のイラストのアメリカに対する日本の立場と同じですね。滋賀県の作った枠組みの中に入り込むことで自分達がおいしいめをできればそれでよい、一般アングラーのことなんかどうなってもよいという判断を下したわけですね。

それで琵琶湖のバスフィッシングがどうなるかということとはEditorialで近いうちに書きたいと思います。戦争のことは専門家である軍事アナリストの小川和久さんや軍事評論家の江畑健介さん達におまかせして、BBC服部はあくまでバスフィッシングの方でがんばりたいと思いますので、どうかお楽しみに……。

世界水フォーラムで南湖の浚渫船が消えた

琵琶湖ホット情報(03/03/22)

1月31日のBBCホット情報で予想した通り、琵琶湖南湖の浚渫船は世界水フォーラムのイベントを迎えて、きれいさっぱり姿を消しました。2000年4月の環境サミットのときと同じです。湖上で大きなイベントがある度に隠すことは、よほど一般市民やメディアの人達、さらには世界の人達に見られたくないんでしょうね。

上の写真はしばらく前に撮影したものです。こういう風に、普段は一般市民が湖上に目を向けてないのをいいことに、浚渫船が南湖のあちこちに浮かんで琵琶湖の水を茶色く濁らせながら湖底を掘り返してます。そのことはバスアングラーがよく知ってます。

毎日のように高速の調査船で大波を立てながら琵琶湖を走り回っている琵琶湖研究所の先生方は、こんな誰が見てもわかることに気が付いてないんでしょうか。気付いてないとしたら役立たずの大バカ者ですし、知ってて知らないふりしてるんだとしたら悪党です。南湖の浚渫はもうすぐできなくなると言われてるんですけど、もうすぐなんて言っていないで今すぐやめるべきです。それを言わない人達が外来魚について口やかましく言つのは、漁業調整規則を守らずに魚を獲ってた魚業者が在来魚の保護なんて言うのと同じです。そんなことで琵琶湖の環境なんか守れるわけありませんよ。

3月22日には世界水フォーラムに合わせたイベントとして漁船のパレードが行われました。例の琵琶湖独特の精悍な白い船体の漁船が、いつになく行儀よくおとなしく走っています。確か、漁業調整規則に違反する高馬力エンジンを積んだことがバレて、立ち入り検査で引っかけた登録を取り消された漁船が多かったはずなんですけど、どうやって数そろえたんでしょうか。なにしろ立ち入り検査が始まった1月末以降は、漁に出る漁船がガタ減りして、湖上がとても静かになっただくらいですからね。

これには裏話があつて、漁船の整備をしている工場で書類を山積みにして大急ぎで登録の手続きをしているのを見たという話を聞いてます。そういうことをして間に合わせたんですね。ということは、漁船登録をするのは滋賀県の水産課ですから、水産課もそれを手伝ったか、協力したか、あるいはしぶしぶでも登録を認めたということになります。

こういう漁業者やお役所のメンタリティーって、とても理解できません。悪いこととして漁船登録を取り消されたんだしたら、パレードなんか辞退するのが常識ですよ。そういうことを考えもせず、大きな顔して出てくるということは、悪いことなんかしてないと居直ってるか、あるいは辞退することさえもできないほど立場が悪くなっちゃってるということなんじゃないでしょうか。つまり、辞退したらしたで、なぜかと聞かれたときに答えられないとか、そういうことです。自分達の都合の悪いことに蓋をし続けて、嘘に嘘を重ねてきたのが、ついにここまで来ちゃったかという感じです。

22、23日には県主催の外来魚虐殺大会も開催されています。県が付けた名称は「駆除釣り大会」とか言うらしいんですけど、魚釣りっていうのは、小さな魚は逃がすというようなマナーも含んだ遊びです。大きな魚も小さな魚も何でもかんでも殺すのは釣りとは言えません。やっつてゐることは魚釣りに見えるかもしれませんが、中味と精神は大違いです。皆さんが楽しまれているバスフィッシングと、こういうバカげたイベントを一緒にされたくありませんよ。ね。ですから、虐殺大会と言いかえるのが適当かと思えます。

テレビのニュースで見たら、小さなブルーギルが2尾だけ写ってました。釣れなかつたみたいですね。普通のバスアングラーとはまったく違う家族連れとかが護岸に並んで釣りをしている様子が写ってたんですけど、これも知ってる人が見たらいかにも苦しまぎれです。こういうことを考える人達に、キャッチアンドリリースのことなんか理解できるわけありません。テレビのインタビュアーに答えて「釣りをしてる方にもご理解いただいて……」なんて言うてる國松滋賀県知事の言葉が空々しいつらありませんでした。

世界水フォーラムに合わせて琵琶湖で開催されたそんなイベントのことを伝えるびわ湖放送のニュースに出てたのは國松県知事だけでした。普通はもうちょっといろいろな人が出てく

ると思うんですけど、捕まるやつは捕まっちゃうし、摘発されるやつは摘発されちゃうし、逃げるやつは逃げちゃうしで、きつとこんなあほらしいイベントのインタビュに答えるのは知事ぐらいしかいなくなっちゃったんでしょね。そう言えば、メディアの取り上げ方もずいぶん冷ややかになってますし、本当にお気の毒な限りです。だけど、これぐらいでは終わりませんよ。本当にリリース禁止が始まるのは、まだこれから先のことです。4月1日まではあと10日。その間に、せいぜい覚悟しておいてくださいな。

リリース禁止前最後の3連休の琵琶湖は意外と平穏

琵琶湖ホット情報(03/03/24)

琵琶湖は春分の日がらみの3連休の滋賀県琵琶湖は、バスアングラーがどっと繰り出すかなと思っただんですけど、意外とそうでもありません。あちこちでトーナメントがあったり、いろんなイベントが開催されたりで、一部はにぎわってたんですけどね。それ以外の岸釣りポイントには空いているし、ボートも特別多いというわけではないし、リリース禁止前の最後の連休には何事もなく過ぎたって感じですよ。一般のアングラーはリリース禁止になる前にしらげちゃってるのかもしれないな。

あいかわらずボートが多かったのは南湖の浜沖です。先週の(日)トーナメントから状況があまりかわってないようで、ここしか釣れないという感じでボートが密集してます。釣れるポイントが岸から近いので、岸釣りアングラーも大勢集まって、ボートと岸から狭み撃ちしてます。それでも釣れてるから、すごいですね。名鉄沖はボートが多くなって、主に沖の方で釣りをしています。一部、岸にくっついて釣ってるボートもいるんですけど、まだ本格的ではないようです。

岸釣りアングラーは一部を除いて普段の休日並みです。岸から大きなバスが釣れるようになるには、まだちょっと早いかなくて感じですね。(日)正午前の近江舞子は、舟だまりに5人ぐらいアングラーがいました。釣れてるのは10~20cmのマメです。石積み突堤は誰もいません。(日)午後の吉川漁港は5人のアングラーがあっちへ行ったりこっちへ行ったりしながら釣ってました。「寒くて釣れない」と言いながらがんばってるのは、たまに30cmぐらいのが釣れるからなんですよ。だけど、こども1週間前よりスローになってる感じですよ。やっぱり寒さがこたえてるのかもしれないな。

大津市今堅田のリリースではマリーナメンバーとレンタルボート対象のオープントーナメントが(日)に開催されました。約60人の参加でバスを釣ってきたのが(日)人。ウエイイン率(%)以上の上々の成績です。大きいのは2匹、オーバー2尾と1匹、オーバーは何尾もキャッチされてました。一つ間違ったらオーフィッシュで終わることも多い今の時期にこれだけ釣ってるのは立派なものです。

去年の今頃、天神川のサクラ並木はもう散ってたんですけど、今年はまだやつと三分咲きになったばかりです。去年にくらべて(日)日以上遅れてるんですけど、これで平年並みか、平年よりちょっと早いぐらいでしょうか。3月中旬から寒い日が続いて、サクラの開花が足踏みしてるんですね。おそらく、これから暖かくなったら一気に咲くんじゃないでしょうか。

バスフィッシングのパターンも現在足踏み中なんですけど、サクラと同じで水温がグッと

上がったら一気に浅い所で釣れるようになるかもしれません。リリース禁止前の週末は残り1回。大きなバスが釣れ始めるのが早いかな、リリース禁止になるのが早いかな、タイミングがとても微妙になってきました。